

# 自己点検・評価報告書

平成17年7月

千葉経済大学短期大学部



## 千葉経済大学短期大学部の特色等

### 1 千葉経済学園の沿革

昭和 8年	創立者佐久間惣治郎氏、私立寒川高等女学校の設置者として加入、校長に就任
昭和 9年	千葉女子商業学校（乙種三年制の県下唯一の女子商業学校）を設立
昭和20年	戦災のため校舎全焼
昭和21年	千葉市轟町に移転
昭和23年	新学制施行に伴い新制千葉女子経済高等学校となる
昭和26年	私立学校法施行に伴い学校法人佐久間学園となる
昭和29年	千葉経済高等学校と改称、男子部を新設
昭和40年	学校法人千葉経済学園と改称
昭和43年	千葉経済大学短期大学（商経科）設置
昭和46年	学園附属なでしこ幼稚園設置
昭和63年	千葉経済大学設置
平成 5年	千葉経済大学大学院経済学研究科（修士課程）設置

### 2 千葉経済大学短期大学部の沿革

昭和43年	千葉経済短期大学（商経科）設置
昭和52年	初等教育科設置
昭和59年	別科経営情報専修設置
昭和62年	別科経営情報専修を商経科経営情報専攻に改組
平成 5年	千葉経済大学短期大学部と名称変更 商経科経営情報専攻を経営情報科に改組
平成15年	特色GPに「こども造形教室」の取組が採択される。
平成16年	商経科、経営情報科をビジネスライフ学科に、初等教育科をこども学科に改組
平成17年	特色GPに教育実習記録集「ひろはら」の取組が採択される。

### 3 所在地、周囲の状況

所在地 千葉市稲毛区轟町 4-3-30

位置図 別紙のとおり

周囲の状況

千葉市のほぼ中心部に位置する静かな文教地区であり、周辺には千葉大学をはじめ公立の小・中学校がある。JR 西千葉駅及び千葉都市モノレールの駅が至近にあり、千葉駅や幕張新都心への交通も至便である。

高度の都市機能と豊かな自然環境を兼ね備えた地域である。

4 法人理事長、学長の氏名、連絡先、略歴

理事長 佐久間 勝彦 (さくま かつひこ)

(略歴)

生年月日 昭和19年12月17日生 (60歳)

学歴 昭和43年3月 早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業

昭和45年10月 早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻修士  
課程修了

職歴 昭和51年4月 千葉経済短期大学専任講師採用

昭和54年4月 同 助教授

昭和61年4月 同 教授

平成2年4月 同 初等教育科学科長

平成2年6月 同 副学長

平成6年4月 千葉経済大学附属高校校長

平成10年4月 千葉経済大学短期大学部学長

平成16年7月 千葉経済学園副理事長

平成17年4月 同 理事長

社会における活動状況

日本私立短期大学協会常任理事、関東私立短期大学協会副会長、

千葉県道德教育推進会議議長、千葉県学力向上推進委員会副会長等

賞罰 なし

(連絡先) 〒263-0021 千葉市稲毛区轟町4-3-30

電話番号 043-255-3451

学長 佐久間 勝彦 (さくま かつひこ)

略歴等省略

5 ALOの氏名、連絡先、略歴

氏名 池田 宏樹 (いけだ ひろき)

(略歴)

生年月日 昭和12年11月15日 (67歳)

学歴 昭和35年3月 千葉大学文理学部史学科卒業

職歴 昭和35年4月 千葉県立木更津第二高校教諭

昭和38年4月 千葉県立東金商業高校教諭

昭和43年4月 千葉県立千葉高校教諭

昭和63年4月 千葉経済短期大学助教授採用

平成7年4月 千葉経済大学短期大学部教授

平成14年4月 同 商経科学科長

平成16年4月 同 ビジネスライフ学科学科長

社会における活動状況

利根川文化研究会会長、歴史学研究会、千葉歴史学会、地方史研究協議会、  
千葉県袖ヶ浦市文化財審議委員等

賞罰 なし

(連絡先) 〒263-0021 千葉市稲毛区轟町4-3-30

電話番号 043-255-3451

FAX 番号 043-252-6050

e-mail ikeda@chiba-kc.ac.jp

6 過去7年間の学科、専攻の改廃、入学定員の変遷の状況

平成12年4月	商経科第1部190人、第2部80人	経営情報科100人	初等教育科100人
平成13年4月	商経科第1部180人に削減	〃	〃
平成14年4月	商経科第1部170人に削減	〃	〃
平成15年4月	商経科第1部160人に削減、第2部廃止	〃	〃
平成16年4月	商経科、経営情報科を統合しビジネスライフ学科に改組200人		こども学科に改組150人

7 現在の学科ごとの入学者数、定員充足率(平成17年5月1日現在)

学 科 名	入学定員	入学者数	充 足 率
ビジネスライフ学科	200名	191名	0.96%
こども学科	150名	196名	1.31%

8 過去3年間の入学者の出身地別人数及び割合(各年度5月1日現在)

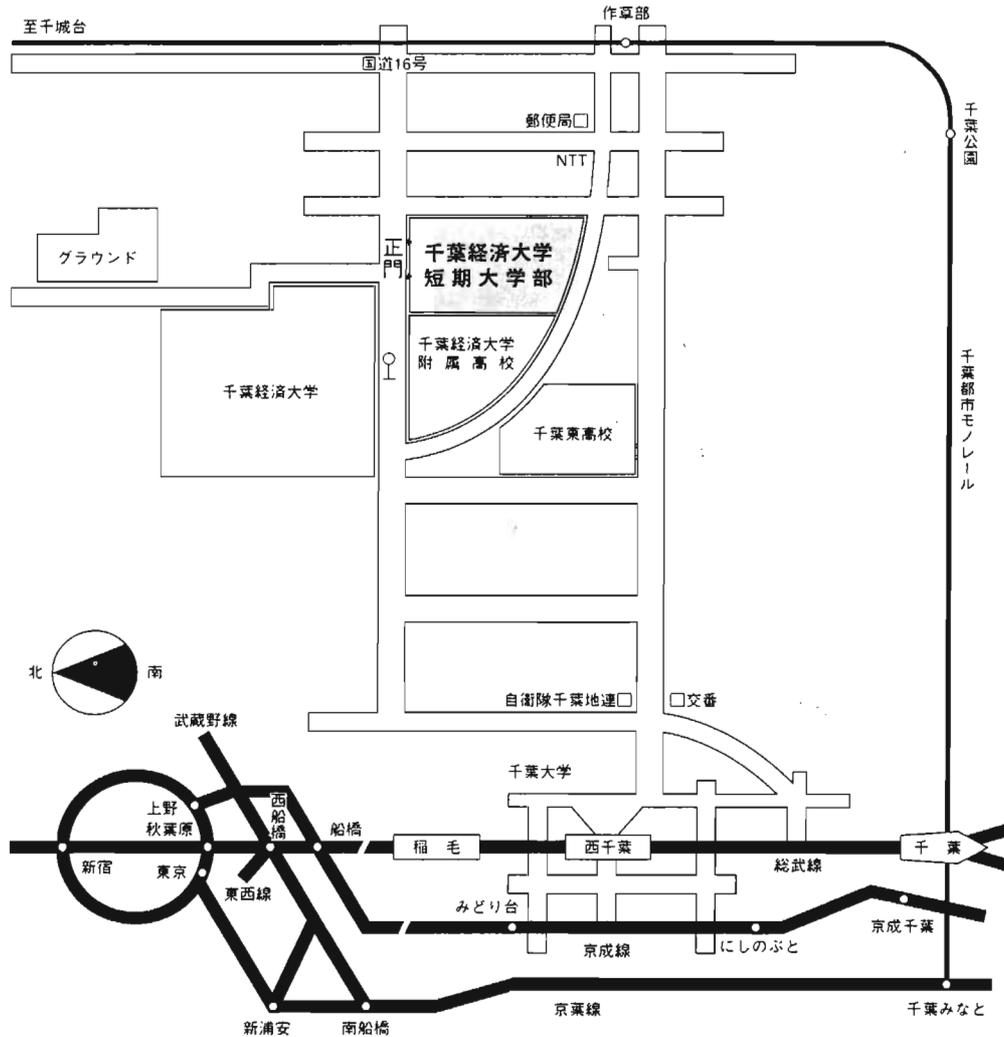
出 身 地	平成15年度	平成16年度	平成17年度	備 考
千 葉 県	297名 (76.7%)	342名 (84.5%)	328名 (84.7%)	
第1学区	45	108	89	千葉市
第2学区	59	54	63	船橋市、市川市他
第4学区	51	49	58	成田市、佐倉市他
第6学区	21	24	19	東金市、山武郡他
その他学区	121	107	99	柏市、君津市他
東 京 都	37 (9.6%)	28 (6.9%)	20 (5.2%)	
その他道府県	53 (13.7%)	35 (8.6%)	39 (10.1%)	
合 計	387	405	387	

9 千葉経済学園が設置するほかの教育機関の所在地、入学定員、収容定員、実員

(平成17年5月1日現在)

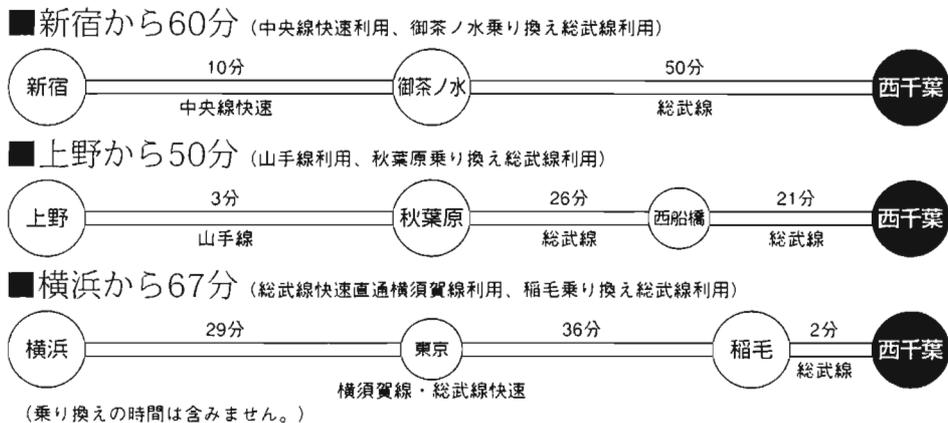
区 分	所 在 地	入学定員	収容定員	実 員
千葉経済大学	千葉市稲毛区轟町 3-59-5	250名	1,000名	1,190名
千葉経済大学附属高等学校	千葉市稲毛区轟町 4-3-30	660	1,980	1,684
千葉経済大学なでしこ幼稚園	千葉市美浜区幸町 2-17-3	200	390	58

別紙 位置図



JR総武線・西千葉駅下車徒歩13分  
 西千葉駅からちばシティバス・千葉経済大学バス停下車徒歩0分  
 千葉都市モノレール・作草部駅下車徒歩5分

交通案内図



## 目 次

I	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	1
1	建学の精神・教育理念について	1
2	教育目標・教育内容について	2
II	教育の内容	4
1	教育課程について	4
III	教育の実施体制	14
1	教員組織について	14
2	教育環境について	16
3	図書館について	19
IV	教育目標の達成度と教育の効果	22
1	単位の認定について	22
2	学生の卒業後の評価について	30
V	学生支援	38
1	入学に関する支援について	38
2	学習支援について	42
3	学生生活支援体制について	44
4	進路支援について	47
5	多様な学生に対する特別な支援について	51
VI	研究	53
1	教員の研究活動について	53
2	研究活動活性化のための条件整備について	55
VII	社会的活動	59
1	社会活動への取り組みについて	59
2	学生の社会的活動について	61
3	国際交流への取り組みについて	62
VIII	管理運営	65
1	法人組織の管理運営体制について	65
2	教授会の運営体制について	68
3	事務組織について	70
4	人事管理について	73
IX	財務	74
1	財務運営について	74
2	財務体質の健全性について	76

3	施設・設備について	78
X	改革・改善	79
1	自己点検評価について	79
2	自己点検評価における教職員の関与について	79
3	第三者評価について	80

【添付資料】

- 1 平成 17 年度科目別授業形態、必修・選択別単位数、教員配置、履修者一覧
- 2 平成 16 年度科目別成績評価一覧（授業科目・クラス別）
- 3 平成 15～17 年度入試結果
- 4 平成 14～16 年度専任教員の研究実績表
- 5 平成 14～16 年度地方自治体の審議会、学術団体役員等への参加状況

# 千葉経済大学短期大学部 自己点検評価報告書

## 評価領域 I. 建学の精神・教育理念及び教育目的・教育目標

### 評価項目 1. 建学の精神・教育理念について

#### (1) 建学の精神について

千葉経済学園は、昭和8年に佐久間惣治郎により創始された。旧制県立高等女学校の校長であった創始者は、知育偏重で道德教育を軽視していた当時の教育の現状を深く憂い、理想の教育を行うため自ら私学を興し、自主性と創意及び生徒に対する愛情と個性を尊重した徳育重視の教育を目指し、「片手に論語、片手に算盤」の校訓を掲げた。

人としての倫理や道德を養いながら、「算盤」に象徴される、職業人として自立できる「職業に結びつく技術」を備えさせる教育の重要性を強く打ち出したのである。

この確固とした明確な建学の精神は、学園全体としての教育の理念として脈々と受け継がれ、短期大学部においても太いバックボーンとなっており、入学式等様々な機会に理事長や学長から、学生のみならず教職員に対しても伝えられ、また、パンフレットや『千葉経済学園50年史』、『同60年史』等の様々な印刷物、出版物によっても明確に示され、伝えられている。

#### (2) 教育理念について

上記のような建学の精神に基づき、昭和43年に設置された千葉経済短期大学（当時）の校是は「良識と創意」と定められた。

民主主義を支える国民として必須の健全な倫理観に裏打ちされた良識と、社会、経済の発展をもたらすために必須な独創性や創意を育むことが本学の教育理念であり、本学の大学運営、教育の支柱となっている。

## 評価項目 2. 教育目的・教育内容について

### (1) 各学科の教育目的、教育目標について

#### ① ビジネスライフ学科

ビジネスライフ学科は、商経科及び経営情報科を統合・改組して平成 16 年 4 月に設置された。前身の商経科は昭和 43 年に、経営情報科は従来の商経科経営情報専攻を改組し、平成 5 年に開設されたものである。

商経科は「良識と創意」という短期大学の校是のもとに、良識ある職業人、常に新しいものを生み出す能力を持つ職業人の育成を目的として、経済学、経営学、簿記会計等の科目を重点的に配置し、実務に活用できる実学教育を旨とし、変化の著しい経済社会の推移に対処できる能力と人格の育成を教育の目標とした。

また、経営情報科は社会の情報化の急速な進展に伴い、コンピュータソフトウェアに関する知識と技術を兼ね備えた有為な人材を育成することを目的とした。

その両学科を統合・再編したビジネスライフ学科は、従来の両学科の教育内容を更に発展させ、生涯学習、社会福祉、IT 化の進展等変化の著しい社会において、実務能力を有するとともに、熱意、意欲、行動力、実行力、協調性や人間性を兼ね備えた人材を養成することを目指している。

今日、学生の卒業後の進路選択はきわめて多岐なものとなってきたため、様々な進路選択を可能とする総合的で多様な教育を行うことが必要不可欠となっている。

自己のライフプランを自ら築くことの出来る力を備え、ビジネス界で活躍することの出来る知識や技術、及びどのような状況の中でも自己を見失わず的確に対応できる人間性を育むため、(ア) 大幅な自由選択制を取り入れた多彩なカリキュラム、(イ) 充実した IT 教育、(ウ) 種々の資格が取得できる教育内容、(エ) インターンシップ制度の導入、(オ) 1 年次からの少人数ゼミの開設等の特色ある教育を展開している。

#### ② こども学科

こども学科は昭和 52 年に開設した初等教育科を改組し、平成 16 年 4 月に開設された。

初等教育科は、急激に人口が増加し、小学校、幼稚園教諭が著しく不足していた地域のニーズに応え、単に教育や教科についての知識や技術を身に付けることはもちろんのこと、教育実践力に富み、こどもの豊かな可能性を引き出す力量を備え、一人一人のこどもと真剣に向き合うことの出来る教員を養成することを目的とした。

初等教育科を改組したこども学科においては、従来の幼稚園、小学校の教諭に加えて、保育士の資格を取得できる保育コースを設置し、こどもについて乳児期から学童期まで幅広く学び、実践力と人間性の調和した有能な教員、保育士を養成することを目的としている。

カリキュラムにおいては、音楽、造形、体育などの実技科目も重視するとともに、「こ

ども造形教室」等において多くのこどもたちと触れ合うことを通じ、深いこども理解を身に付けた実践的な能力のある人材の育成を目指している。

## (2) 学生や教職員の共通理解について

学生便覧に「学科の目指すものとその特色」を掲載し、入学時の履修ガイダンスで各学科の特色を新入生に紹介し、理解を深めるとともに、2年次の当初の履修ガイダンスでも再度、学科の方針を確認している。教職員についても、学生便覧を毎年配布して、周知を図っている。

### <特記事項>

極めて明確で確固とした建学の精神の基に設置された学園であり、学園創立後 70 年が経過した現代においても、その精神は色濃く学園全体の精神的支柱となっている。

この学園の創立者が掲げた建学の精神「片手に論語、片手に算盤」は、現在においても重要性を失っていないばかりでなく、経済活動が複雑・多様化し、古き、良き価値観が失われつつある現在、教育理念として、より一層その重要性を増してきている。

このような建学の精神のもとに育まれた学生は、良識を持ち、しっかりとした職業的な技術を有する有為な人材として、わが国社会、経済の基盤を支えていると言えよう。

## 評価領域Ⅱ．教育の内容

### 評価項目 1．教育課程について

#### (1) 各学科の教育目的・教育目標、特色等について

##### ① 各学科の教育目的・目標について

###### ア．ビジネスライフ学科

21世紀の変化の激しい流動的な社会に対応してゆくためには、本学の校是である「良識と創意」にもとづき、まず各種の資格を持ったビジネスの実務能力と社会の常識を理解し、他人と協調して生活や仕事ができること、すなわち実学と倫理を兼ね備えた人間の育成を目指している。またどのような事態に直面しても、柔軟に対応することのできる行動力や実行力を備えた創造性豊かな人材の養成も重要であり、この2点を当学科の教育目的としている。

###### イ．こども学科

本学の教育理念「良識と創意」に基づき、こどもについての幅広い知識や教養を背景とし、人間性と実践力の調和した質の高い幼稚園教諭・小学校教諭と保育士養成を目的とする。

この目的の実現のため、人間理解をふまえた豊かな人間性を育むとともに、これらを基盤としたすぐれた実践力を育成すべく、教育・保育の技術について具体的に学ばせ、総合的なこども理解に基づき、状況に応じてその技術を創造的に作り出す能力を身につけることを目指している。

##### ② 各学科の教育課程について

ビジネスライフ学科及びこども学科の授業科目ごとの授業形態、必修・選択別単位数、教員配置、履修者数一覧は、**別添資料1**．に掲載してある。

##### ③ 本学の教育課程の特色について

本学の教育課程の特色としては、次のような項目を掲げることができる。

###### ア．学生一人一人のキャリア形成を目指したキャリア教育の導入

平成17年度から、ビジネスライフ学科では1年次生必修の授業として「キャリアデザイン」を設け、学生が入学時から就職観、職業観を育み、自己のキャリアを自ら開拓することを目指した教育を実施している。

こども学科では様々な実習等の直前に、そのつどオリエンテーションを行い、教職意識

を高める機会を設けている。

#### イ. インターンシップの導入

ビジネスライフ学科では平成 13 年度からインターンシップを授業科目（事前事後指導及び5日間以上の実習で2単位）として導入している。これまでの受講者数は次のとおりであり、年々、インターンシップを履修する学生数が増加し、大変貴重な就業体験の機会となっている。

年 度	受講者数 (社)	年 度	受講者数 (社)
平成13年度	8名 (6社)	平成15年度	5名 (5社)
平成14年度	10名 (9社)	平成16年度	20名 (13社)

こども学科では教育実習・保育実習が適宜組み込まれ、それがインターンシップの役割を果たしている。

#### ウ. 資格取得支援の充実

幼・小教諭、保育士、図書館司書等必要な単位を修得して、卒業時に取得できる資格がある。このほか、ファイナンシャル・プランナー、簿記検定、秘書技能検定、基礎情報技術者検定等、多様な検定試験取得のための学習支援を充実させている。

#### エ. 多様なカリキュラムと大幅な選択性の導入

ビジネスライフ学科では変化の激しい社会の中で、主体的に自らのライフプランを築き、IT化の進んだビジネス界で活躍することのできる知識や技術が身に付けられるように多彩なカリキュラムを設け、自らの進路に応じて8つのフィールドの中から自由に科目を選択できるよう配慮している。

### ④ 取得可能な免許・資格について

#### ア. 教育課程を履修することにより取得が可能なもの

<ビジネスライフ学科>

図書館司書

<こども学科>

小学校教諭二種免許、幼稚園教諭二種免許、保育士、図書館司書、レクリエーションインストラクター

#### イ. 教育課程の中に資格取得につながる科目を設けているもの

<ビジネスライフ学科>

秘書技能検定\*、簿記検定\*、実用英語技能検定\*、日本語文書処理技能検定、

ファイナンシャル・プランナー、シスコ技術者認定等

\* については既取得者に単位認定を行う制度が設けられている。

<資格とそれに関連する科目>

資格名	関連科目名
秘書技能検定	秘書学Ⅰ・Ⅱ、上級秘書学Ⅰ・Ⅱ、秘書学特講
簿記検定	初級簿記Ⅰ・Ⅱ、中級簿記Ⅰ・Ⅱ、上級簿記Ⅰ・Ⅱ、 工業簿記Ⅰ・Ⅱ、原価計算Ⅰ・Ⅱ
実用英語技能検定	英語Ⅰ（リーディング）、英語Ⅱ（アプリケーション）、英語Ⅱ （プラクティス）、英語Ⅲ（ブラッシュアップ）、英会話Ⅰ・Ⅱ
日本語処理技能検定	情報リテラシーⅠ・Ⅱ、コンピュータ実習基礎
ファイナンシャル・ プランナー	ファイナンシャル・プランナー
シスコ技術者認定	ネットワーク実習Ⅰ・Ⅱ、LAN設計、WAN設計他

⑤ 選択科目の状況について

ア. ビジネスライフ学科

175 科目（352 単位）の中から必修 9 科目（16 単位）、選択必修科目（12 単位）の履修が決められており、選択科目は自分の進路にあった 8 つのフィールドの中から選択できるようになっていて、学生の選択の幅は非常に大きいと思われる。

また、学生の学習プランについては必修科目のキャリアデザインⅠ、Ⅱで進路指導を行っている。

イ. こども学科

113 科目（213 単位）の中から必修 5 科目（8 単位）、選択必修科目（6 単位）の履修が決められている。

卒業要件としての選択の幅は広いが、小学校・幼稚園の免許（以下「幼免・小免」と略す。）、保育士の資格を取得するためには要件が決まっており、学生の選択肢は限定されている。

（注）学生便覧における掲載頁

ア. ビジネスライフ学科 P28～P29

イ. こども学科 P41～P42

⑤ 卒業要件について

本学学則に基づく卒業要件は、休学期間を除き、本学に 2 年以上在学し、それぞれの学科で定められた必修科目を含めて 62 単位以上を修得することとされている。

各学科の必要単位数は次のとおりである。

ア. ビジネスライフ学科

ビジネス基礎と 教養フィールド	共通ユニット	14 単位以上
	教養ユニット	6 単位以上
	国際コミュニケーション	4 単位以上
	スポーツユニット	2 単位以上
メインフィールド		10 単位以上
ゼミナールフィールド		2 単位以上
マイプラス		8 単位以上
オプション		*
総 計		62 単位

\* 司書課程科目、他学科科目（教養科目を除く）、他大学科目の単位を8単位まで含めることができる。

イ. こども学科

共通科目	一般教養科目	6 単位以上
	基礎科目	8 単位以上
専門科目		40 単位以上
自由選択科目		8 単位以上
総 計		62 単位

上記に加えて、小学校・幼稚園免許要件、保育士資格要件、図書館司書資格要件についても、学生便覧・入学時ガイダンスで周知徹底を図っている。

⑥ 教育課程の改善、見直しの現状について

<ビジネスライフ学科長>

当学科は雇用情勢の変化や千葉県に増加しつつある流通業界やコンピュータ産業界の要請、また学生の多様なニーズに対応するため、従来の経済・経営・会計を中心とした商経科と経営知識を備えた情報技術者養成を目的とした経営情報科とを統合して設置したものである。

新学科ではこれまでの専門科目中心の教育を改め、専門性ととともに多様性・総合性を重視するカリキュラムに改善した。つまり、職業意識の乏しい若者が増大する現状に鑑み、キャリアデザイン科目を設置したこと。また自分の進路に応じた職業の選択と資格取得のため

めに科目選択が自由で、一つの専門性にとどまらず、幅広く学ぶことのできるフィールド制を導入したことである。

今後の方針としてはビジネスの基礎知識や社会常識、あるいはマナーの修得を徹底させるために、現行の専門ゼミに加えて、新たに基礎ゼミを設け、また必修科目は学生の多様化に応じて、ビジネスの基礎的な科目に限定する。そして社会や学生のニーズに応えるために幅広い教育課程の編成を追究したい。さらにインターンシップの拡充をはかり、学生に実習体験を通じて社会的責任の大切さを身につけさせたい。

### <こども学科長>

平成 10 年度以降の主な教育課程の改定は、平成 11 年度の司書教諭科目の廃止（履修者が減少したため）、平成 12 年度の教育職員免許法改正に伴う改定、そして平成 16 年度の改組に伴う大幅な改定である。

平成 12 年度は、新免許法に合わせ科目の新設・廃止を行い、卒業単位を 72 単位から 64 単位へ減らし、幼稚園就職希望者の増加に対応するとともに、それまで卒業要件であった小学校教諭 2 種免状の取得を「幼稚園教諭 2 種免状の取得のみでも可」に改定し、また、保育内容各領域の指導法科目を新設し充実させた。

平成 16 年度の改定は、本学志願者に保育士資格希望者が多数存在することに応え、保育士養成のための科目を加え、「こども学科」に名称変更して初等教育コースと保育コースを設けたことによる。これに伴い、従来の教育課程と調和を図るため、従来の科目も科目分割、名称変更、単位数変更を行い、さらに共通科目を新設して、こどもについて総合的に学ぶことができるようにした。初等教育コースでは小免と幼免、保育コースでは保育士資格と幼免取得可とし、また、卒業単位を 62 単位として両コースとも免許・資格を取得せずに卒業することも可とした。

今後は、本学科の教育理念に沿った質の高い教員・保育士養成のため、教育をより充実させることを目指し、現行の教育課程を見直しながら、科目新設・分割・単位数変更等の改革を行う予定である。

## (2) 授業内容、教育方法について

### ① シラバスの内容について

シラバスの内容については、(ア) 授業の目的・テーマ、(イ) 授業の内容・計画、(ウ) 授業の形態、(エ) 教科書、(オ) 参考書、(カ) 評価の方法の 6 項目について記載する体裁に統一している。

さらに、その内容の充実に関しては、学科をあげて取り組んでいる。その最大のポイントは、(ア) 説明表現が学生にわかりやすくなっていること、(イ) 授業目標、授業計画が明確で理解しやすいことの 2 点である。この 2 つの観点から学科長、教務部長等複数の教職員による内容確認を行い、必要に応じて個別に教員に対して改善の指示を出して内容充

実に努めている。

## ② 学生の履修態度、学業に対する意欲等について

### <ビジネスライフ学科長>

学生の授業評価アンケートによれば、70%以上の学生が遅刻や欠席もほとんどなく、誠実に授業に取り組んでおり、66%の学生は受けた授業に興味や関心を示していて、履修態度や学業に対する意欲はおおむね良好と考えられる。しかし当学科では履修科目が多岐にわたり、また多様な学生が入学してきていて、学生間の学力格差がかなり見られ、授業の予習や復習などを行っている学生が40%に満たない。このことは検討課題の一つである。

### <こども学科長>

こども学科入学生の大多数は、免許・資格の取得を目的としているため、意欲的に学習に励んでいる。平成16年度の学生による授業評価アンケート結果からも、ほとんどの学生が遅刻や欠席をせず授業に出席しており、受講の結果、多くの学生が授業の内容に興味や関心を持ち学習していることがわかる。

しかし、資格取得・単位取得の面から学生の意欲を見てみると、昨年度までの初等教育科時代については、平成14年度に一時修得単位数・教員免許取得率の減少が見られ、学習への意欲が低減したかに見えた。これは、卒業単位の改定（72単位から64単位へ減）、履修単位数の上限設定、卒業要件として免許取得を「幼免・小免何れでも可」としたこと等が影響していると思われるが、合わせて入学者の一部の学力低下、幼稚園就職希望の増加による小免取得の敬遠にもよると思われる。このような状況に対しては、小・幼の両免許取得が教員の資質向上につながることを履修ガイダンスで十分理解させ、平成14年度入学者からは両免許取得を目指して履修する学生が増加している。

また、学生による授業評価アンケート結果から次のこともわかる。すなわち、授業のための予習や復習などについて、大半の学生が、指示されたときしか授業外では学習しないということである。授業の満足度に対する回答ではかなり評価が高いため、大部分の授業では十分な学習がなされていると考えたい。しかし、これは授業が具体的に理解しやすいものとなっているためと考えられる。授業外で自発的な学習を要するような科目や、理念的・概論的・論理的な内容の科目では徐々に興味をなくし、学習への意欲もなえていくことが心配される。

以上に述べたように、意欲はあるが受動的な学習態度の学生が多く、また入学時から論理的、抽象的思考の苦手な学生も多くなってきているため、授業で理解できないことがあったとき、また、授業での学習を発展させてより深く理解することが必要なときに、自ら意欲的に学ぼうとする姿勢を持たせるための指導が、今後は必要であろう。

### (3) 教育改善への努力について

#### ① 学生による授業評価について

平成 15 年度より年 1 回もしくは 2 回授業評価アンケート調査を行ってきている。

平成 16 年度末には、専任教員、非常勤講師が担当する 161 科目について授業評価アンケート調査を行った。その結果については担当教員にフィードバックし、授業改善に役立てるよう促している。

評価結果の概要は、次表のとおりである。

## ■平成16年度後期 学生による授業評価アンケート結果集計

### ■設問別評価集計表

アンケート設問内容	回答構成 (件数)							
	回答1	回答2	回答3	回答4	回答5	回答6	回答7	無回答
1 この授業に遅刻や欠席をしないで、きちんと出席しましたか。	遅刻欠席等しない 40.34%	ほとんど遅刻等しない 33.49%	ときどき遅刻等した 21.15%	よく遅刻欠席した 4.37%	ほとんど遅刻欠席した 0.62%			0.03%
2 予習や復習など、関連する勉強をしましたか。	大変よく勉強した 5.07%	よく勉強した 10.81%	指示された時だけした 42.29%	あまり勉強しなかった 18.71%	ほとんど勉強しなかった 23.01%			0.11%
3 この授業の内容に、興味や関心を持ちましたか。	非常に興味関心がわいた 21.46%	少し興味関心が出た 36.42%	ふつう 32.81%	あまり興味関心がない 6.36%	まったく興味関心がもてない 2.74%			0.22%
4 授業の内容と説明とは、分かり易かったですか。	大変分りやすかった 19.12%	分りやすかった 33.89%	ふつう 34.79%	分りにくかった 9.61%	とても分りにくかった 2.45%			0.14%
5 この授業は、講義要項の記載に沿って行われましたか。	講義要項の記載通り 22.98%	ほぼ講義要項に沿っていた 31.27%	どちらともいえない 10.26%	少し講義要項と違う 0.79%	まったく講義要項と違う 0.33%	読んでいない 33.44%		0.93%
6 この授業を履修した理由は何ですか。(複数回答可)	必修のため 38.74%	必要と判断して 36.66%	興味を持って 16.37%	単体が楽に取れそう 2.59%	担当の先生で 3.41%	先輩・友達の評判で 1.44%	その他 0.73%	0.06%
7 授業は、定刻に始まり、定刻に終了しましたか。	定刻どおりだった 80.28%	1.2回遅刻等があった 11.81%	3回ほど遅刻等があった 2.54%	4.5回遅刻等があった 1.32%	定刻通りだが少なかった 3.78%			0.26%
8 教員の授業に対する熱意が感じられましたか。	大変熱意が感じられた 52.98%	少し熱意が感じられた 25.15%	ふつう 19.46%	熱意は感じられなかった 1.43%	まったく熱意が感じられなかった 0.57%			0.42%
9 授業では視聴覚機器やパソコンなどが有効に活用されていましたか。	十分だった 26.31%	まあ十分だった 14.99%	どちらともいえない 11.88%	あまり十分ではなかった 1.47%	十分ではなかった 1.04%	使用せず 44.22%		0.09%
10 使用した教室(体育館等を含む)の環境はどうでしたか。(複数回答可)	良い 77.19%	広すぎた 7.79%	狭すぎた 5.97%	暗かった 0.54%	周囲がうるさかった 3.84%	その他 4.49%		0.18%
11 この授業の満足度は。	非常に満足 23.58%	満足 45.83%	どちらでもない 25.47%	不満 3.24%	非常に不満 1.46%			0.42%

② ファカルティ・デベロップメント（FD）、スタッフ・デベロップメント（SD）への取り組み状況について

FD活動については教員によるFD推進委員会を設置し、常に学生の満足度に留意しながら授業改善を目指している。

具体的な活動については、教授会メンバーでの授業事例報告会や他の教員の授業を参観する授業相互参観制度などで、教育方法の相互理解により授業改善を図っている。

SD活動については、SD委員会を設置して職員の能力アップのための施策を職員が自発的に検討・実施することになっている。

具体的な活動については、学内・外研修の機会を増やすとともに、事務局内の定例会議などで職員間の上下及び横の情報共有を促進している。

③ 教員間の意思の疎通や協力体制について

<ビジネスライフ学科長>

同一科目を複数の教員が担当している場合は、教科書などを統一し、授業進度の調整を行っている。また、同じフィールド内では科目の目的や関連事項の調整を行っている。更に、授業相互参観では、遠慮なく参観しあい、良い面は積極的に取り入れるなどしており、教員間の意思の疎通は比較的できているものとする。

当学科では個々の教員の専門性が異なり、協力体制がづくりにくい面があるが、検定試験への取り組みなどでは協力体制ができている。兼任教員は学生の資格取得のために、検定試験などに向けて専任教員と意思の疎通をはかる努力をしている。

<こども学科長>

授業事例報告会や授業相互参観および学科会議などで、お互いの授業について、また学生の教育のための共通理解、意思の疎通を図っている。教育実習や保育実習の巡回指導のための共通理解、「こども造形教室」の協力体制についても理解を形成し、また、個人間でもお互いの授業について語り合い、よい点は取り入れ合ったりアドバイスをし合ったりしている。

一つの授業を複数のクラス・複数の教員担当で開講している場合は、共通の内容で授業ができるよう担当者同士で話し合い、同じ資料・教材・評価基準を用いるなどしている。一つの授業を複数の教員が担当する場合も、担当者同士が話し合い、意思の疎通、内容の調整等を行っている。また、音楽等の実技試験では、一人の学生の実技に対し各教員が評点を出し、それを平均して最終評価とするなどの協力体制をとっているものもある。

### ＜特記事項＞

決して際立った特色と考えている訳ではないが、小規模大学としてバランスよく情報教育、国際教育、体験教育、インターンシップ等を地道に推進していることを特記事項として掲げたい。

情報教育については、教員構成、施設・設備ともに充実していると考えている。授業科目としても、コンピュータリテラシー等の基礎的な科目から、コンピュータネットワーク、コンピュータアート等最新のコンピュータ技術を活用する科目まで多岐に渡り、授業用ばかりではなく実習用のパソコンも、最新の機種のものを整備している。

また、国際教育、英語教育についてもハワイ大学・カウアイ・コミュニティ・カレッジとの長年の交流によって相互信頼が確立し、極めて密度の濃い異文化体験研修制度が確立している。

更に、文部科学省の「特色ある大学教育プログラム」に採択された「こども造形教室」も、社会的貢献活動であると同時に幼稚園・小学校の教員や保育士を志す学生たちにとって、こどもと直接触れ合い、理解を深めるための貴重な体験教育の場となっていて、大きな効果をあげている。

その他、インターンシップへの取り組み、FD活動への積極的かつ実際的な取り組み等、地道な活動を推進している。

## 評価領域 III. 教育の実施体制

### 評価項目 1. 教員組織について

#### (1) 専任教員数について

平成17年5月1日現在の専任教員数及び短期大学設置基準で定める教員数は、下記のとおりである。

(単位:名)

学科・専攻名 (専攻科を含む)	専任教員数				設置基準で定める 教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	助教授	講師	計	〔イ〕	〔ロ〕			
ビジネスライフ学科	10	5	1	16	9	} 5			
こども学科	7	5	5	17	11				
(小計)	17	10	6	33	20	—			
〔ロ〕									
(合計)	17	10	6	33	20	5			

#### (2) 教員の採用・昇任について

教員を採用しようとする場合、規定上は「学長が推薦」することとされているが、具体的には学科長始め各専門分野の教員と幅広く相談し、最適と考えられる人材を求めている。その資格審査については、「教員資格審査規程」に基づき主査1名、副査2名で構成する資格審査委員会を設置し、審査を行い、学科会議で実質的に審議し教授会で決定している。

教員の昇任は、同規程に基づき当該担当科目又はその関連科目の専任教授が学科長を通じて学長の承認を得て推薦を行うこととされており、資格審査委員会の設置等については採用の場合と同じである。

昇任要件は、原則として教授については、7年以上の助教授経験を有し、助教授以降に論文5編以上の研究業績があること。助教授については、3年以上の講師経験を有し、講師以降に論文3編以上の研究業績があること。講師については、博士又は修士の課程を修了し、3年以上の助手経験を有し、助手以降に論文1編以上の研究業績があることとなっている。

なお、人事案件の教授会は、候補者の昇任資格以上の資格をもつ教員全員によって構成され、議決は、他の議案と異なって「出席者の3分の2以上」の賛成をもって成立する。

### (3) 専任教員の年齢構成について

平成 17 年 4 月 1 日現在の年齢構成は、下記のとおりである。

教員数	年齢ごとの専任教員数（講師以上）							助手等の 平均年齢	備 考
	70 以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29 以下	平均年齢		
33		7	13	7	5	1	51.5		

平均年齢は、平成 12 年度以降本年まで 53.0 歳、53.9 歳、54.6 歳、53.3 歳、51.5 歳と推移している。平成 16 年度までは全国平均（平成 13 年度学校教員統計調査）の 51.0 歳に比べ高年齢であったが、高齢者の定年等による退職、若手教員の採用により全国平均に近い水準となっている。

### (4) 専任教員の教育・研究等への取り組みについて

#### <学長>

専任教員の授業担当コマ数は、平成 17 年度が平均で 6.3 コマ（平成 15 年度 6.0 コマ、平成 16 年度 6.1 コマ）であり、決して少なくないコマ数である。また、授業以外においても FD 活動への参加等、授業改善への取り組みも熱心に行われている。

研究面では、科学研究費補助金を始めとする外部の研究資金の導入については、必ずしも活発と言えない状況であるものの、研究紀要への論文執筆等の意欲は相当程度高いと考えている。

最近では、教育・研究という高等教育機関としての本来の面ばかりではなく、学生指導、生活指導の面も特に重要性を増している。高等学校までの間に十分な指導を受けてこなかった学生もまれではなくなっており、しつけや学習意欲の喚起等の人間教育も、教員の役割として少なくない比重を占めている。このような全人教育や近年特に問題が顕わになってきている禁煙教育等の指導についても、教職員が積極的に取り組んでいるところである。

「地域社会に開かれた大学として、積極的に社会貢献を行うこと」が本学の特色の一つにあげられるが、本来の業務を行った上、更に公開講座や「こども造形教室」等の業務に取り組んでいる教員の姿勢は、学生にとって見事な手本となっていると思う。

なお、後述するように、本年度より研究成果の出版に対する補助制度を設けた。また、共同研究助成制度を活用した研究も盛んである。

## (5) 助手、補助職員等について

### <学長>

本学は小規模大学であるため、専任教員については少ない人数であるが、可能な限り教育・研究面で実績があげられるよう配慮している。教員の採用にあたっては、学生にとって魅力のある教育を行い、かつ研究面でも貢献のできる中堅の教員の採用に努めている。

なお、教員と事務職員が相互に密接に協力しながら取り組んでおり、授業補助等についても事務職員が積極的に対応し、協力しており、情報機器の維持・管理等の専門的な業務についてはアウトソーシングを行うなど、現実的な対処を行っており、本学の教育・研究支援業務は円滑に遂行されていると考えている。

コンピュータ教育の指導に対しては、千葉大学大学院生数名を実習助手として指導の補助に当たらせ、成果をあげていることを補足したい。

## 評価項目 2. 教育環境について

### (1) 校地面積について

本学の校地面積は下記のとおり 26,947.39 m<sup>2</sup>であり、短大設置基準の基準面積 7,000 m<sup>2</sup>を充足している。

名 称	所 在 地	面 積 (m <sup>2</sup> )	備 考 (主な使用用途 共用の有無等)
本校地	千葉市稲毛区轟町 4-8-1	5,224.19	校舎用地
〃	千葉市稲毛区轟町 4-8-6	501.88	〃
第一校地	千葉市稲毛区轟町 3-59-5	4,470.86	グラウンド 大学（基準面積 10,000 m <sup>2</sup> ）と共用
第二校地	千葉市稲毛区轟町 5-68-4	6,118.46	グラウンド 高校（基準面積 21,150 m <sup>2</sup> ）と共用
中野校地	千葉市若葉区中野町 2669	10,632.00	グラウンド 高校と共用
計		26,947.39	

(校地基準面積)

学 科 名	基 準	面積 (㎡)
ビジネスライフ学科	収容定員 400 名×10 ㎡	4,000
こども学科	収容定員 300 名×10 ㎡	3,000
計		7,000

(2) 校舎面積について

校舎面積は下記のとおり 10,002.64 ㎡であり、短大設置基準の校舎面積 5,150 ㎡を充足している。

校 舎 名	面 積 (㎡)	備 考 (主な使用用途 共用の有無等)
1 号 館	2,452.28	学長室、事務室、教室
2 号館 A 棟	2,084.57	教室、研究室
2 号館 B 棟	1,219.48	教室
電 算 棟	594.00	教室
学生ホール	414.50	学生関係施設
体 育 館	764.01	授業、クラブ活動 大学(基準面積 5,619 ㎡) と共用
第 2 体育館 (仮称)	1,564.00	授業、クラブ部室
図 書 館	909.80	図書施設 大学と共用
計	10,002.64	

(校舎基準面積)

学 科 名	面 積 (㎡)	基 準
ビジネスライフ学科	2,300	短大設置基準第 31 条関係 別表第二 ロ
こども学科	2,850	短大設置基準第 31 条関係 別表第二 イ
計	5,150	

### (3) 情報機器等の整備・使用状況について

平成 16 年 3 月にコンピュータネットワークの再構築を行い、それまで学科単位で個別のネットワークを構成していたものを全学共通のネットワークに再編成した。

それに伴い、校舎間を光ケーブルで連結し高速化（1 ギガ）を実現するとともに、プロバイダーへのネットワークも高速化を図って利便性を大幅に向上させている。

さらに、ネットワークについては VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）を採用しており、学外からも学内のデータを取り扱うことができる環境にある。

また、パソコンについても 3 年単位で更新を行っており、できる限り最新の環境で情報機器を扱えるように配慮している。

＜パソコン設置状況（台数）＞

平成 17 年 4 月現在

1 号館 401	1 号館 402	電算棟 C11	電算棟 C21	電算棟 C31	電算棟 C32	多目的 演習室	こども 実習室	総設置 台数
42	5	46	40	40	4	6	8	191

### (4) 教育用機器・備品の整備・管理状況について

大教室にはプロジェクターや書画カメラ等の教育のための機器・備品が整備されている。機器・備品については事務職員が管理を行い、適宜最適な状態に保っている。

### (5) 安全性への配慮等について

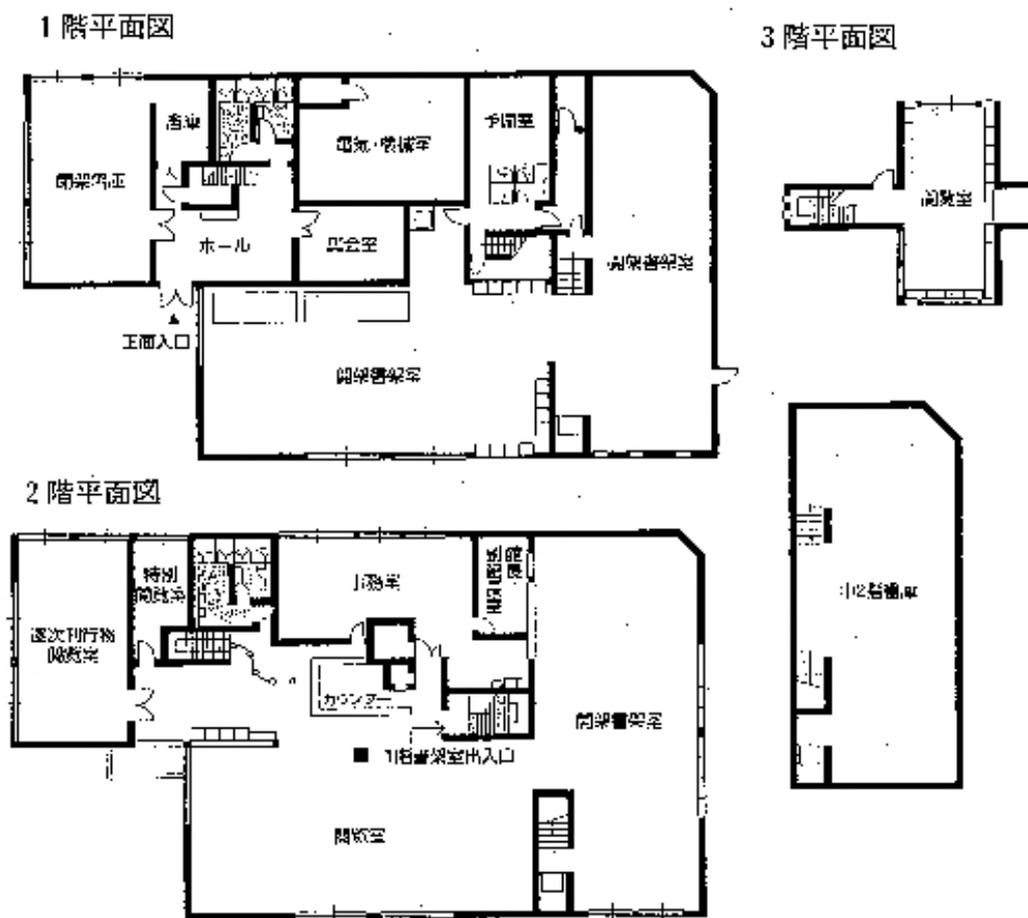
本学は住宅地の中に所在しており、校地・校舎の安全性の面で特に問題はないと思われる。

障害者への対応については、現在のところ受け入れの実績がないため、特別な施設・設備は用意されていないが、授業を受ける環境については、教職員の努力によりできる限りの配慮がなされるような体制になっている。

### 評価項目 3. 図書館について

#### (1) 図書館の概要について

##### ① 全体の配置図



図書館の施設は3階建てで、各階の閲覧席(合計197席)と5つの資料エリアとからなる。第1は図書エリア、第2は雑誌・新聞エリア、第3はAVエリア、第4はマルチメディア・エリア、第5は保存エリア(集密書庫)である。

資料エリアは、一部の貴重図書などを除き、基本的に開架方式をとり自由な雰囲気で見ることができる環境になっている。2階中央部に総合カウンターを配し、多様なサービスを提供している。

② 蔵書

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
蔵書数	186,535 冊	192,362 冊	198,597 冊
学術雑誌数	630 種	564 種	556 種
A V 資料数	3,451 点	3,631 点	3,762 点

図書蔵書冊数は年間 6,000 冊前後増加しており、雑誌（紙媒体）は電子ジャーナルへの切り替えで種数が減少した。A V 資料はDVDを中心に漸増している。

③ 年間予算、職員数

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
年間予算 (内資料費)	97,462,000 円 (63,293,000) 円	90,462,000 円 (57,797,000) 円	81,546,000 円 (56,653,000) 円
専任職員数 (内司書有資格者)	4 人 (4) 人	4 人 (4) 人	4 人 (3) 人

平成 15 年度に行った雑誌・新聞の電子化により、予算費目の組替え（資料費から通信費へ）が生じ、資料費が減少した。また、平成 16 年度末予定の図書館システムの更新が平成 17 年度 4 月に繰り下がり、次年度支出になったため平成 16 年度決算額が減る結果となった。

職員については、多様化する図書館サービスに対応できるよう、司書有資格者を配属している。

④ 図書等購入システム

学生、教職員、図書館から出された購入申込み資料を図書館委員会で選定し、購入する。図書館委員会は、短大部と大学の専任教員から選出された委員で構成されている。

⑤ 図書等廃棄システム

蔵書の累積に伴い収容能力が限界に近づきつつあり（収容能力 23 万冊に対し平成 16 年度末で収容可能残冊数が 3 万冊[13%]）、平成 17 年度に集密書架（約 2.7 万冊収容可）の増設を行うことになっているが、保存資料の見直し、館内資料の再配置が課題になっている。資料の除籍、抹消については資料収集管理規程で決められているが、資料価値の判断等を含む廃棄基準を新たに作る必要がある。

⑥ 情報化の進捗状況

図書、雑誌等の紙媒体と合わせて電子化した資料の比重が増え、本学でも電子ジャーナルや新聞のデータベースを中心に 7 種類のオンラインデータベースを導入し、従前からの CD（DVD）－ROM 等によるデジタル情報の拡張をした。また、新しい情報環境に適応するために、平成 17 年 4 月には図書館システムのリニューアルを行った。

## (2) 学生の活用状況について（図書館長）

インターネットを使ったデジタル情報の利用が高まる一方、図書の利用が相対的に低下してきている。高品質な図書情報を再認識してもらうことも考慮し、以下の活用促進策をとっている。

授業要項に書かれた参考書を年度当初に揃え、教員が担当科目に対して指定した講義用図書も合わせて整備している。さらに教員と連携をとり、館内での演習授業実施や図書館員による資料検索指導を授業時間内で実施し、資料を実際手に取って利用する機会を作っている。あわせて利用条件を見直し、貸出冊数の上限を5冊から10冊へと増やした（平成16年度）。こうした活動や改善策により、平成16年度の学生一人当たりの図書貸出冊数が8.9冊（平成15年度は4.7冊）と大幅に増加した。

また、図書館で所蔵している文献紹介の冊子を配布し、学生生活や勉学の支援を行っている。とりあげたテーマは、「カウンセリング関係」「レポート・論文作成のための資料」「社史・団体史」「就職活動関係」など多方面に渡っている。

## (3) 学内外への情報発信、他の図書館等との連携について（図書館長）

地域連携として、千葉市図書館情報ネットワーク協議会と千葉県大学図書館協議会への加盟、また館種別連携として、私立短大図書館協議会と私立大学図書館協会への参加により、情報交換、研修会への参加、相互協力を行っている。また、資料を中心とした相互利用として国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILL（目録所在情報サービス）に参加している。

図書館ホームページでは各種のお知らせを情報発信し、学外者への地域開放情報や図書館主催講演会の開催案内等も記載している。

今後は図書館システムを拡張し、利用者の要望に対して、きめ細かい双方向性のあるサービスを実施していきたい。

## <特記事項>

過去においては教員の年齢構成についてバランスを欠く面もあったが、若手教員の採用に積極的に取り組み、新しい教育・研究体制にふさわしい陣容を整えつつある。

また、助手、副手、補助職員、技術職員等の職種は置いていないが、前述のとおり教育の支援体制としては、従来の教員、事務職員という区分にこだわらず、両者が車の両輪として教育、学生指導を実施していくという考え方のもとに事務職員の専門性を高めることを目指している。このような方策が小規模大学としては現実的であり、効率的であると考えている。

## 評価領域 IV. 教育目標の達成度と教育の効果

### 評価項目 1. 単位の認定について

#### (1) 単位認定の状況

##### ① 授業科目別成績評価

授業科目別成績評価一覧は、別添資料 2. に掲載している。

本学の成績評価は、「優」「良」「可」「不可」により行い、その評価の方法は各授業科目ごとに、定期試験、臨時試験、追試験、再試験の評価と、日常の授業その他による平常点評価との両方、あるいはいずれかによって行う。

本学の成績評価の基準は、次のとおりである。

合格……「優」(80 点以上)、「良」(70 点以上 79 点以下)、「可」(60 点以上 69 点以下)

不合格…「不可」(59 点以下)

なお、「不可」になるものは、試験、レポート等により合格点に達しないもののほか、授業出席日数が授業回数の 3 分の 2 以上を満たさずに定期試験受験無資格となる場合、定期試験等を欠席した場合である。

成績評価については、科目によって「優」「良」「可」「不可」の割合が異なっており、また同一授業科目であっても、担当教員によってその割合が異なっている。

ただし、同一の授業科目を複数の教員が担当した場合、教員間で評価基準が異なることを避けるため、同じ基準で成績評価を行うことにしている。

##### ② 学科・課程別成績評価の状況

平成 16 年度前期・後期終了授業科目の成績評価結果をビジネスライフ学科 (1 年、2 年)、こども学科 (1 年、2 年)、図書館司書課程 (1 年、2 年) 別に、優、良、可、不可、欠席、無資格に区分して集計した。

特徴的には、以下の 2 点が挙げられる。

ア. こども学科 1 年生の「優」の比率が大きく、逆に「不可」「欠席」「無資格」の割合が極端に小さい。

イ. 逆に、ビジネスライフ学科 1 年生の「不可」「欠席」「無資格」の割合が 23%を超えている。

<学科・課程別成績評価の分布>

学科・課程・学年	総履修者数 (名)	優 (%)	良 (%)	可 (%)	可以上 (%)	不可(欠席・無 資格を含む) (%)
ビジネスライフ1年	4,865	44.44	18.46	13.96	76.86	23.14
商経・経営情報2年	3,445	45.37	23.31	14.72	83.40	16.60
小計	8,310	44.83	20.47	14.27	79.57	20.43
こども1年	5,945	54.53	27.96	11.46	93.94	6.06
初等教育2年	2,746	39.22	33.07	13.11	85.40	14.60
小計	8,691	49.70	29.57	11.98	91.24	8.76
司書課程1年	310	48.71	16.77	14.52	80.00	20.00
司書課程2年	465	62.80	23.23	8.39	94.41	5.59
小計	775	57.16	20.65	10.84	88.65	11.35
総計	17,776	47.74	24.93	13.00	85.67	14.33

(2) 単位の取得状況、評価の現状について

<ビジネスライフ学科長>

科目の性格によって異なるものであるが、定期試験、レポート、出席状況などを総合して単位認定が行われており、おおむね妥当な方法ではないかと考えている。学生が自分の進路や適性に応じて科目選択ができるようになっているので、取得状況は許容できる範囲内のものであると考えられる。

年度当初の履修申告以外は変更を認めていないことから、学生が一方向的に履修を中途で取りやめることがある。担当教員による評価の現状はおおむね適切性、公平性、客観性が保たれていると考えられる。しかし学生の現状について客観的に分析し、学科の教員全体で評価方法についての共通認識を深めてゆく必要があると考える。

<こども学科長>

学習の評価について重要なことは、妥当性、公正性、客観性の確保である。また、評価の手段である試験・レポート等は単に評価のためだけでなく、それらも教育の一環と考え、授業内容の理解がさらに深められ学生が成長する機会として活かすことである。これらが確保され達成されるよう適宜促し、教員間でも助言しあっている。また、評価実態の一覧表により主体的に改善しているところである。

妥当性の確保については、授業の目的に応じ、試験、レポート、実技試験、発表等と評価

方法が工夫されている。同一科目の複数科目を複数教員で担当する科目での評価方法についての実践的研究もある。また、再試験制度の利用により、不合格の学生が合格のレベルに到達できるよう、学習内容・学習方法の指導がなされている科目もある。

平成16年度は、こども学科（1年次生、保育コースと初教コース）と初等教育科（2年次生）が並存した。保育コースの学生の履修単位数は、ほとんどが年間の履修単位制限上限の55単位程度と多く、また1年次生全体の「優」の取得率は54.53%と非常に高く、大変よく学習していると言える。2年次生の「優」の取得率が39.22%であるから、安易に「優」と評価されるのではないと思われるが、この高取得率は筆記試験とは異なる評価方法（実技・発表・レポート等）が取られることの多い、実技・演習系の科目が多く開講されていることによるのかもしれない。逆に、不可の割合の多い科目は、論理的・理念的・概念的の内容の講義科目である。

### <学長>

学科の目的、性格により、単位認定や評価のあり方に差異が生じることは当然ありうることと考えている。こども学科については、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士という極めて責任の重い専門家を養成し、また、学生の目的に対応して様々な資格を取得させる必要があるとの観点から、一人一人の学生の資質や目的を生かすよう、厳しく、しかし愛情を持って教育することが肝要と考えている。

単位認定や評価のあり方も、その趣旨に沿ったものとなるよう日頃から教授会や学科会議等で、全教員の理解を得るよう努めているところである。

ビジネスライフ学科については、一人一人の学生がそれぞれの適性や進路に応じて大幅な科目選択が可能となるように設定しており、専門的な資格取得を目指す者、建設的な将来設計のもとに健全な家庭を築くことを目指す者など様々であり、単位認定や評価についても許容できる範囲内で相当程度の柔軟性があっても良いのではないかと考えている。

しかしながら、そのような学科の特性に配慮しつつも、単位認定や評価に当たっては、適切性、公平性、客観性の確保が極めて重要な要件であることは言うまでもないことであり、定期的に全授業科目の単位認定、評価の実態の一覧表を全教員に配布し、主体的な改善を求めている。

いずれにしても学ぶ意欲を高めることが指導の根幹におかれるので、後述する授業事例研究会では、その辺の教授努力について意見が交わされることが多い。

### (3) 授業に対する学生の満足度について

期末もしくは年度末に行う授業評価アンケートで、各授業の満足度を調査している。

授業評価アンケート調査については、「評価領域Ⅱ. 教育の内容、評価項目1. (3) 教育改善への努力について、①学生による授業評価について」に掲載してあるが、授業の満足度についてはのべ回答数6450のうち、「非常に満足」あるいは「満足」と回答したものが

69.4%となっている。

なお、平成16年度に大学生活全体についての満足度調査を学期末に実施している。

その調査結果は次の通りである。なお、表中の「前回」とは平成16年度前期末（7月中旬）である。

平成16年度 満足度調査結果

学科名	回答者数	(率)	学年	設問1	設問2-1	設問2-2	設問2-3	設問2-4	設問2-5	計(学科毎)
商経科	137	86%	2	61.39	55.91	58.98	83.58	64.09	62.85	64.46
(前回)	172	98%		57.15	53.49	55.47	82.27	61.86		62.05
経営情報科	65	86%	2	53.85	51.54	60.15	83.38	55.08	59.08	60.80
(前回)	59	69%		71.53	68.31	68.81	84.92	67.97		72.31
ビジネス	146	72%	1	52.05	51.10	50.68	82.67	54.52		58.21
(前回)	163	80%		51.72	49.82	48.71	76.44	59.57		57.25
初等教育科	109	88%	2	66.24	59.17	67.34	88.17	73.12	73.12	70.81
(前回)	100	79%		60.30	55.60	57.00	87.90	65.80		65.32
こども(初教)	74	83%	1	60.95	55.81	60.81	91.62	73.24		68.49
(前回)	71	80%		64.08	54.23	53.80	87.25	63.66		64.61
こども(保育)	90	90%	1	62.56	59.00	65.67	88.89	69.56		69.13
(前回)	103	94%		62.82	53.79	57.67	85.83	55.34		63.09
平均(設問毎)				60.16	55.82	58.86	85.19	64.41		64.89
(前回)				61.27	55.87	56.91	84.10	62.37		64.10

質問内容

設問1 本学に入学したことをどの程度満足していますか。

設問2-1 授業について

設問2-2 先生との出会い

設問2-3 友人との出会い

設問2-4 事務職員の対応

設問2-5 2年間の自分の成長への満足（2年次生のみ回答）

\* 設問欄の数値は、各設問について100%～0%の11段階で該当する満足度に○を付けさせ、その回答数を加重平均したものである。

<ビジネスライフ学科長>

本学に入学したことについては、おおむね満足度を示しているが、志望を変更して入学し

てきた学生がいるため、1年次では授業や教員との出会いについての満足度にかなり低い評価がされており、これは重要な検討課題と考えている。なお、1年次生より2年次生の方が満足度が高くなっており、この点は学生が当学科の方針や教員の指導に対して一定程度理解を示したものと考えられる。

しかし、全体としてはかなり厳しい学生の評価であると受けとめ、学生の興味や関心を引き出すような授業方法の改善や個々の学生との対話に努め、きめの細かい指導を行う必要性を痛感している。

### <こども学科長>

満足度調査結果については率直に受けとめ、教育改善のために活かさなければならないと感じている。そして、目先の満足度にとらわれ、教育の質を落とすことにならないよう、満足度の質を高めることも視野に入れなければならない。

満足度調査の結果を見ると、本学に入学したことに対する満足度は1年次前期終了時から後期終了時にかけて低下し、2年次前期終了時から後期終了時にかけて上昇している。1年次は、入学者の期待とのずれや、大学の授業への不慣れ、また、一般教養科目や原理的・概論的な科目が多いことも、満足度に影響していると考えられ、その後は、大学の授業、本学の教育に慣れてその良さがわかってくることによって、満足度が上昇していると考えられる。

2年次の最後に学習の成果を振り返った時点では、2年間の成長への満足度はさらに高くなり、また別に行われた卒業生への調査では、授業について80%強の学生が何らかの形で満足している。

しかしながら、満足度の数値は十分に高いというわけではなく、満足度が高くなるようさらに改善を進めなければならない。特に、1年次生に対しては特別な配慮が必要であると考えられる。つまり、最近の入学生の能力、興味の変化に対応し、特に幼稚園教諭・保育士を目指す学生（幼児と接することに最大の喜びを感じるような学生）に、一般教養科目また原理的・概論的な科目への興味をいかに持たせるかが課題であろう。

### <学長>

入学してくる学生の学力や目的意識が多様化してきており、それに伴い授業の困難度が増してきていることは否定しようのない事実である。

学生の満足度調査の結果を見ても、授業に対する満足度は約56%となっており、しかもごくわずかではあるが低下している。

短大教育の大きな課題として、学生の学習に対する意欲や学習の方法、更には卒業後の進路まで見すえて目的意識を確立するための指導が必要不可欠なものとなっている。つまり学生の興味や関心を引き出し、自分の進路を考えさせるような授業の実践が極めて重要である。

単に専門の知識を伝達するだけでは成り立たないこれからの授業のあり方については、教育方法や指導方法を体系的に学んでいない大学教員にとって決して容易なことではない。そのためこそFD活動が極めて重要であると考えており、結果が出るのには少し時間が掛かるかも知れないが、今後とも一層推進していきたい。少しずつではあるが、1年以上に渡り継続してきたFD活動の成果が現れつつあると感じている。

#### (4) 退学、休学、留年等の状況について

		平成 14 年度			平成 15 年度			平成 16 年度		
		休学	退学	留年	休学	退学	留年	休学	退学	留年
商経科	1年	12	21	2	10	10	7	3	2	5
	2年	9	9	9	8	12	8	8	11	11
経営情報科 1年	1年	4	10	2	2	5	2	1	1	1
	2年	4	4	8	6	17	10	3	8	6
ビジネスライフ学科	1年	—	—	—	—	—	—	7	7	—
	2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
初等教育科	1年	2	7	3	3	6	2	—	—	—
	2年	2	4	6	3	5	6	5	1	7
こども学科	1年	—	—	—	—	—	—	0	4	—
	2年	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		33	55	30	32	55	35	27	34	30

#### (5) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者及び留年者に対する指導の現状について

近年、休学者は横ばい、退学者は減少の傾向にある。退学・休学の理由としては、進路変更が特に多く、次に多いのが経済的事情等である。

そのような学生の指導については、こども学科では相談教員制を敷いて、全学生が教職員と身近な問題も容易に相談できる体制を整えている。また、ビジネスライフ学科でもゼミ履修者はゼミ担当教員に、ゼミを履修していない学生については相談教員を決めて、学生に対してきめ細かいケアが行えるようにしている。

なお、経済的な事情を理由とするものへの対応としては、学園独自の学資貸付制度が設けられており、また、健康面の問題や精神面での悩みを持つ学生に対しては、保健室及びカウンセリングセンターが学外の専門医と連携しながら対応している。

平成14～16年度の退学・休学理由別人数割合は、次のとおりである。

休学				退学			
	単位：人 %				単位：人 %		
	平成14	平成15	平成16		平成14	平成15	平成16
進路検討	16 (48.5)	16 (50.0)	18 (66.7)	進路変更	43 (78.2)	41 (74.5)	21 (61.8)
経済的事情	9 (27.3)	11 (34.4)	4 (14.8)	経済的事情	6 (10.9)	4 (7.3)	5 (14.7)
体調不良	4 (12.1)	4 (12.5)	3 (11.1)	体調不良	4 (7.3)	1 (1.8)	
仕事の都合	1 (3.0)	1 (3.1)		就職のため			
大学受験	3 (9.1)			勉学意欲喪失		3 (5.5)	6 (17.6)
その他			2 (7.4)	その他	2 (3.6)	6 (10.9)	2 (5.9)
合計	33 (100)	32 (100)	27 (100)	合計	55 (100)	55 (100)	34 (100)

### <ビジネスライフ学科長>

学生の学力や目的意識の多様化から、近年進路変更を望む者が多い。また昨今の経済的事情の影響からの休・退学者もある。休・退学を望む者にはゼミの担当者や教務部の教員が個別に事情を聞き、明確な目的や計画などについてよく質すようにしており、また保護者や保証人の同意を得るように指導している。

成績不良で単位が取得できずに留年する学生は例年1～2名にすぎないが、不適応や精神的理由で長期欠席による留年者がかなりおり、カウンセリングセンターの果たす役割に期待をかけている。

### <こども学科長>

こども学科の入学生は卒業後の進路が明確で、免許状・資格取得を目的としているが、明確な目的意識を持たないまま入学してきている学生、また、目的は明確でも教職に就くための学習に対する具体的イメージが乏しかったため、入学後、不適応を起こす学生もごく少数存在する。このような学生が、本学科の学習に意義を見出せなくなったとき、退学を希望することがある。

そのような学生に対しては、その意思が一時的なものでないかどうか確認したり、自分の進路について自ら十分検討できるように休学を勧めたり、資格等を取得しないでの卒業や、一般就職を勧めるなどして指導している。

休学希望者の理由は様々で、進路検討、経済的事情等、多様であるが、そのつど個々に応じて丁寧に指導している。留年の可能性のある学生に対しては、早期に欠席状況を把握し個別に指導するのが肝要と考える。

### <学長>

学生の学力の多様化、目的意識の多様化に伴い、休・退学の態様も多様化してきている。

進路変更については、積極的に人生の進路を考え直し、新たな可能性にチャレンジするという点では積極的に評価すべきだが、明確な目的や計画もないまま進路変更を理由に退学

する場合も少なくないため、十分なガイダンスが必要である。

経済的事情や学業・学校生活不適応、精神的理由によるものについては、極力無くすための努力が必要と考える。経済面については、新たに学資貸付制度を作るなど対策を講じている。

また、不適応や精神的理由によるものについては、従来から保健室が重要な機能を果たしてきており、利用者も増加してきている。平成13年にはカウンセリングセンターを設置し、専門のカウンセラーが学生の悩みを聞き、時間を掛けてサポートしていく態勢が整備された。

## (6) 資格取得の取り組みについて

### 【資格取得講座の開設】

本学学生の資格取得は、授業科目と関係している資格が多く、授業科目と別に資格取得講座を開設することはしていない。なお、授業科目と関連している資格取得については、関連授業科目の担当教員が個別に指導を行っている。

本学学生が取得する主な資格は、簿記検定（3級、2級）、秘書技能検定（3級、2級、準1級）、ファッション販売検定（3級、2級）、ファッションビジネス能力試験（3級、2級）、実用英語能力検定（3級、準2級、2級）、日本語文書処理（3級）、シスコ技術者認定資格等である。これらの資格試験による合格者数は、次のとおりである。

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
簿記検定(3級)	4	3	10
簿記検定(2級)	1	0	3
秘書技能検定(3級)	107	118	76
秘書技能検定(2級)	50	52	53
秘書技能検定(準1級)	1	1	3
秘書技能検定(1級)	0	0	1
実用英語技能検定(3級)	15	12	5
実用英語技能検定(準2級)	2	3	0
実用英語技能検定(2級)	0	0	0
ファッション販売能力検定(3級)	12	13	23
ファッション販売能力検定(2級)	0	0	3
ファッションビジネス能力検定(3級)	8	15	5
ファッションビジネス能力検定(2級)	0	0	0
日本語文書処理技能検定(3級)	9	14	25
日本語文書処理技能検定(2級)		1	1
シスコ技術者認定資格			1
ファイナンシャルプランナー(3級)			2
AFP認定研修修了者			26

上記の本学における資格の取得状況は、各関連授業科目の担当教員が受験を勧めて申し込みがなされ、合格通知が大学に送られてくるものの集計である。

上記の資格のうち、秘書技能検定では3級、2級とも毎年検定合格者が多い。また、フ

ファッション販売能力検定（3級）や日本語文書処理技能検定（3級）の合格者も毎年10名を超えている。一方、簿記検定、実用英語技能検定などは、関連授業科目が存在するにも関わらず、合格者が少ない。

本学のビジネスライフ学科（商経科、経営情報科）入学者の多くは、高校時代に簿記やコンピュータ関連の資格を取得して来ている。そのため、社会で必要な知識・技能は備えているといえる。

なお、大学独自の資格取得講座としては、簿記、秘書、販売士、基本情報処理技術者等、社会で有用とされている資格取得の支援を今後は検討し、資格取得講座の学内開催や、資格取得者に対する報奨制度なども検討したい。

## 評価項目 2. 学生の卒業後の評価について

### （1）専門性を生かした就職の状況について

#### ① 商経科

商経科では経済学、経営学、簿記、秘書学、情報処理等を学生の選択により学ぶため、学科としての固有の専門性と言うよりも、学生一人一人が自らに適した専門分野を選択するという特色を持っている。進路選択時には多くの学生が一般事務職を希望している。また、ファッション関係のゼミを受講したものには、衣料品販売を希望する学生が多くいる。

年 度	事 務	販 売	情 報	司 書
平成14年度	39名	7名		
平成15年度	40名	3名	1名	
平成16年度	38名	23名	1名	2名

#### ② 経営情報科

経営情報科では、コンピュータ技能の修得を目指しており、その専門性を生かした就職としては、厳密に言えば情報・通信業界への就職及びSE・プログラマー職と言える。しかしながらコンピュータ技術があらゆる職種において有用かつ不可欠なツールとなってきた現在、この数字だけで実情を把握することは不可能であろう。経営情報科の卒業生のうち、情報通信業界又はSE・プログラマーに就職したものの数は次のとおりである。

年 度	情報通信業界	うち SE・プログラマー
平成14年度	4名	1名
平成15年度	2名	
平成16年度	2名	2名

### ③ 初等教育科

初等教育科では、小学校教諭及び幼稚園教諭免許状が取得できるため、多くの学生が教職を志している。小学校、幼稚園に就職できなかった者も、臨時教員への登録や学童保育等とおして子供たちと接する機会を得ている。

年 度	小学校	幼稚園	その他教育関連	合 計
平成14年度	1名	55名	2名	58名
平成15年度		51名	12名	63名
平成16年度	14名	45名	5名	64名

## (2) 卒業後評価の概要について

- ① 平成17年2月に「卒業生アンケート（卒業後評価等）」を実施した。その概要は次表のとおりである。

		商経科		経営情報科		初等教育科		全体	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 学科		87		26		68		181	
2 卒業した年	a S50以前	10	11.5	0	0.0	0	0.0	10	5.5
	b S51～S60	26	29.9	0	0.0	21	30.9	47	26.0
	c S61～H7	36	41.4	16	61.5	38	55.9	90	49.7
	d H8以降	15	17.2	10	38.5	9	13.2	34	18.8
3 性別	a 女性	67	77.0	26	100.0	63	92.6	156	86.2
	b 男性	20	23.0	0	0.0	5	7.4	25	13.8
4 社会で役立っている	a 役にたっている	19	21.8	3	11.5	34	50.0	56	30.9
	b 少し役にたっている	36	41.4	17	65.4	14	20.6	67	37.0
	c あまり役にたっていない	22	25.3	5	19.2	17	25.0	44	24.3
	d 役にたっていない	7	8.0	1	3.8	1	1.5	9	5.0
	e その他	3	3.4	0	0.0	1	1.5	4	2.2
5 授業満足度	a 大変満足	10	11.5	0	0.0	14	20.6	24	13.3
	b まあまあ満足	46	52.9	16	61.5	41	60.3	103	56.9
	c どちらとも言えない	26	29.9	5	19.2	12	17.6	43	23.8
	d やや不満	3	3.4	5	19.2	1	1.5	9	5.0
	e 大変不満	1	1.1	0	0.0	0	0.0	1	0.6
	不明	1	1.1		0.0		0.0	1	0.6
6 友人関係	a 大変満足	32	36.8	8	30.8	31	45.6	71	39.2
	b まあまあ満足	37	42.5	15	57.7	31	45.6	83	45.9
	c どちらとも言えない	10	11.5	1	3.8	3	4.4	14	7.7
	d やや不満	4	4.6	1	3.8	2	2.9	7	3.9
	e 大変不満	4	4.6	1	3.8	0	0.0	5	2.8
	不明		0.0		0.0		0.0	0	0.0
7 課外活動	a 学友会執行部	5	5.7	0	0.0	2	2.9	7	3.9
	b 体育系クラブ	14	16.1	3	11.5	25	36.8	42	23.2
	c 文科系クラブ	18	20.7	2	7.7	15	22.1	35	19.3
	d 所属しない	55	63.2	21	80.8	32	47.1	108	59.7
8 課外活動の満足度	a 大変満足	8	25.0	2	40.0	14	38.9	24	32.9
	b まあまあ満足	17	53.1	1	20.0	16	44.4	34	46.6
	c どちらとも言えない	3	9.4	2	40.0	3	8.3	8	11.0
	d やや不満	2	6.3	0	0.0	3	8.3	5	6.8
	e 大変不満	2	6.3	0	0.0	1	2.8	3	4.1
9 課外活動に参加しなかった理由	a 授業優先	10	18.2	1	4.8	7	21.9	18	16.7
	b 規律に縛られたくなかった	7	12.7	0	0.0	1	3.1	8	7.4
	c 通学時間	13	23.6	8	38.1	12	37.5	33	30.6
	d アルバイト	14	25.5	7	33.3	11	34.4	32	29.6
	e 学外のサークル	5	9.1	2	9.5	2	6.3	9	8.3
	f その他	13	23.6	4	19.0	6	18.8	23	21.3
10 就職支援体制	a 大変満足	13	14.9	1	3.8	12	17.6	26	14.4
	b まあまあ満足	30	34.5	4	15.4	23	33.8	57	31.5
	c どちらとも言えない	27	31.0	12	46.2	24	35.3	63	34.8
	d やや不満	6	6.9	8	30.8	6	8.8	20	11.0
	e 大変不満	7	8.0	1	3.8	1	1.5	9	5.0
	不明	4	4.6		0.0	2	2.9	6	3.3
11 就職指導	a 個人指導	13	14.9	3	11.5	22	32.4	38	21.0
	b 求人情報の提供	37	42.5	11	42.3	32	47.1	80	44.2
	c ガイダンス	1	1.1	0	0.0	2	2.9	3	1.7
	d 講座、模擬試験等	8	9.2	3	11.5	10	14.7	21	11.6
	e 資格取得補助	13	14.9	2	7.7	8	11.8	23	12.7
	f 面接、コミュニケーション力	14	16.1	7	26.9	7	10.3	28	15.5
	g その他	3	3.4	0	0.0	0	0.0	3	1.7
						1		1	
12 先生とのふれあい	a 大変満足	14	16.1	0	0.0	19	27.9	33	18.2
	b まあまあ満足	39	44.8	9	34.6	35	51.5	83	45.9
	c どちらとも言えない	29	33.3	17	65.4	13	19.1	59	32.6
	d やや不満	3	3.4	0	0.0	1	1.5	4	2.2
	e 大変不満	2	2.3	0	0.0	0	0.0	2	1.1
	不明		0.0		0.0		0.0	0	0.0
13 事務職員の対応	a 大変満足	12	13.8	0	0.0	11	16.2	23	12.7
	b まあまあ満足	44	50.6	5	19.2	26	38.2	75	41.4
	c どちらとも言えない	23	26.4	17	65.4	26	38.2	66	36.5
	d やや不満	3	3.4	4	15.4	3	4.4	10	5.5
	e 大変不満	5	5.7	0	0.0	2	2.9	7	3.9
	不明		0.0		0.0		0.0	0	0.0
14 全体点数	100点	4	4.6	0	0.0	8	11.8	12	6.6
	80点～99点	27	31.0	3	11.5	28	41.2	58	32.0
	70点～79点	33	37.9	11	42.3	24	35.3	68	37.6
	60点～69点	11	12.6	7	26.9	3	4.4	21	11.6
	50点前後	10	11.5	5	19.2	4	5.9	19	10.5
	40点以下	2	2.3	0	0.0	1	1.5	3	1.7

卒業生アンケートを、在学生の「平成16年度満足度調査結果」（平成17年1月実施）と比較してみると次表のとおりである。

		授業	先生	友人	事務局
ビジネスライフ学科	在学生	51.1	50.7	82.6	54.5
商経科	在学生	55.9	59.0	83.6	64.1
	卒業生	66.9	67.2	75.6	65.8
経営情報科	在学生	51.5	60.2	83.4	55.1
	卒業生	60.6	58.7	76.9	51.0
こども学科	在学生	55.8	60.8	91.6	73.2
初等教育科	在学生	59.1	67.3	88.2	73.1
	卒業生	75.0	76.5	82.7	65.7

在学生の満足度調査では、学生に「何パーセントくらい満足しているか」という設問方式であるが、卒業生アンケートでは、大変満足から大変不満の5段階としたため、5段階を点数化（100、75、50、25をかけたもの）したもので比較した。授業に対する満足度は、卒業生の方が総じて高くなっている。特に初等教育科の満足度は、他学科に比べても高くなっている。また、先生とのふれあいと事務職員の対応では、商経科、初等教育科は卒業生の方が数値が高い。

## ② 「卒業生アンケートの結果」の分析

「卒業生アンケート」の結果を見て、まず注目すべきは、旧3学科の中で、初等教育科が全体的に優れた評価を示していることである。それと対照的に商経科の評価が概して芳しくない。以下、個々の点について、気の付いたことを列記しておきたい。

### (1) 「授業・教育について」

・「4 社会で役立っているか」：「役に立っている+少し役に立っている」の割合  
 商経科：63.2% 経営情報科：76.9% 初等教育科：70.6%

経営情報科の評価が高いのは、情報教育という一定の専門性に絞った学科編成によるところが大きいであろう。

・「5 授業満足度」：「大変満足+まあまあ満足」の割合  
 商経科：64.4% 経営情報科：61.5% 初等教育科：80.9%

初等教育科の評価が高い。教員志望という明確な目的意識を持った学生に、それに見合った授業を提供するという、教育サービスの供給と需要がうまくかみ合っていることを示している。それに対して商経科は振るわない。経済系の学部・学科に多く見られるように、需要側（学生）には明確な目的意識が概して希薄であること、また供給側（授業）においては、会計・経営・経済の3領域にまたがったオールラウンドなビジネス知識の提供が中心

であったこと、その結果、両者の接合点が曖昧であることに起因するのであろう。

留意したいのは、「社会で役に立っているか」の項目では最も高い評価を得ている経営情報科が、「授業満足度」では最も低く評価されている点である。専門的知識や技能の修得といった「有用な授業」に対して、それだけでは必ずしも学生は「良し」とは考えていないのである。「資格取得」や「有用な授業」がカリキュラム改革の目玉にされる現今の状況において、何故にこのような結果がでたのかについては、十分に検討しておくに値する事柄であると思われる。

## (2) 「学生生活について」

- |   |
|---|
| ・「7 友人関係」：「大変満足+まあまあ満足」の割合<br>商経科：79.3% 経営情報科：88.5% 初等教育科：91.2% |
| ・「8 課外活動」：執行部・クラブに所属していた割合<br>商経科：36.8% 経営情報科：19.2% 初等教育科：52.9% |
| ・「9 課外活動の満足度」<br>商経科：78.1% 経営情報科：80.0% 初等教育科：83.3%              |

ここでも、初等教育科の評価は高い。とりわけ課外活動への参加者割合では、初等教育科は50%を超えている。課外活動への参加は学生の積極的な生活態度を示すひとつのシグナルであり、また人格形成に寄与するとことも大きい。学生の目的意識性や教育職につく上での必要性に加えて、同科の学生に対する教育指導の在り方に起因するところが大きいと考えている。

## (3) 「就職活動について」

- |  |
|--|
| ・「11 就職支援体制」：「大変満足+まあまあ満足」の割合<br>商経科 49.4% 経営情報科 19.2% 初等教育科：51.4% |
|--|

「授業・教育」に比べ、就職支援についてはかなり立ち遅れているのがわかる。とりわけ、経営情報科が著しく低い評価にあることは何に起因するのだろうか。就職状況の停滞を打開するためにも、早急の分析と対策が必要である。具体的なデータが提示されていないので、判断は差し控えたいが、「13 就職指導」の項目において、「求人情報の提供」を就職指導に必要であるとみなす割合がもっとも多いことに鑑みるならば、この点が不十分と考えられる。今後、立ち入った検討が必要であらう。

#### (4) 「短大全体について」

- ・「14 先生とのふれあい」：「大変満足」＋「まあまあ満足」の割合  
商経科：60.9% 経営情報科：34.6% 初等教育科：79.4%
- ・「15 事務職員の対応」：「大変満足」＋「まあまあ満足」の割合  
商経科：64.4% 経営情報科：19.2% 初等教育科：54.4%

経営情報科の著しく低い評価については、サンプルの母数が小さいことのゆえに生じた、数値上の偏差と考えられる。

- ・「全体点数」：度数分布の山  
商経科：70～79点 経営情報科：70～79点 初等教育科：80～99点

初等教育科が高い評価を得ているのはともかく、商経科、経営情報科ともに70～79点を獲得しており、全体評価としてはまずまずの水準にあると言ってよいと思われる。70点台という点数の意味することは、日常的な感覚から言えば、「ずばぬけて良いわけではないが、それなりに評価できる」といったところであろう。我々教員としてはここに安住していいわけではないが、卒業生たちは、本学での学園生活を有意義なものとして、一定の評価を与えていると考えたい。

#### (5) 在学生の「満足度調査結果」との比較

卒業生と在学生の満足度を比較してみると、全学科で卒業生の示す満足度の方が上回っていることがわかる。卒業生の満足度については在学生のそれと直接比較はできないが、度数分布の山から推測すれば、明らかに、前者は後者を上回る。これには二つの面が顕われていると思われる。

一つは、本学を卒業して一定の時間が経過し、社会経験を経た後の評価は、在学生のそれに比べて、より客観的なものであり、在学生の評価に勝るといえる点であり、二つは、かつての短大の在り方は卒業生の評価に見られるようにそれなりの社会適合性を持ちえていたが、現今の時代の変化の中で、短大は学生たちのニーズに適切に対応することが困難となっており、それが在学生のネガティブな評価に現れているという面である。

前者の解釈をとれば、楽観してもいられようが、後者の解釈を取れば、適切な対応をとることが、喫緊の課題となる。おそらく現実は両者があい重なるところにあるのであろうが、後者についての検討がとりわけ必要であろう。卒業生の場合は、感傷的な思いから甘い評価をすることも考えられるが、時代状況はここ4～5年の間に大きく変わり、学生たちの目的意識や生活態度に大きな変化が見られることは否めない。新たな教育の在り方を追求してゆきたい。

### <ビジネスライフ学科長>

ビジネスライフ学科はまだ卒業生を出していないので、旧商経科と旧経営情報科の傾向について触れる。学生一人一人が自らに適した職業を選択しており、多くの学生は一般事務職に就職していて、学科として就職先が一定しているわけではない。旧経営情報科は過去2年間50%を下回ったが、昨年度は上向き、全学の就職率とほぼ同じになった。旧商経科では旧経営情報科と同じく過去2年間は50%を下回り、昨年度ようやく50%を超えた。しかし、いまだに全学の中でも低い状況に低迷していることに変わりない。

そして一方、旧商経科では就職しない者が25%も存在して、他学科と比べても高い割合を占めている。学生自らの夢を確かめさせることから、インターンシップを奨励し、誠実な学生を企業へ派遣している。実習を終えた学生は「非常に良かった、貴重な体験であった」と確信を深めているが、受け入れてくれた企業側での学生への評価は決して甘いものではない。単なるノウハウだけの教育や資格取得のための教育ではなく、社会常識やマナーにも優れ、どのような状況に置かれても柔軟に対応できるような学生を育成してゆきたいと考える。

### <こども学科長>

組織的に調査を行っているわけではないが、様々な機会に就職先の幼稚園関係者に伺うと、他の幼稚園教諭養成校の卒業生と比べて特に即戦力として優れているわけではないが、頑張りやで、仕事熱心で、誠実であるということが、共通に指摘される。人間性の点で評価されていると言えよう。

小学校就職者については、こどもの中に溶け込みこどもと共に熱心に活動し、同僚の教員仲間とも良い人間関係を築き信頼も厚いとの評価である。

このように人間性についてはある程度の評価を得ているが、学科が目標としている即戦力としての教育技術、現場に出てからさらに成長していくための能力をより一層修得させるために努力を重ねて行きたい。

卒業生に対する調査の結果については、その満足度の高さが、当時の教育が優れていたからというだけでなく、社会に出て振り返ったときに本学科の教育の良さがますます理解されるようになったことによるものと解釈される。このことから、本学科の教育方針については、基本的に堅持して教育に当たって行きたい。

### <学長>

系統立った調査の結果ではないが、企業の方々と様々な機会に本学の卒業生についての評価を伺うと、いわゆる偏差値的な学力については全ての学生が決して高いとは言えないが、意欲ややる気、積極性等については一定の評価を頂いていると考えている。

就職先として会社の知名度や大企業志向に走ることなく、地道に地元の経済の活性化に貢献し、地域社会を支えることのできる人材を養成するべく努力しているところであり、

地元の企業等からこのような評価を頂いていることは有難いことであり、意を強くしている。

本学としては、就職先で即戦力となるための実学教育やインターンシップを一層充実するとともに、就職観や職業観、自らのキャリアをデザインする能力、就職後も自らの人生を切り開いていくため研鑽し続ける資質等の育成に努めていきたい。

#### <特記事項>

単なるノウハウのみの教育や資格取得のためのみの教育では、短期大学としての教育としては不十分である。本学においては、社会に出てからの様々な状況の変化に柔軟に対応できる、「生きる力を育むこと」が重要と捉え、知識の伝達のみではなく、短期大学教育全体を通じての全人教育を目指している。

具体的な内容としては、学生一人一人に対してきめ細かな指導を実現するための少人数教育の充実、学業不適應や心の悩み等に対して専門的なカウンセリングを行う体制の整備、

1年次から自らのキャリアを開拓し、確固とした職業意識を身に付けるためのキャリア教育の導入とインターンシップの充実、国際化著しい社会に対応するための海外研修等による国際理解、外国語教育の充実、少子化社会の中で子供に直接かかわる体験を行うための「こども造形教室」の推進等である。

これらの総合的な取り組みを通じて、全人的な教育をさらに推進していきたい。

## 評価領域 V. 学生支援

### 評価項目 1. 入学に関する支援について

#### (1) 入学志願者に対する建学の精神、教育目的・目標等の提供について

##### ① パンフレット・ビデオ

パンフレットやビデオを作成し、受験生に本学の教育について情報を提供している。ここでは建学の精神についてはもちろんのこと、両学科の教育目的や目標について学科長が説明している。また、学生や卒業生の声も紹介して、本学の様子が理解できるように努めている。

##### ② オープンキャンパス

オープンキャンパスでは、建学の精神、学科ごとの教育目標、学科紹介ビデオの上映、在学生や卒業生の体験談、入試概要等の説明、施設見学を中心に行い、本学を理解してもらえるように努めている。過去3年間の回数と参加者は、以下のとおりとなっている。

年 度	回数	参加者数			
		商経科	経営情報科	初等教育科	計
平成14年度	11回	151	105	331	587

年度	回数	参加者数		
		ビジネスライフ学科	こども学科	計
平成15年度	9回	232	594	826
平成16年度	9回	191	786	977

##### ③ 学校見学

高校の学習指導要領の改訂に伴い、総合学習の時間を利用して、早い時期から希望分野の学校見学を実施する高校生が増える。建学の精神・学科ごとの教育目標・入試概要等の説明、施設見学を通して、その要請に応じている。過去3年間の実施状況は、以下のとおりである。

年 度	校 数	参加者数
平成14年度	3	98
平成15年度	3	95
平成16年度	3	19

##### ④ 進学相談会・校内ガイダンス・模擬授業

進学相談会・校内ガイダンス・模擬授業の要請が高校からあれば積極的に出向き、本学の内容について広報している。過去3年間の参加者状況は以下のとおりとなっている。

年 度	進学相談会	校内ガイダンス	模擬授業	計
平成14年度	116	130	0	246
平成15年度	120	116	101	337
平成16年度	130	288	66	484

## ⑤ CKCニュース

進路を検討している高校生や高校教員への資料提供を目的として、パンフレットでは伝えきれない本学の特徴・教育内容・学生生活などについて、学生の声を取り込み、時期に応じて分かりやすく具体的に紹介している。

平成14年4月より、年間約10号を発行し、千葉県内の高校および県外で本学に入学志願者のいる高校等、約200校の第3学年主任・進路指導部長宛に送付している。身近で親しみやすい広報として評価され、高校内の掲示板などで活用されている例もある。また、オープンキャンパス参加者や個人の資料請求者に配布したり、ホームページで公開したりして個人でも閲覧できるようにしている。

受験生からの「入学志願者アンケート」では、この「CKCニュース」が本学を印象づけたものとして最も多くの回答を得ており、本学の広報活動の大きな特色の一つとなっている。

## ⑥ ホームページ

教職員で構成するホームページ・ワーキンググループにより、学内で全ての更新等の作業を行っている。建学の精神・本学の特色・キャンパスライフ・卒業後の進路・入試情報等は職員が担当し、学科の教育内容・教員のページ・シラバス等は各学科の教員が担当している。

高校生から見て分かりやすいことを第一に考え、在学生や卒業生のメッセージを入れたり写真を多くしたりして、本学の様子がより伝わるように工夫している。

## (2) 入学志願者に対する入学者選抜方法等の提供について

パンフレット、オープンキャンパス、学校見学、進学相談会、校内ガイダンス、CKCニュース、ホームページ、新聞、受験雑誌、ポスターなどで入学志願者に対して入学者選抜方法を明示している。

パンフレットは5月中旬に、また入試要項は7月中旬に、千葉県内の高校を中心に配布している。

また、電話、ホームページなどからのメール、受験業者を介した資料請求者に対しては、パンフレット、入試要項、CKCニュース等をその都度送付している。

## (3) 広報、入試事務の体制について

入試広報センター職員7名が広報・入試業務を担当している。

志願者本人、高校の進路担当者、保護者からの問い合わせは、入試広報センターが窓口となり、迅速かつ丁寧に対応している。

## (4) 入試業務の概要について

### ① AO入試

アドミッションポリシーに基づき選考を行うAO入試を、平成14年度から開始した。

その選考プロセスはまず、本学に対する理解およびAO入試のプロセスを知ingことを目的として事前相談を行い、志望者にはエントリーシートの提出を義務付けている。エントリーシート提出者に対しては、1次面談を30分程度実施する。その後、出願手続きをした者に第2次面談を30分程度実施する。なお、2次面談のこども学科では、必要に応じて特技の披露や読み聞かせを行っている。この2回の面談で入学志願者の適正や入学意欲・目的等について総合的に判断している。

本学のAO入試の特色は、充実した入学前教育にある。ビジネスライフ学科では専門的学習の入門書を読ませてレポートを提出させ、アドバイス等を行っており、こども学科では「こども造形教室」に参加させ、レポートを提出させてアドバイスをを行う等の工夫を行っている。

#### ② 附属校推薦入試

千葉経済大学附属高校の生徒を対象に、同じ学園内の学校として相互の信頼関係に基づいた推薦入試を実施している。ビジネスライフ学科は面接を、こども学科は面接と作文を課している。出願書類とあわせて総合的に判定している。

#### ③ 指定校推薦入試

本学への受験実績および入学実績を基に、千葉、東京、茨城の地域性を考慮して指定校を定めている。推薦条件は、(ア) 指定高等学校長の推薦、(イ) 当該年度卒業見込みの者、(ウ) 人物優秀、心身ともに健康で勉学意欲があり、本学が専願であること、(エ) 高等学校第3学年1学期(前期)までの全体の評定平均値3.0以上であること、(オ) 高等学校第3学年1学期(前期)までの欠席数が30日以内であること。ただし、やむを得ない事由により30日を越える場合は特段の配慮をしている。

両学科とも、出願書類および面接により判定している。なお、こども学科ではさらに作文も課している。

#### ④ 一般推薦入試

一般推薦入試は、指定校では推薦枠に洩れた者、または指定校以外の高等学校で次の推薦条件を満たしている者を対象としている。(ア) 高等学校長の推薦、(イ) 人物優秀、心身ともに健康で勉学意欲があり、本学が専願であること、(ウ) 高等学校3年間または第3学年1学期(前期)までの全体の評定平均値3.0以上であること、(エ) 高等学校第3学年1学期(前期)までの欠席数が30日以内であること。ただし、やむを得ない事由により30日を越える場合は特段の配慮をしている。

選抜は、出願書類の審査、作文および面接によって総合的に行っている。本入試は年4回実施している。

#### ⑤ 特別推薦入試

特別推薦入試は評定平均値と欠席日数の基準は設けていない。心身ともに健康で向上心と勉学意欲があり本学専願である者を対象としている。推薦の形式は、(ア) 出身高等学校の学級担任、クラブ顧問による推薦、(イ) 本学同窓生、本学在学生の父母、本学園教職員などによる推薦、(ウ) 受験生本人による自己推薦がある。選抜は、出願書類の審査、作文および面接によって総合的に行っている。本入試は年4回実施している。

#### ⑥ 一般試験入試

一般試験入試は1期から3期まで3回実施している。選抜は第1期・第2期ともに国語Ⅰ・Ⅱ(古文、漢文を除く)、英語Ⅰ・Ⅱのいずれか1科目と面接、作文(こども学科のみ)で実施している。なお、第3期は作文、面接のみで実施している。

平成15年度～17年度の入試結果は、別添資料3. のとおりである。

#### (5) 入試の公正性、正確性の確保について（入試事務責任者）

選抜方法が極めて多様なものとなり、試験の実施回数も増えてきているため、公正さ、正確さを確保するために最大限の配慮を行っている。特に、試験問題の印刷等を学内で行っているため、出題ミス、安全管理の確保にも気を配っている。入試問題の作成、管理、採点はもとより、入学者選抜に当たってますます重要性を増してきている面接における公平性の確保についても留意している。

幸いにして入試に関するミスやトラブルは発生していないが、今後とも気の緩みの無いよう職員を指導して行きたい。

本学は、地域密着性が高いため、特に千葉県内の高等学校との相互信頼の確保が極めて重要であると考えている。一度公平性、正確性を欠くようなミスが発生すると、高等学校との信頼関係を大きく損なうこととなるため、入試に当たって公平、正確であることが最大の要件であるとする。

#### (6) 入学前の指導、情報提供について

本学では、AO入試合格者を対象に、勉学に対する意欲の向上と入学後の大学生活の円滑化を目的とする「入学前オリエンテーション」を行っている。その主な内容は、入学予定者間での交流と学科の教育内容の理解を目的としている。

ビジネスライフ学科では、教員と入学予定者、入学予定者同士が話しやすいように懇談会形式をとり、参加者の紹介、学科の特徴とその学び方などが指導される。

また、エコノミクス・ビジネスマーケティング・アカウンティング・コンピュータ・インターネット・司書課程といった、それぞれのフィールドの専門的学習への導入となるような各分野の入門書 12 冊が提示される。その中から各自 1 冊選択して、本の内容で自分が特に興味や関心をもったこと、感動したことなどを 3 点あげ、それに対する自分の意見や感想を 400 字詰め原稿用紙 5 枚にまとめたレポートを提出する。

提出されたレポートは、各分野の担当教員が細かくチェックし、丁寧なコメントを付して本人に返却する。このコメントをとおして、専門書の読み方や入学前に学習しておいた方が良い点などについて、改めて詳細にアドバイスしている。

こども学科では、本学独自の教育活動である「こども造形教室」への参加を入学前教育としている。この「こども造形教室」とは、毎月第 2 土曜日に地域の幼児・児童 100 名あまりが来校し、本学科の学生たちとともに造形活動をとおして、幼児・児童の生活体験・社会体験を豊かにすることに大学が貢献する地域文化活動である。同時に、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士をめざす本学科の学生たちにとって、子どもたちと直接ふれ合い学ぶことのできる貴重な体験学習の機会でもある。本学科への入学を志望する高校生たちの中にも、入学志望動機としてこの「こども造形教室」への関心を挙げる者が多い。

入学前教育では入学予定者たちが在学学生を見習いながら、作品を製作する子どもたちに個別に対応し、会話を楽しみながら指導や援助を行う。参加後は、自宅で感想文をまとめ、大学へ提出された感想文に教員が添削し、コメントを記して返却する。文章にまとめることにより、入学予定者は自分自身をみつめ自己課題や豊富を明確にすることができ、教員との個別のやり取りをとおして、本学の学生であるという意識を持つことができる。

本学の雰囲気を体験的に知ることができ、同級生や在学学生と面識を持てることにより、安心して入学を迎えることができ、高校生活から大学生活への移行が円滑に行える。また、造形活動にかかわることで子どもへの指導や援助について学び、問題意識をもつことがで

きて、教育・保育の専門職を目指す者としての入学後の自覚や学習意欲へつながると考えられる。

そのほかに、初等教育・保育の現場において必須の技術とされるピアノについて、担当教員が授業内容やレベル、入学までにできる準備について説明を行い、特に初心者に対する不安軽減をはかり、具体的な授業イメージをもつことができるよう配慮している。

#### (7) 入学後のオリエンテーションについて

入学時（入学直前含む）に行う、教員と職員による約 6 日間の集中ガイダンスの中で、学業や学生生活のためのオリエンテーションを行っている。

オリエンテーションでは、その内容により学科別の説明と学科共通の説明に分けて行う。学科別の説明では、学科の概要説明に始まり卒業要件、資格要件、履修要項、履修手続、ゼミナールガイダンス等を行っている。

学科共通の説明としては、学生生活の心得、学友会やクラブ活動の説明、さらにカウンセリングセンターや図書館の説明、進路指導ガイダンス、インターンシップガイダンス等の紹介などを行っている。

また、そのガイダンス期間中に、大学主催の新生歓迎会を 1 日開催することにより、教員と学生、また学生同士の親睦に大きく役立っている。

なお、2 年次生に対しても、この時期、並行的に科目履修のガイダンスを行っている。

### 評価項目 2. 学習支援について

#### (1) 教務関係のガイダンスについて

入学時ガイダンスで、学科の説明、履修コース・フィールドの説明、履修要項・手続きの説明を行っている。そのガイダンスで充分理解できない学生に対しては、後日、丸 1 日をかけて集中的に相談を受ける履修相談コーナーを開設している。

#### (2) 学生支援のための各種印刷物について

印刷物としては、学生便覧（約 150 ページ）、授業要項（約 330 ページ）を用意している。

学生便覧には、学生生活に欠かせない各種案内、各施設案内、就職斡旋、定期試験、教務関係諸手続き、各学科の履修要項、学則を始めとする各規程等を掲載しており、学生生活に必要な情報が満たされている。

また、各授業の内容をできるだけ分かりやすく説明した授業要項を用意して、学生が科目選択する際に役立てられるようになっている。

#### (3) 基礎学力が不足している学生に対する取り組みについて

柔軟な卒業要件の設定とカリキュラム編成を行っているため、基礎学力が不足している学生についても、卒業要件を充たし卒業することが可能となっている。

こども学科については小学校、幼稚園の教諭や保育士の免許・資格取得を卒業要件としていないため、卒業後就職を予定していない学生にとっても幅広くこどもに対する理解を深め、将来の育児に役立てるという学習目的も可能となっている。

ビジネスライフ学科については、多様な進路に対応した大幅な自由選択性を採用し多彩な授業科目を設定しているため、自らの人生設計や学習目的に対応し、学習することが可

能である。

また、両学科とも各々の授業を進める際に学生の学力のバラツキに配慮した指導を行うよう、ファカルティデベロップメント活動等において相互に情報交換し、研究を進めている。

#### (4) 学習上の問題、悩み等に対する指導・助言のための取り組みについて

比較的少人数の大学であるが故に、教員・事務職員と学生の距離が近く、小さな悩みから気軽に相談できる雰囲気が学内にある。

カウンセリングセンターは、学長・学生部長・センター長・学務課長による運営委員会での運営を審議し、学生の悩みに専門的に対応している。また、保健室では健康上の問題に限らず、学生生活の悩みにもきめ細かく対応している。

また、こども学科では、学生生活をとおして起こる個人的な悩みや勉学上の問題に対して適切なアドバイスや援助を行うために、学生をいくつかのクラスに分け、それぞれのクラスに担当教員を置いている。

<保健室における相談内容と件数（延べ人数）>

	相談内容												合計
	治療中の疾患	身体症状	精神面	進学進路	授業	恋愛	対人関係				経済面	その他	
							友人	教職員	異性	家族			
平成14年度	4	34	2	6	28	1	0	0	1	1	0	12	89
平成15年度	11	28	3	9	31	2	1	0	0	0	0	52	137
平成16年度	3	50	4	7	35	6	7	0	0	1	2	40	155

#### (5) 優秀な学生に対する学習上の配慮について

柔軟なカリキュラムを設定しているため、優秀な学生は年間に履修できる単位の上限（50単位）まで自由に科目履修ができるようになっている。従って、意欲のある学生は限度一杯まで履修し、様々な専門分野の学習を行っている。

また、将来の進路を見据えながら、様々な資格、検定試験に挑戦することができる。簿記検定、日本語文書処理技能検定、ファイナンシャル・プランナー、秘書技能検定等であり、このような資格取得に対応したカリキュラムも用意されている。

図書館司書の資格については、司書課程の科目を履修することにより取得することができるが、この科目の履修は年間履修単位の上限の枠外として履修しやすいように配慮している。

また、千葉経済大学や県内他大学の授業を履修することのできる特別聴講学生の制度もあり、様々な教育ニーズに対応できるように配慮している。

### 評価項目 3. 学生生活支援体制について

#### (1) 学生生活支援のための組織、体制について

学生部会（教員 8 名）、学務課（職員 7 名：兼務 2 名、看護師 1 名）の体制で学生活動を支援している。具体的には、新入生歓迎会、スポーツ祭、学園祭（とどろき祭）等の学生が行う活動に学生の自主性を尊重しながら、企画から会計まで側面から強力な支援を行っている。

#### (2) 課外活動等の現状について

##### ① クラブ活動の現状

学内施設（体育館、部室等）の利用は午後 8 時まで可能であり、各クラブが、それぞれ自分たちの都合にあった時間帯で活動しやすい環境を作っている。

また、本学は、日本私立短期大学協会が催す全国私立短期大学体育大会に毎年参加している。

#### <クラブ・同好会活動一覧>

##### ○体育会クラブ

クラブ名	学生数
硬式テニス	16
バスケットボール	30
バドミントン	25
バレーボール	10
スクーバダイビング	52
ソフトボール	12

##### ○文化系クラブ

クラブ名	学生数
小原流華道	9
日本古流華道	4
会計研究	9
吹奏楽	11
合唱	9
国際交流	15

##### ○同好会

クラブ名	学生数
ソフトテニス	6
ファイナンシャルプランナー	11
サッカー	12
フットサル	13
パソコンクラブ	5
軽音楽	5

クラブ名	学生数
ソフトバレー	13
フリースタイル	10
芸術	5
バンドサークル	15
書道同好会	7

## ② 学友会の現状

2 学科で約 800 名の学生が学友会に所属している。学友会執行部は、学園祭、スポーツ祭、およびクラブ活動・同好会の企画・運営・管理を行っている。

年間予算は、約 1,000 万円である。

## ③ 学園行事の現状

学園祭（とどろき祭）は毎年 11 月上旬に 2 日間にわたって開催され、クラブ・同好会やゼミが主催する発表会や催し物を始め、外部から若手タレントを招いたイベント等が行われる。併せて、当日は模擬店も出展され、他校の学生や近隣地域の住民・子どもたちも自由に参加できるようになっている。また、スポーツ祭は新入生を中心に 5 月下旬に開催され、学生同士や教職員との親睦を図り、豊かな人間関係をつくることに役立っている。

## （3） 学園生活を快適なものとするための施設について

短大の敷地内に学生ホールがあり、1 階にはプラズマテレビが設置され、2 階では自習が出来るようになっている。パソコン教室も、授業のない時間には学生の要請に応じて開放されている。

同じ敷地内に学生食堂があり、利用しやすい環境が整っている。また、本部棟に看護師が対応する保健室があり、学生の心身の悩みに応えられるようになっている。加えて同じキャンパスにある千葉経済大学の学生ホールや学生食堂も、自由に利用できるようになっている。

さらに、新たに短大敷地内にクラブ・同好会の部室（18 部屋）を備えた新体育館を建設中（平成 17 年 9 月竣工予定）である。

## （4） 学生の通学の状況について

学校は JR 総武線西千葉駅から徒歩 15 分（巡回バス 5 分）、千葉都市モノレール作草部駅、天台駅からいずれも徒歩 5 分と交通の便は至極いい場所にある。

なお、自転車通学者のために自転車を 100 台程度置ける自転車置場を設けている。学生の自動車・バイク通学は、安全上の観点から禁止している。

## （5） 奨学金の取得の状況について

### ① 日本学生支援機構の奨学金制度の概要

日本学生支援機構の奨学金制度で、第 1 種（無利子）第 2 種（有利子）の種別がある。

### ② 千葉経済学園奨学金制度の概要

千葉経済学園全体の奨学金制度であり、毎年約 10 名程度の学生に 250,000 円を限度に無利息融資を行うものである。

### ③ 受給状況

＜奨学金受給者一覧＞

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
	受給者数	受給者数	受給者数
日本学生支援機構（1種）	24	31	45
日本学生支援機構（2種）	31	41	64
千葉経済学園	—	—	1

## （6）学生の健康管理、メンタルヘルスのための体制について

### ① 保健室

（運営体制）・・・看護師1人、学務課職員（看護師との連携）

### ② カウンセリングセンター

（運営体制）・・・カウンセラー2人がおり、学長・学生部長・センター長・学務課長による運営委員会でその運営を審議している。

## （7）学生支援のための個人情報の保護・管理について

### ① 個人情報の保護に関する規程の制定

本学園においては「個人情報の保護に関する法律」の趣旨に基づき、規程を制定し、平成17年4月1日に施行した。

規程においては、個人情報の保護、個人情報の取扱いに伴う情報主体に係る権利・利益への侵害の防止に関する必要な措置を定めたもので、個人情報の収集の制限、利用及び提供の制限、個人情報の適正な管理、開示及び訂正、不服の申し立て及び個人情報保護委員会等を主な内容としている。

本学はこの規程を学生及び保護者並びに教職員に周知するとともに、規程の趣旨を踏まえ、適切な措置を講じているところである。

### ② 個人情報の具体的な取扱いについて

学校が取扱う個人情報は多岐に渡り、膨大な量であり、また、教育・指導と密接に関係しているため、総てを網羅した規程を作成することは困難である。しかし事柄の重要性に鑑み、事務局がデータとして保持する個人情報については、(ア)取得時の説明、(イ)本人の同意の取得、(ウ)外部委託、第三者提供に当たっての留意点、(エ)管理方法・保存期間、(オ)管理責任者等について規定した内規を作成し、その適切な取扱いを行っている。

なお、一人一人の教員が取扱う学生の成績等の情報も膨大で、極めて重大な個人情報であるため、教授会において学長からその取扱い、管理について十分留意するよう全教員に指示を行ったところである。

評価項目 4. 進路支援について

(1) 就職の状況について

		平成16年度		平成15年度		平成14年度	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
(a)	卒業生数	152		125		122	
(b)	就職希望者数 (割合(b)÷(a))	108	71.1%	72	57.6%	59	48.4%
(b')	就職者数 (割合(b')÷(b))	78	72.2%	50	69.4%	52	88.1%
(c)	うち学校で斡旋した就職者数 (割合(c)÷(b))	39	36.1%	21	29.2%	31	52.5%
(d)	うち自己開拓分の就職者数 (割合(d)÷(b))	39	36.1%	29	40.3%	21	35.6%
(e)	不明・無業者数 (割合(e)÷(a))	52	34.2%	49	39.2%	48	39.3%
	幼稚園	6	7.7%	3	6.0%		
	情報処理	1	1.3%	1	2.0%		

		平成16年度		平成15年度		平成14年度	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
(a)	卒業生数	71		83		69	
(b)	就職希望者数 (割合(b)÷(a))	49	69.0%	45	54.2%	32	46.4%
(b')	就職者数 (割合(b')÷(b))	42	85.7%	32	71.1%	30	93.8%
(c)	うち学校で斡旋した就職者数 (割合(c)÷(b))	22	44.9%	15	33.3%	15	46.9%
(d)	うち自己開拓分の就職者数 (割合(d)÷(b))	20	40.8%	17	37.8%	15	46.9%
(e)	不明・無業者数 (割合(e)÷(a))	19	26.8%	39	47.0%	32	46.4%
	情報処理	2	4.8%			1	3.3%

		平成16年度		平成15年度		平成14年度	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
(a)	卒業生数	118		124		135	
(b)	就職希望者数 (割合(b)÷(a))	102	86.4%	89	71.8%	80	59.3%
(b')	就職者数 (割合(b')÷(b))	88	86.3%	81	91.0%	73	91.3%
(c)	うち学校で斡旋した就職者数 (割合(c)÷(b))	50	49.0%	34	38.2%	44	55.0%
(d)	うち自己開拓分の就職者数 (割合(d)÷(b))	38	37.3%	47	52.8%	29	36.3%
(e)	不明・無業者数 (割合(e)÷(a))	24	20.3%	34	27.4%	51	37.8%
	幼稚園	46	52.3%	51	63.0%	55	75.3%
	小学校	6	6.8%			1	1.4%

本学の就職状況について、本学全体での状況について見ると、過去3ヶ年の卒業生数は、平成14年度326名、平成15年度332名、平成16年度341名であり、この卒業生数に対する就職者数の割合を見ると、平成14年度155名47.5%、平成15年度163名49.1%、平成16年度208名61.0%である。

この卒業生数に対する就職者数の割合は、全国の短期大学の状況と較べ、低い状況にある。

このような状況は就職観、職業観の変化に伴う全国的な趨勢を大都市部に所在する本学が典型的に示しているものと思われる。

本学においては学生が自らキャリアを開拓する意欲と能力を育むため、1学年からキャリアデザインの授業を必修科目として開設する等の様々な対策を講じているところである。

#### ① 商経科

商経科の卒業生数は、平成14年度122名、平成15年度125名、平成16年度152名である。卒業生数に対する就職者数並びに就職率は、平成14年度52名42.6%、平成15年度40%、平成16年度78名51.3%である。

商経科の就職者数・就職率は、本学の全体と比較しても、5%から10%低い数値となっている。また、平成12年度と比較しても、卒業161名、就職者数94名、58.4%と比べると減少している。

一方で就職しない者の数が31名(19.3%)から38名(25.0%)と増加している。

#### ② 経営情報科

経営情報科の卒業生数は、平成14年度69名、平成15年度83名、平成16年度71名である。卒業生数に対する就職者数並びに就職率は、平成14年度30名43.5%、平成15年度32名38.6%、平成16年度42名59.2%である。

経営情報科の就職者数・就職率は、年度によって差があるが、平成16年度は過去2年(平成14年度、平成15年度)に比べると良くなり、本学全体の就職率とほぼ同じとなった。

#### ③ 初等教育科

平成12年度(卒業生107名、就職者数81名、就職率75.7%)と比較すると、平成14年度(卒業生135名、就職者数73名)は54.1%と低迷したが、平成15年度(卒業生124名、就職者数81名)は65.3%、平成16年度(卒業生118名、就職者数88名)は74.6%と回復をしてくれている。初等教育科の場合は、小学校教諭及び幼稚園教諭を希望しているものがほとんどであり、年度によって募集状況は変わってきている。

なお、平成16年度の就職未決定者は、教員採用試験を再度受験する者が多い。

### (2) 学生の就職支援のための組織、体制について

現在は、専任教員のうち就職部長1名のほか、ビジネスライフ学科3名、こども学科5名、計9名の教員が就職部員となっている。一方事務局は、就職課長を含め5名で大学及び短期大学部を統合して担当する就職課を構成している。

就職部では、学生への就職相談や、求人企業の開拓、各種ガイダンス・講座などを企画し、就職支援にあたっている。またこども学科の教職及び保育関係については、こども学科就職委員(こども学科教員6名)が就職や教員採用試験について支援している。

学生の進路支援は、就職部・就職課にとどまらず、全学的にゼミ担当教員(ビジネスライフ学科)、相談教員(こども科)が学生の相談に応じている。なお、ゼミに所属していない一部のビジネスライフ学科の学生についても相談教員を置いている。

こども学科に進学してくる学生については、各自の将来の夢が小学校教諭、幼稚園教諭、保育士であるため、必要な知識、スキルが明確である。一方ビジネスライフ学科に入学してくる学生については、将来の目的・目標が確定していない学生が多いため、平成16年度には、ビジネスライフ学科1年次生を対象としたキャリアプランニング講座を毎週開講

した。平成 17 年度からは、キャリアデザインⅠ・Ⅱをビジネスライフ学科 1 年次の必修科目として開講し、より多くの学生が、卒業後の進路に応じ、各自が在学中にどのような学習や学生生活を送り、どのような将来設計を描けば良いのか自ら考える能力を育むようにした。また 2 年次にはキャリアデザインⅢを開講し、就職活動に直結した指導を行うこととした。

### (3) 就職支援室、就職資料室等の現状、学生に対する就職情報等の提供方法

1 号館 1 階に『就職相談室』を設置している。就職相談室は終日開放されており、学生は授業の空き時間などを利用して自由に資料などが閲覧できるように配慮している。

就職相談室内には、当該年度と過去 3 年間分の求人票や会社案内などの企業に関する資料が各企業別にファイルされており、業種別に色分けして、学生が探しやすいように整理されている。

また、パソコン 3 台を設置し、インターネット環境を整備・充実して、学生の情報収集が円滑に行えるように配慮している。

本学では、1 年次 4 月に就職ガイダンスを実施し、10 月に保護者も同時に参加できる就職説明会、2 月に就職模擬試験及び大学と合同の学内企業説明会を実施している。

ビジネスライフ学科では、キャリアデザインの授業を通し、働くことについて考えるようにした。

一方こども学科では、こども学科就職委員の教員を中心に、専任教員が一丸となって「小学校採用試験対策」「幼稚園試験対策」「保育士試験対策」を随時行っている。さらに、教員が保育園、幼稚園を訪問し、幼稚園、保育園の現場で求められる人材像を聞き、学生指導にあたっている。

### <学長>

学生の就職は、年々難しくなっている。そのような状況の中で一人一人の学生が入学当初の目的を達成することができるよう教職員挙げて支援を行っている。

その結果、就職率としては一定の成果を挙げることができていると考えているが、問題は、フリーターやニートと言った言葉に象徴されるように就職を希望しない学生が相当数に上ることであり、大きな危機感を感じている。

そのため、学生の就職観、職業観を育むことが重要と考え、平成 17 年度からビジネスライフ学科では、1 年次生全員必修の授業科目として「キャリアデザイン」を設けたところである。

### <ビジネスライフ学科長>

ここ 3 年間、雇用情勢の変化や学生の多様化から就職・進学ともに進路状況はかなり停滞しており、特に就職率では全国の短期大学の状況と比べても低い状況にある。目的意識の明確な学生は多くの資格を取得し、激しい就職戦線にも勝ち残って就職しており、旧商経科 37 年間、旧経営情報科 10 年間の就職への実績をふまえて、毎年一定程度の企業において先輩の勤務する企業へ就職している。したがって、企業との信頼関係や地元経済の活性化に少なからず貢献していると考えている。

近年職業意識の乏しい学生が増えており、卒業までに進路を決められない学生も少なからず存在することが、就職率や進学率を停滞させる要因となっている。平成 17 年度からはキャリアデザイン科目を 1 年次全員必修として履修させており、またゼミでは個別指導の強

化をはかり、2年次でゼミを履修しない学生には相談教員制を導入して、自分のやりたい仕事を見つけさせる指導を徹底させている。

### <こども学科長>

平成16年度卒業生までは、そのほとんどが教員を志望して入学しており、全員が教員として就職することを目指して指導にあたってきた。しかし、諸事情で卒業後、他の職業に就く学生も就職希望者のうち30%程度存在し、また、就職を希望せずに卒業する学生もいた。すなわち、教員養成のカリキュラムで学習していくうちに自分が教員としての適性に欠けていると自覚するに至った学生、また小学校教員採用状況が厳しく諦めざるを得なかった学生である。教職という責任の重い仕事であるため、諦めさせなければならないこともあり、ある程度致し方ないことと考えてはいるが、進路を変更した学生については就職指導・支援を手厚く行う必要がある。

しかし、この数年、徐々に小学校教員採用状況が好転し大量採用の時代に入ろうとしており、10名程度の過年度生の採用、平成16年度には10数年ぶりに数名の現役生の採用も実現した。また、本採用にならずとも、臨時採用、養護学校介助員、学童保育指導員としての採用も多くなり、それらの職に就きながら本採用を目指す学生も多くなってきた。平成16年度は、平成17年5月5日現在小学校教員を希望する学生の80%近くが何らかの形で教職に就けるようになり、再び教員養成学科本来の役目が果たせるようになってきている。

幼稚園就職については、この数年希望者の90%以上が就職できており、満足のいく数値として評価している。

### (4) 進学について

過去3年間の本学卒業生の大学への編入学、専門学校等への進学の状況は次の表の通りである。

大学へ毎年20人程度進学しており、そのうち併設の千葉経済大学への進学者が半数以上を占めている。その他、千葉県内の明海大学、淑徳大学などへの進学が多い。

専門学校への進学は比較的少ないが、平成16年度卒業生は8名と例年に比べて多くの学生が進学した。

なお、本学卒業後に新たに免許や資格取得を目指して本学に再入学した者や科目等履修生となった者については、「その他」として挙げた。

		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
商経科	大学編入	13	14	11
	うち千葉経済大学	8	7	7
	専門学校進学	0	0	7
	その他	0	0	3
経営情報科	大学編入	4	5	9
	うち千葉経済大学	3	4	5
	専門学校進学	0	0	0
	その他	0	0	2
初等教育科	大学編入	1	0	2
	うち千葉経済大学	0	0	0
	専門学校進学	1	3	1
	その他	0	1	3
合計	大学編入	18	19	22
	うち千葉経済大学	11	11	12
	専門学校進学	1	3	8
	その他	0	1	8

## 評価項目 5. 多様な学生に対する特別な支援について

### (1) 留学生の受け入れについて

過去3年間の留学生（外国籍）の受け入れ状況は、平成16年度1名である。

#### 留学生に対する学習支援・生活支援について

本学は、開学以来外国人留学生の特別選抜は実施していない。これは、本学の方針として、日本人学生の減少対策として外国人留学生を受け入れるような施策は取っていないためである。

しかし、これは、国籍によって差別をするということでは全くなく、本学の教育を受けるに足る資質と能力を持っている外国籍の学生であれば、日本人と全く同様の入試システムによって入学を許可している。

外国人学生の入学後の教育や指導については日本人学生と変わりなく、教職員がきめ細かい指導を行っている。

### (2) 社会人の受け入れについて

#### ① 過去3年間の社会人学生の受け入れ状況

本学は社会人特別選抜は実施していないため、明確な定義付けによる社会人入学者数は明らかではないが、入学者のうち過年度卒業生の数は下表のとおりである。

年度	入学者数	過年度卒業生数
平成15年度	367	16
平成16年度	405	13
平成17年度	387	16

## ② 社会人学生に対する学習支援の方法・体制

職業経験を有する学生の受け入れは当然行っているが、常勤の職業を持ったまま本学のカリキュラムを履修することは事実上困難であり、殆どの場合、新たな可能性を求め、退職して学業に取り組んでいる。

## (3) 障害者の受け入れについて

過去3年間の障害者を受け入れ状況は、平成17年度入学者1名である。

心身に障害のある学生を受け入れた場合には、その障害の態様と程度に応じ支援の体制を組むとともに、施設・設備面での対応も必要であると考えているが、平成17年度の入学者は、軽度の障害であり施設・設備面での対応の必要は生じなかった。

## <特記事項>

決して特別な取り組みとは言えないが、特に最近、経済的な事情により就学の機会が失われたり、中途退学をせざるを得ない学生が増加傾向にあるため、平成16年度に学園独自の学資援助方策の一つとして学資貸与の制度を創設した。勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に、年額25万円を無利子で貸与するものである。

また、特待生の制度も設け、成績優秀者の授業料を免除している。更に学生の様々な活動を奨励し、活発化するため、次のような表彰制度を設けている。

理事長賞・・・在学期間を通じての成績優秀者（若干名）に対して卒業時に授与される。

とどろき奨励賞・・・在学中に学術・文化・スポーツ・社会活動などの分野で顕著な活躍をした学生に与える。

（受賞例）秘書技能検定準1級の合格者、全国大会で優秀な成績を修めたテニス部 等

学長特別表彰・・・とどろき奨励賞に該当するもののなかでも、特に成績優秀で特別な表彰に値するもの。

（受賞例）秘書技能検定1級の合格者

## 評価領域 VI. 研究

### 評価項目 1. 教員の研究活動について

#### (1) 専任教員の研究実績について

専任教員の平成 14～16 年度の研究実績は、次のとおりである。

学 科 名	研 究 業 績			
	著 作 数	論 文 数	学会等の発表 数	そ の 他
ビジネスライ フ学科	20	42	27	27
こども学科	21	22	9	67
計	41	64	36	94

教員個人の研究業績は、別添資料 4. のとおりである。

#### (2) 研究活動状況の公開について

研究誌として商経科「商経論集」、経営情報科「経営情報論集」、初等教育科「研究紀要」を年 1 回発行し、他大学の図書館、教育機関等に送付している。発行部数は毎年 500～800 部である。平成 17 年度からは、1 誌に統合して発行するように改めた。

また、「学術図書刊行助成金規程」により、図書を刊行する場合 1 件につき 150 万円の範囲内で毎年度原則 2 件に助成する制度を、平成 17 年度から新たに設けたところである。

#### <研究誌掲載論文数> (研究ノート・共同研究報告)

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
商経論集	5	4	6
経営情報論集	3	3	6
研究紀要	2	4	—

#### (3) 科研費等外部研究資金の申請、採択状況について

文部科学省科学研究費の平成 14～16 年度の申請、採択状況は次のとおりである。

年 度	申請件数	採択件数
平成 14 年度	3	0
平成 15 年度	2	0
平成 16 年度	3	0
計	8	0

なお、共同研究者として平成 14・15 年度、次の 2 件の研究課題で採択されている教員がいる。

「シベリアにおける最終氷河期以降の季候と植栽」

「レッドデータ植物群落である太平洋側低地ブナ林の分布と保全に関する研究」

#### (4) 共同研究、受託研究、学内研究発表会等について

##### ① 共同研究

本学は共同研究を助成するため、「千葉経済大学短期大学部研究助成費取扱規程」を整備し、専任教員を中心として企画した研究活動に対し、共同研究費を助成している。

平成 14～16 年度の助成状況は次のとおりである。

年 度	研 究 課 題	担当教員	助成金額
平成 14 年度	太平洋側ブナ自然林の花粉分析学的研究	内山教授、江上講師	1,000,000
	男女共生社会の実現に向けて	藤本教授、市岡助教授	709,394
	越中地域における歴史・地理・法律学的研究	池田教授、坂本教授、伊藤講師、川名教授（大学）	1,000,000
	計		2,709,394
平成 15 年度	筑後川流域における歴史・地理・法律学史的研究	池田教授、坂本客員教授、伊藤非常勤講師、川名教授（大学）	1,000,000
平成 16 年度	太平洋側ブナ自然林の花粉分析学的研究	内山教授、江上講師	1,000,000
	教育実習記録集「ひろはら」のデジタル・アーカイブ作成について	大沼教授、浅田教授	1,000,000
	計		2,000,000

##### ② 受託研究

外部機関から委託を受けて実施した平成 14～16 年度の受託研究は、次のとおりである。

年 度	テ ー マ	担当教員	委 託 機 関	期 間
平成 14 年度	日本の文化と宗教	藤本教授	JELMA ヴィジョンセンター	14.4.1 ～15.3.31
平成 15 年度	同上	同上	同上	15.4.1 ～16.3.31

##### ③ 水曜談話会

学内での研究発表会として、水曜談話会を平成 15 年度まで年 1～2 回開催した。実施状況は次のとおりである。

年 度	開 催 日	テ ー マ	発 表 者
平成 14 年度	14 年 6 月 19 日	学校の危機管理	飯田教授
	14 年 12 月 18 日	カウンセリングセンターを訪れる 学生から現代の若者を考える	齋藤教授
平成 15 年度	15 年 11 月 12 日	イメージを紡ぐ言葉の力	磯野助教授
	16 年 1 月 21 日	『遊び心』を生かして楽しく学ぶ	三好助教授

なお、本談話会は平成 16 年度より、授業事例研究会に移行して行われることになった。

#### ④ 授業事例研究会

授業の内容および方法の改善を図るため、平成 16 年 6 月から教授会終了後に授業事例研究会を開催した。その状況は次のとおりである。

開 催 日	テ ー マ	発 表 者
平成 16 年 6 月 9 日	学生の授業アンケートについて	三上教授
平成 16 年 7 月 7 日	ライブとしての授業	中村教授
平成 16 年 10 月 13 日	保育教育の授業をとおして育てたい学生像を探る	吉村講師
平成 16 年 11 月 24 日	房総の地域史 I	池田教授
平成 16 年 12 月 15 日	パワーポイントを活用した授業内容について	栗山講師
平成 17 年 1 月 19 日	ファイナンシャル・プランナー	市岡助教授

#### ⑤ 相互授業参観

平成 16 年度から、「相互授業参観週間」を設けて、教員相互に授業参観し、終了後には意見交換をして教員間での授業の進め方等について研鑽することとした。平成 16 年度は 6 月 14 日（月）から 18 日（金）の間に行われた。

## 評価項目 2. 研究活動活性化のための条件整備について

### (1) 教員研究費について

教育研究費は、「専任教員に対する研究活動助成について（内規）」に基づき、1 年度、1 人当たり 400,000 円を限度として使用できるよう定めており、用途は図書購入費、機器備品購入費、旅費交通費、諸会費等研究活動に要する経費としている。平成 14～16 年度の支給状況は次表のとおりである。

個人研究費実績一覧

(平成14年度)

	消耗品費	諸会費	通信費	旅費交通費		機器備品	印刷製本費
				内国	外国		
商経科	3,575,530	402,557	3,480	514,422	0	175,933	262,411
経営情報科	2,073,591	203,114	11,425	343,916	263,650	0	1,000
初等教育科	3,323,986	247,000	2,340	567,537	0	194,040	29,374
計	8,973,107	852,671	17,245	1,425,875	263,650	369,973	292,785

	会議費	修繕費	賃金謝礼	賃借料	人件費	委託手数料	14年度計
商経科	0	12,012	0	22,470	0	0	4,934,333
経営情報科	0	58,915	0	0	0	0	2,896,696
初等教育科	2,750	43,050	166,666	0	99,580	15,750	4,364,277
計	2,750	113,977	166,666	22,470	99,580	15,750	12,195,306

(平成15年度)

	消耗品費	諸会費	通信費	旅費交通費		機器備品	印刷製本費
				内国	外国		
商経科	2,544,438	451,374	9,665	652,221	30,000	321,115	272,324
経営情報科	2,131,576	247,257	223,867	465,019	0	125,790	3,730
初等教育科	3,098,478	143,240	10,798	439,455	0	216,195	50,292
計	7,774,492	841,871	244,330	1,556,695	30,000	663,100	326,346

	会議費	修繕費	賃金謝礼	賃借料	人件費	委託手数料	15年度計
商経科	0	2,740	0	22,000	0	63,000	4,281,137
経営情報科	0	0	0	0	0	0	3,197,239
初等教育科	0	315,000	356,166	0	0	0	3,958,458
計	0	317,740	356,166	22,000	0	63,000	11,436,834

(平成16年度)

	消耗品費	諸会費	通信費	旅費交通費		機器備品	印刷製本費
				内国	外国		
ビジネスライフ学科	4,130,884	714,984	66,046	1,157,897	338,480	0	492,692
こども学科	3,762,557	203,688	6,958	452,806	982,215	417,750	33,651
計	7,893,441	918,672	73,004	1,610,703	1,320,695	417,750	526,343

	会議費	修繕費	賃金謝礼	賃借料	損害保険料	委託手数料	16年度計
ビジネスライフ学科	0	10,080	0	58,731	0	249,340	6,900,983
こども学科	0	0	188,000	0	11,020	16,275	5,859,625
計	0	10,080	188,000	58,731	11,020	265,615	12,760,608

## (2) 研究成果の発表の機会について

平成 15 年度現在、3 種の研究紀要を発行（各 500 部～800 部）し、研究成果の発表の機会として活用されている。

また、本学独自の制度として図書を刊行する場合、150 万円を限度として助成する学術図書刊行助成の制度がある。毎年原則として 2 件を助成することとしているが、平成 17 年度から発足した制度であり、まだ助成実績は無い。

更に学内の研究発表の会として、FD の一環として教育方法や指導方法の発表の場が設けられている。

## (3) 研究関係機器、備品、図書について

専任教員の研究に係る機器、備品、図書等の平成 16 年度の支出状況は次のとおりである。

項 目	金 額 (円)
パソコンリース期間更新 (17 件)	1, 2 2 1, 3 5 9
パソコン購入 (3 台)	5 6 3, 1 4 0
プロジェクター購入 (1 台)	1 0 3, 9 5 0
ビデオ編集機購入 (1 台)	3 5, 2 3 0
図書購入	2, 6 6 9, 8 8 9
計	4, 5 9 3, 5 6 8

## (4) 教員の研究室の状況について

専任教員の研究室は、36 室、総面積 570 m<sup>2</sup>である。現在専任教員数は 33 名で 1 人 1 室使用しているが、研究室の広さは 9.0 m<sup>2</sup>～27.7 m<sup>2</sup>と異なるため、退職者があれば広い研究室に移動するなどの措置をしている。

## (5) 教員の研究時間の状況について

平成 17 年度の専任教員のコマ数はゼミ担当の教員はゼミも含めて、少ない教員で 3 コマ、多い教員で 9 コマ、平均は 6.3 コマである。1 週のうち授業のために 2 日～3 日、会議の日として 1 日をあてており、それ以外は研究活動の時間として活用することができるようになっている。

### <特記事項>

本学教員の学術研究活動を促進するため、共同研究を対象とする本学独自の研究助成の制度があり、毎年度着実に活用されて共同研究が実施されている。

また、平成 17 年度には、学術的に優れ、かつ専門分野の発展に寄与すると認められる研究成果を公開する図書の刊行に対し、毎年度 2 件程度、150 万円を限度として助成を行う制度を新たに設けたところである。この出版助成の制度は併設の大学においては従来から実施されていたもので、特に近年盛んに活用されている制度であり、本学においても積極的に利用することが期待されている。

更に、本学教員が外国において行う学術の研究、調査等を助成する、本学独自の在外研究員の制度が設けられている。

以上のように教員の研究活動の促進のために、独自の助成制度が充実され、活発に活用されていることを特記事項として掲げたい。文部科学省の科学研究費補助金への申請、受託研究の実施、学外の競争的研究資金確保のための努力も行われている。

## 評価領域Ⅶ. 社会的活動

### 評価項目 1. 社会的活動への取り組みについて

#### (1) 社会的活動に対する基本方針について

地域に開かれた大学づくりが本学の基本理念であり、開学以来長い歴史と実績を残している。

千葉県大学開放講座については昭和 55 年に開始され、地域住民を対象とした多様な学習機会を提供してきたが、同事業は、千葉県教育委員会と千葉県大学リレー講座実施協議会が共催する「千葉県大学リレー講座」に受け継がれ、今日も活発に活動が行われている。

また、平成 7 年度からは本学と鎌ヶ谷市との共催により「オープンカレッジかまがや」が開催され、その企画に地域住民が参画するというユニークな事業として毎回多くの参加希望者を集め、既に 10 年間に渡る実績を有している。

更に、平成 3 年度から現職の教員を対象に実施している「教師のための教育相談研修会」も、高い評価を得て継続されている。

平成 4 年度からは、地域の子どもたちの造形的な創造性を育み、豊かな人間性を培うとともに、地域コミュニティの再構築のためにも意義深い「こども造形教室」が年間 9 回実施されている。同事業は、平成 15 年度の文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」において、他大学のモデルとなる特色ある教育活動として採択された。

その他、教員が地方自治体の審議会や委員会の委員として積極的に参加する等、活発な社会的活動を展開している。

今後とも本学の最も重要な活動の一つと位置付け、一層積極的に推進していく方針である。

#### (2) 社会人受け入れに関する方針について

生涯学習社会の成熟、ユニバーサルアクセスの実現が不可欠となってきた社会状況のもとで、高校や短大、大学を卒業後、社会人としての経験を経た後、新たに学習の機会を得るため、また、新たな職業への可能性を切り開くために教育の機会を求める社会人が増えている。この要請に応えることは、極めて大切である。

本学としては、今後もそのような要請に積極的に対応していきたいと考える。現に様々な職歴を持った経験のある学生も入学してきており、また、社会人の科目等履修生としての受け入れも積極的に行っているところである。

#### (3) 地域社会に向けた公開講座等の実施の状況について

##### ① オープンカレッジかまがや

平成 7 年度以来、鎌ヶ谷市と本学との共催により鎌ヶ谷市中央公民館で開放講座（オープンカレッジかまがや）を実施している。毎年 9 月から 10 月にかけて 8 回程度の講義を行い、毎年多数の応募者の中から抽選によって 100 名が参加している。

<受講者数>

	総人数	年齢別内訳 (人)				
		30歳代以下	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上
平成14年度	90	1	0	15	52	22
平成15年度	90	3	1	15	58	13
平成16年度	100	1	0	11	58	30

② 教師のための教育相談研修会

平成3年度から開始されたこの研修会は、学校カウンセリングのあり方を学ぶことを通じて子どもの心の理解を深めようとするもので、わが国の大学としては初めての公開講座であった。毎年5月から翌年の2月にかけて毎月1回年間9回の研修会で、県内教育委員会のご理解・ご支援をいただき、本年は15周年を迎えた。参加人数は毎年30名程度である。

<受講者数>

	総人数	修了書受領者
平成14年度	27	25
平成15年度	26	25
平成16年度	22	19

③ こども造形教室

平成4年度から小学校が毎月第2土曜日が休業日となったことを受けて、地域に密着し開かれた大学を目指し、近隣の轟町小学校および弁天小学校の児童を対象に開設した。毎年5月から翌年3月まで月1回土曜日に開催され、100名から200名のこどもが参加し、それにこども学科の学生が協力することで、「地域への貢献」と「学生の実践教育」が同時に実現している。

<受講者数>

	総人数	学年別内訳 (人)					
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
平成14年度	1174	236	186	252	143	90	16
平成15年度	990	239	257	235	110	76	22
平成16年度	1041	315	222	247	175	58	24

※総人数には、幼稚園児、父母等を含んでいる。

④ 千葉市大学リレー講座

昭和55年より、千葉市在住・在勤の成人を対象に10回程度の講義による開放講座を実施してきた。受講者数は毎年約150名であった。

この開校講座は、平成13年度より千葉市大学リレー講座に引継がれ、平成15年度に廃止された。リレー講座は現在千葉市の大学・短期大学13校の共催で運営されている。

⑤ 科目等履修生の受入れ

科目等履修生の応募者は、年々増加している。本学では、図書館司書、小学校教諭、幼稚園教諭、ファイナンシャル・プランナー（千葉経済大学の学生が対象）の資格取得を目的とする履修生を中心に受け入れているが、特に、小学校教諭を目指す応募者が近年急増している。

<科目等履修生の受入れ状況>

	総人数	資格別人数*			
		図書館司書	小学校教諭	幼稚園教諭	F・P
平成14年度	60	37	18	3	8
平成15年度	57	28	16	6	9
平成16年度	61	10	30	5	16

\*1人が複数の資格を希望する場合があるので、総人数とは一致しない。

⑥ 図書館における公開講演会

総合図書館の主催により毎年1回、地域開放講演会を開催し、100名程度の地域住民が参加している。

(4) 地域社会との交流・連携の状況について

千葉県学力向上推進委員会等の役員、委員等に就任している平成14～16年度の教員数、団体数は次のとおりである。

年度	人数	件数
平成14年度	19人	52件
平成15年度	18人	43件
平成16年度	15人	33件

なお、教員ごとの就任状況は、別添資料5. のとおりである。

評価項目2. 学生の社会的活動について

(1) 学生による地域活動、ボランティア活動等の状況について

自主的なボランティア活動についてアンケート調査によると、こども学科の20%以上の学生が自主的・積極的に行った。

ボランティア活動に取り組むきっかけについては、教育に興味を持っている学生が自らの居住地域のこどもたちのためにスポーツや文化活動に取り組む場合と、大学の教育実習をきっかけに実習先の幼稚園・保育園や介護施設への活動に取り組む場合とが見受けられる。

ビジネスライフ学科の学生については、活動状況の詳細は明らかではない。

本学では、学術・文化・スポーツ・社会活動などの分野で顕著な活躍をした学生を表彰するとどろき奨励賞が用意されており、ボランティア活動で顕著な活躍をした学生もその対象になっている。

## (2) 学生の地域活動、ボランティア活動についての方針、及び評価について

本学は、地域に生きる大学として積極的な地域貢献活動を行っており、学生の地域活動、ボランティア活動についても、学生自身の主体性の下で積極的に推進されることを期待している。

ただし、学生のこのような活動について斡旋をしたり調整をしたりすることは、学生自身の主体性を損なうことにもなりかねないので、極力学生の自主性に委ねている。無理のない、地道な、息の長い活動を期待しており、平成 17 年 2 月に行ったアンケート調査の結果では、約 1 割の学生が何らかの活動を行っていると回答している。

実施率としては決して高い数値ではないが、ことさらボランティア活動をするという意識はないものの、地域の子どもたちにスポーツを指導したり、老人ホームで簡単な手伝いをしたりといった平素の活動は、この他にもかなり行われているのではないと思われる。

なお、社会活動その他の分野で他の学生の模範となる活動を行った学生個人及び団体については、その活動をたたえ、奨励するために「とどろき奨励賞」の制度が設けられている。

## 評価項目 3. 国際交流への取り組みについて

### (1) 学生の海外教育機関への派遣について

＜ハワイ短期大学：過去 3 カ年の実績＞

年度	期間	場所	参加者
平成 14 年度	15.2.23～15.3.12	ハワイ大学マノア校カウアイ・コミュニティ・カレッジ	26 名
平成 15 年度	16.2.22～16.3.10	ハワイ大学マノア校カウアイ・コミュニティ・カレッジ	15 名
平成 16 年度	17.2.20～17.3.9	ハワイ大学マノア校カウアイ・コミュニティ・カレッジ	12 名

### (2) 海外教育機関との交流について

平成 6 年、「海外の大学における教育体験」「海外における生活体験」「海外における文物の見聞」を趣旨とした新しい留学制度が発足し、ハワイ大学に属するカウアイ・コミュニティ・カレッジと教育提携を調印し、以降、毎年 10 名～20 名程度の短期留学生を送り出している。

また、カウアイ・コミュニティ・カレッジからも毎年ではないが、教員・学生が来校している。平成 16 年には教員 1 名、学生 5 名が約 2 週間本学を訪問し、授業参加や本学学生との交流、ホームステイ等の活動を行った。

### (3) 教職員の海外派遣の状況について

教職員の平成 14～16 年度の海外派遣状況は次のとおりである。

年 度	テ ー マ	期 間	担当者
平成 14 年度	第 10 回高圧力半導体物理学国際会議	14.8.5 ～14.8.8	西川助教授
	ロシア・アムール川河口域における植生の調査と堆積物の採取	14.8.20 ～14.9.3	内山教授
平成 15 年度	米国・ロサンゼルス市ファッションディストリクトの調査	15.3.17 ～15.3.23	中村教授
	イタリア・ヴェローナ音楽祭視察	15.8.7 ～15.8.14	絹川助教授
平成 16 年度	第 11 回国際花粉学会議	16.7.4 ～16.7.9	内山教授 江上講師
	第 24 回 OMER 世界大会	16.7.21 ～16.7.26	横山助教授
	イタリア・ヴェローナ市アレーナ野外劇場講演ヴェルディ「イルトロヴァートレ」視察・研修	16.7.16 ～16.7.31	絹川助教授
	台湾アパレル市場の調査（日本のアパレル企業の進出の状況について）	16.11.18 ～16.11.21	中村教授
	スウェーデン企業調査	17.3.6 ～17.3.12	杉田助教授
	ドイツ・ライプチヒ大学 Uwe 教授との面会、ドイツ内保育園・養護施設見学、観察	17.3.16 ～17.3.31	柏木講師
	アジア家政学国際会議（ARAHE）開催前打合せ	17.3.26 ～17.3.29	杉田助教授

### ＜特記事項＞

平成4年から学校の隔週5日制が始まったことに対応し、地域のこどもたちの造形的な創造性を育み、豊かな人間性を育成するという教育面での地域貢献を行うために「こども造形教室」を開始し、以来12年間に渡り実施し続けている。

年間9回の様々な造形活動に、毎回100～200人の地域のこどもたちが参加し、学長のリーダーシップとこども学科の教員の協力の下に、数十人の学生がボランティアとして参画している。

小学校、幼稚園教員を養成するこども学科の学生たちにとって、こどもたちとの触れ合い方を実践的に学び、こども理解を深め、更には教職へのモチベーションを高めることになり、また、「基礎造形」や「教育実習」の授業と密接に連携した実践的な教育活動としても極めて特色ある取り組みとなっている。

本事業は、平成15年度から始まった文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」において、他大学のモデルとなる特色ある教育活動として、664大学・短期大学の応募の中から千葉県内の短大として唯一採択された。

この事業は、現在プログラムとして陶芸活動も取り入れ、地域の大人たちをも巻き込んだ教育活動として更に発展しつつある。

## 評価領域 VIII. 管理運営

### 評価項目 1. 法人組織の管理運営体制について

#### (1) 本学の運営に対する理事長のリーダーシップについて

理事長は教授会には必ず出席し、学長の進行のもとでの議論に参加し、教授会構成員の理解を得ながらリーダーシップを発揮してきた。

平成16年7月からは、本学学長が副理事長に就任したことに伴い、理事長、副理事長の理念が直接短大の運営に反映されるようになり、極めて明確な考え方のもとに管理運営されるようになった。

なお、平成17年4月に本学学長が理事長に就任したことに伴い、大学運営に対する理事長のリーダーシップは一層直接的、効率的に発揮されている。

#### (2) 理事会の開催状況について

理事会は、学校法人千葉経済学園寄付行為第16条の規定により理事会をおくこととされている。

平成14～16年度の理事会の開催状況は、次のとおりである。

年月日	出席状況	主な議題
<14年度> 14年5月22日	10名中9名 出席(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成13年度決算について</li> <li>大学・短期大学の平成15年度学費について</li> <li>短期大学部商経科第2部の廃止について</li> <li>評議員の選任について</li> </ul>
14年11月27日	10名中10名 出席(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>附属高校学則の一部改正について</li> <li>理事・評議員の退任及び選任について</li> <li>大学学生ホールの建設について</li> </ul>
15年3月20日	10名中10名 出席(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>創立70周年記念行事及び寄付募集について</li> <li>第二号基本金組み入れ計画の変更について</li> <li>大学学生ホールの建設について</li> <li>附属高校校舎の建替えについて</li> <li>平成14年度補正予算及び平成15年度予算について</li> <li>短期大学部学科の改組について</li> <li>大学・大学院・短期大学部・附属高校・なでしこ幼稚園学(園)則の一部改正について</li> <li>理事・評議員の退任及び選任について</li> </ul>
<15年度> 15年5月19日	9名中9名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成14年度決算について</li> <li>大学・大学院学則の一部改正について</li> <li>短期大学の平成16年度学費について</li> <li>評議員の選任について</li> <li>附属高校校舎の建替えについて</li> </ul>

年月日	出席状況	主な議題
15年6月12日	9名中9名出席	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・大学院学則の一部改正について</li> </ul>
15年10月30日	9名中9名出席 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県学事課検査指摘結果に対する改善・是正報告について</li> <li>・基本財産の処分について</li> <li>・附属高校・なでしこ幼稚園の平成16年度学費について</li> <li>・理事・評議員の選任について</li> </ul>
16年3月25日	10名中10名出席 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園寄附行為の一部改正について</li> <li>・大学・短期大学部学則の一部改正について</li> <li>・附属校舎の建替えについて</li> <li>・平成15年度補正予算及び平成16年度予算について</li> <li>・学園奨学金制度の創設について</li> <li>・理事・評議員の選任について</li> </ul>
<16年度> 16年5月25日	10名中9名出席 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年度決算について</li> <li>・大学・大学院・短期大学学則の一部改正について</li> <li>・評議員の選任について</li> </ul>
16年11月17日	10名中10名出席 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属高校・なでしこ幼稚園の平成17年度学費について</li> <li>・附属高校建替え事業に係る資金の借入れについて</li> <li>・短期大学部小講堂の建替え等について</li> <li>・評議員の退任及び選任について</li> <li>・大学学長の選任について</li> </ul>
17年3月31日	10名中10名出席 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・附属高校校舎建替工事(1期)の計画変更及び借入金額の変更について</li> <li>・短期大学部クラブハウスの解体について</li> <li>・平成16年度補正予算及び平成17年度予算について</li> <li>・平成17年度の事業計画について</li> <li>・学園寄附行為の一部改正について</li> <li>・大学・短期大学部学則の一部改正について</li> <li>・なでしこ幼稚園の段階的園児募集停止について</li> <li>・校地の取得について</li> <li>・理事の退任及び選任について</li> <li>・理事長の選任について</li> <li>・常任理事の選任について</li> <li>・評議員の退任及び選任について</li> <li>・監事候補者の選任について</li> </ul>

(注) 出席状況欄の ( ) は委任状提出者で内数で示す。

### (3) 監事の前年度の業務執行状況について

監事の寄附行為上の規定は、次のとおりである。

- ① この法人の業務を監査すること。
- ② この法人の財産の状況を監査すること。
- ③ この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
- ④ 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。
- ⑤ 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の召集を請求すること。
- ⑥ この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

前年度の監事の業務執行状況は、次のとおりである。

- ① 平成15年度決算監査の実施。
- ② 平成16年度5月25日開催の理事会において、監査結果の報告を行う。
- ③ 理事会に出席し、業務執行状況について意見を述べる。

### (4) 評議員会の開催状況について

評議員会は、学校法人千葉経済学園寄付行為第19条の規定により置くことされている。

平成16年度の評議員会の開催状況は、次のとおりである。

年月日	出席状況	主な議題
16年5月27日	27名中26名出席(7)	・平成15年度決算について ・大学・大学院・短期大学部学則の一部改正について
16年11月11日	28名中27名出席(9)	・附属高校・なでしこ幼稚園の平成17年度学費について ・附属高校建替工事に係る資金の借入れについて ・短期大学部小講堂の建替等について
16年3月24日	27名中27名出席(9)	・附属高校校舎立替工事(1期)の計画変更及び刈上げ計画の変更について ・短期大学クラブハウスの解体について ・平成16年度補正予算及び平成17年度予算について ・平成17年度行計画について ・学園寄付行為の一部改正について ・なでしこ幼稚園の段階的園児募集停止について ・校地の取得について

(注) 出席状況欄の( )は委任状提出者で内数で示す。

#### (5) 法人の管理運営に関する今後の改善点について

- ① プライバシー保護の観点から一般に公開することが適当でないものを除く財務資料の公開を推進するために、学園広報誌を発行し、そこに掲載するとともに、インターネットを活用することを検討している。
- ② 理事会・評議員会の白紙委任をやめ、書面による議案に対する賛否を表明する方式の採用を検討している。
- ③ 事務機能の強化を図るために、事務機構の再編及びアウトソーシングの活用の方策について検討している。

### 評価項目 2. 教授会の運営体制について

#### (1) 教育活動全般についての学長のリーダーシップについて

学長は、教授会のみでなく各学科の学科会議、執行部会にも必ず出席し、教育研究活動に関するあらゆる審議に参加し、構成メンバーの意見も十分に聞いた上で最終的な判断をする等のリーダーシップを発揮している。

教育に関する具体的な事項は、まずは各部会、委員会で議論され、その成案が学科会議で検討され、その後教授会で審議されるという流れとなるが、各部会、委員会で議論される場合には、各部長、委員長と学長の間で密接な話し合いが持たれ、学長の基本方針との調整が行われている。

#### (2) 教授会について

教授会については、「学則」にその組織、審議事項が定められ、「教授会規則」にその召集、議事、執行部会に関する事等が定められている。学長が議長となり原則として年9回開催され、全教員で構成されている。

教授会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立するが、毎回欠席者は少なく、平成16年度の平均出席率は96.0%であった。

審議事項は「出席者の過半数」で可決されることとされているが、教員の資格審査に関する事項は「出席者の3分の2以上」の賛成をもって決することとされている。

教授会の審議事項は、次のとおりである。

- ① 学則の変更に関する事項
- ② 学科の設置及び廃止に関する事項
- ③ 教員資格に関する事項
- ④ 学科、授業科目の新設、改廃に関する事項
- ⑤ 学生の入学、休学、退学及び卒業に関する事項
- ⑥ 学生の賞罰に関する事項
- ⑦ 試験及び卒業に関する事項
- ⑧ 科目等履修生に関する事項
- ⑨ その他学長が教育上必要と認めた事項

平成16年度の教授会の主な審議事項及び出席状況は、次表のとおりである。

(構成員 33 名)

回	開催日	主な審議事項
1	16年4月21日 出席数 31名	<ul style="list-style-type: none"><li>・入学試験について</li><li>・平成15年度卒業判定会議後の保留者の特別措置について</li><li>・学籍異動について</li><li>・平成15年度科目等履修生試験の結果について</li></ul>
2	16年5月19日 出席数 33名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・平成16年度入試問題作成委員等について</li><li>・平成15年度カリキュラム変更について</li><li>・学籍異動について</li><li>・科目等履修生の単位認定について</li></ul>
3	16年6月9日 出席数 30名	<ul style="list-style-type: none"><li>・学則の一部改正について</li><li>・学生の処分について</li><li>・学籍異動について</li><li>・研究委員会および研究誌規程の一部改正について</li></ul>
4	16年7月7日 出席数 30名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・学籍異動について</li></ul>
5	16年10月13日 出席数 33名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・前期卒業判定について</li><li>・学籍異動について</li><li>・とどろき奨励賞について</li><li>・こども学科保育実習規程について</li></ul>
6	16年11月24日 出席数 32名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・平成18年度入試日程について</li><li>・学則の一部改正について</li><li>・学籍異動について</li><li>・平成17年度学年暦について</li></ul>
7	16年12月15日 出席数 33名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・学籍異動について</li><li>・特待生制度について</li></ul>
8	17年1月19日 出席数 30名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・学籍異動について</li><li>・平成17年度カリキュラムについて</li><li>・教育実習規程の一部改正について</li><li>・学生の処分について</li><li>・学術図書刊行助成規程について</li><li>・平成17年度共同研究助成費について</li></ul>
9	17年2月23日 出席数 33名	<ul style="list-style-type: none"><li>・教員人事について</li><li>・学籍異動について</li><li>・卒業判定について</li><li>・学生の処分について</li><li>・学則の一部改正について</li></ul>

### (3) 学科会議について

学科会議は、「学則」で「教授会から委任された事項及び教授会に付議すべき事項を審議する。」と定められている。

学科長は、教授会の議を経て学長が補し、学科の運営全般について学長を補するとともに、学科会議の議長として学科を運営している。

「教授会審議事項の運用に関する申合せ」により、学科会議は教員の資格に関する事項、専門教育科目の新設・改廃に関する事項、学生の入学・休学・復学・除籍・転科に関する事項等について実質的な審議を教授会より委ねられている。

学科会議は、その学科の専任教員で構成され、原則として毎月1回、教授会開催の前週に開催されている。

### (4) 各部会、委員会について

部会は、「学則」及び「部会・委員会規程」で、その設置と主な調査審議事項が定められている。

主として教務に関する事項全般について調査審議する「教務部会」、主として学生の厚生捕導に関する事項全般について調査審議する「学生部会」、学生の就職に関する事項を調査審議する「就職部会」の3部会が置かれ、原則として月1回開催されている。

委員会は、「部会・委員会規程」で「学長は、校務を分掌させるため、教授会の意見を聴いて、必要な委員会を置くことができる。」と規定されており、平成16年度は教職、図書館、研究、国際化、情報化、FD推進、同窓会の7委員会が設置されている。なお、平成17年度から第三者評価委員会及びインターンシップ委員会が新たに設置された。各委員会は必要に応じて開催されている。

この他入学試験、学生募集のあり方等を検討するため、学長の諮問機関として「入試対策会議」が設置されている。

## 評価項目 3. 事務組織について

### (1) 短期大学の事務組織について

本学園の大学と短期大学部は、開学以来それぞれ個別の事務局を設置していたが、平成12年度に大学及び短期大学部の教育、研究の一層の有機的連携を図るとともに、職務にあたって効率化、合理化を図るため、大学・短期大学部事務局に改組し事務の一体化を図った。

現在の事務局組織は事務局長のもと、庶務・大学学務・短大学務・就職・図書館課及び入試広報センターで構成されている。

学園全体の組織図は、次表のとおりである。

### (2) 事務職員の任用について

事務職員の任用は学園全体を見て採用、昇任、配置換を行っているが、採用不補充の施策のもと新規の採用は極力控えられている。大学・短期大学部事務局においても、役職者の定年、自己都合による退職者の補充等による新規採用が行われているのが現状である。なお、採用者は幅広く人材を求め適任者を選考している。

### (3) 事務組織に関する諸規定について

事務組織に関する諸規程は、各課（室）の所掌業務等を定めた事務組織規程、人事・勤務時間・休暇・サービス・給与・福利厚生等について定めた職員サービス規定、そして非常勤職員の雇用・勤務時間・賃金等について定めた非常勤職員勤務規程である。

### (4) 決裁処理の概要について

起案文書は、関係部署の合議の上、事務局長の決裁を受け、重要なものは常任理事を経て学長、理事長の決裁を受けている。なお、定例的な会計関連の起案文書については、法人本部会計課を経て法人事務局長の決裁を受けている。

なお、通知、通達関係の書類については全ての課に回覧するとともに、重要な案件については学長に回覧している。

### (5) 公印、重要書類の管理について

公印については、「学校法人千葉経済学園公印取扱規程」により、公印管理責任者は事務局長（公印管理代理責任者は庶務課長）とされ、公印の保管、使用その他の関係事務を処理している。公印は、公印箱に収納し、使用しない場合は金庫に格納し、施錠している。公印を使用する場合は、公印使用簿に所要事項を記入するよう定めている。

また、重要書類の管理は事務局内にある大型耐火金庫（3台）等に格納し施錠している。

### (6) 防災、情報システムの安全対策について

各教室・会議室・事務室等に火災探知装置を設置し、事故発生時には事務室内にある火災受信機で受信できる装置を設置するほか、各所に消火器を設置している。なお、防災施設の定期点検を年2回行っている。

情報システムについては、外部からの不正アクセス対策としては、ファイヤーウォールを設けて対策を構じており、ウイルス対策としては、クライアントにウイルス対策ソフトをインストールして対処している。

### (7) 事務職員に対する教員、学生からの信頼関係について

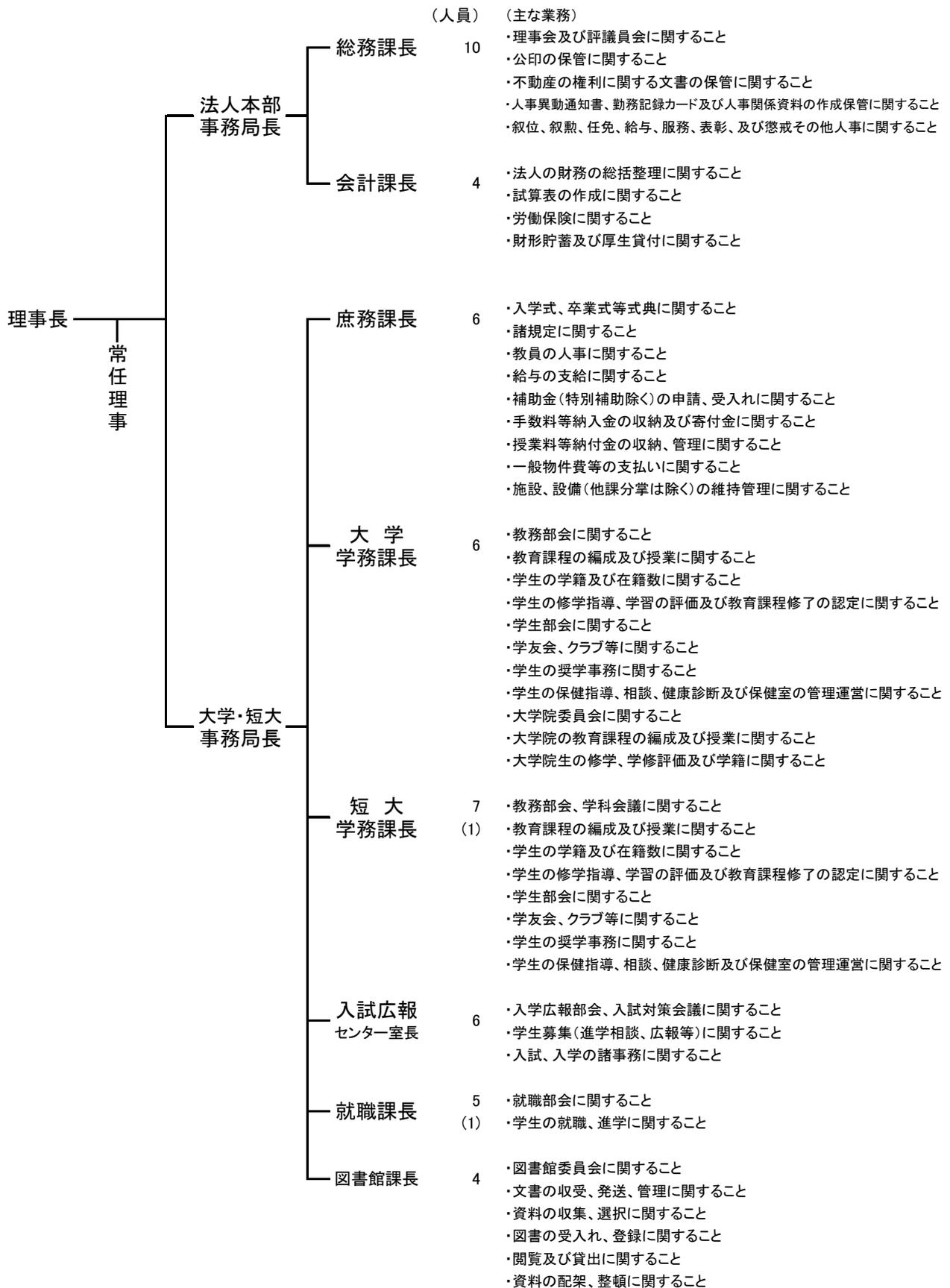
小規模大学であり、教員と職員との関係は極めて密接であり、両者の信頼関係は極めて高い。教員が事務的な仕事を、事務職員が学生指導や授業準備等の仕事を行うなど、相互に意思疎通を図りながら事にあたることが多い。

満足度調査に見られるように、近年事務職員への学生の満足度も高まってきている。今後も事務職員の対応に不満を感じるような学生が出ないように努めていきたい。

### (8) 事務組織の問題、課題について

次の2点の課題について、特に改善に努めているところである。

- ① 事務組織が大学、短期大学部共通であるにもかかわらず、事務室が分かれており、相互の協力関係が希薄になりがちであること。
- ② 指示を受けて動くことに慣れており、問題意識や企画力が不足している向きがあるので、事務職員一人ひとりの意識改革を進める必要があること。



※ 人員の( )は、兼務者で内数で示す。

## 評価項目 4. 人事管理について

### (1) 就業規則等について

教職員の服務規律、労働条件を定めた規程として、教員には「就業規則」、「教員の服務上の心得」、職員には「職員服務規律」があり、人事・サービス・給与・福利厚生等について定められている。

なお、給与については多岐にわたるため、「教育職員給与規程」、「教育職員の初任給昇給昇格等の基準」、「教育職員通勤手当支給規程」、「学校法人千葉経済学園退職金支給規程」等を別に定めている。

### (2) 法人理事長（理事会）と教職員との相互協力関係について

平成16年度においては理事長は前短期大学部学長、副理事長は現学長であることもあって、教職員との距離は極めて近く、特に副理事長は日常的に教職員と顔を合わせ様々な会話を交わしているため、良い協力関係にあった。また、副理事長は、短期大学部全体の業務に関してきめ細かく気配りをし、教職員のほうも何かと相談をするという関係にあり、良好な相互協力関係にあった。

なお、平成17年4月に短期大学部学長が理事長に就任したことによって、理事長（理事会）と教職員との協力関係は一層密接なものとなって今日に至っている。

### (3) 教員と事務職員との連携について

前述のとおり、小規模の大学であるため、教員と事務職員は家族的な雰囲気のもとで緊密に業務に携わっている。

つまり、教員と事務職員との間によそよそしい隔たりはなく、教員が事務的な業務を行ったり、事務職員が学生指導的な業務を行ったりし、連絡を取りあって学生の教育、指導に当たっている。

### (4) 職員の保健管理、就業環境の改善、就業時間の遵守等について

教職員の健康管理については、法令に基づき定期健康診断を実施しており、また、保健室の専任の看護師も適切な対応をしている。

就業環境の改善については、健康増進法の施行に伴い、学校施設内を分煙とするなど、その改善に努めている。

就業時間の遵守については、学校という性格上、学期の始期、終期等に業務が集中し、その時期には超過勤務をせざるを得ない状況が生じるが、それは一時的なものであって、日常的に問題はない。また、授業の関係上、平日は午後6時まで、また土曜日の勤務が必要となっているが、交替勤務により適切に対応している。

## 評価領域 Ⅸ. 財務

### 評価項目 1. 財務運営について

#### (1) 法人及び短期大学の毎年度の事業計画と予算の策定について

法人全体の予算単位は、大学・短期大学部・附属高校・附属幼稚園・法人の5部門に分け、毎年度の予算策定は次のような流れで行っている。

- ① 法人本部から年度予算編成方針及び編成手続きの説明
- ② 各部門内で原案作成後法人本部に提出
- ③ 法人本部のヒアリング（課単位）と調整
- ④ 法人本部にて修正案決定
- ⑤ 学内理事会での決定
- ⑥ 評議員会での審議
- ⑦ 理事会での決定

短期大学の毎年度の予算原案策定は、法人本部の年度予算編成方針及び編成手続きに基づき、次のとおり行われている。

- ① 各担当課（庶務・学務・入試広報・就職・情報企画・図書館）にて原案作成
- ② 短期大学の各部会、委員会での審議
- ③ 短大事務局での全体調整を経て原案決定

なお、毎年度の事業計画については、私立学校法の改正に伴い、17年度から作成することになった。

今後の取組としては、単年度の予算計画だけでなく、中・長期の財務計画を策定し、教育研究活動の充実と財政基盤の安定化を図る必要がある。

#### (2) 経理出納業務について

経理、出納業務は法人本部にて一元管理を行っており、現金・預金の保管、出納管理も小口現金支払以外は全て法人本部で行っている。

予算執行に係る出納は定期的に発生する経常的費用を除き、一定額以上の執行は稟議して理事長の承認を得ることとしている。予算執行に係る経理、出納業務の流れは次のとおりである。

- ① 各担当課において数社の見積書の比較
- ② 稟議書により、短大事務局長、法人本部を経ての理事長の承認
- ③ 各担当課にて発注、納品の確認
- ④ 短大事務局庶務課にて支出決裁書と会計伝票を起票（請求書等を添付）、預金払出票を付け、短大事務局長、法人本部会計課長を経ての法人事務局長の承認

学園の経理関係の規定は次のとおりである。

- ① 千葉経済学園経理規定
- ② 千葉経済学園事務処理内規

### (3) 監査の状況について

公認会計士監査は毎年、決算時に 10 日間程度の計算書類監査（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）及び実査を含めた学校内での帳票類監査を 20 日間程度行い、計数面だけでなく規程との整合性、計算根拠の妥当性等についても監査を行っている。

平成 16 年度には、規程の一部見直等についての指摘をがあり、その趣旨をふまえて、計画立案を進めている。また、会計事務処理についての指摘に対しては、その趣旨をよく理解して改善するよう、対応している。

監事は、毎年度、計算書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに附属明細表）についての監査を行うとともに、理事会に出席して本学について理解を深めている。

### (4) 財務状況の公開について

財務状況の公開は、利害関係人から要請があった場合、法人本部において閲覧又は写しを供する方法で行っていたところであるが、私立学校法の改正に伴い、今後は、計算書類（財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、消費収支計算書、資金収支内訳表、消費収支内訳表、事業報告書、監事の監査報告書）を事務所に備えておき、学生、保護者、教職員、その他の利害関係人から請求があった場合には閲覧に供することとした。なお、写しの請求があった場合は、従来どおり法人本部において必要に応じ供することとしている。

### (5) 資金等の保有、運用の基本方針について

第 2 号基本金及び将来の施設拡充に対応した積立金等については、特定資産（預金）として管理し、一般資金とは別に預金及び有価証券で保有、運用を行っている。特定資産以外の資金については、元本回収の確実性、流動性の確保、効率性の追求を基本方針として、資金運用管理規程に基き、預金及び有価証券での保有、運用を行っている。なお、ペイオフ解禁への対応として、預金は現在のところすべて決済用預金としている。

### (6) 寄付金の募集について

千葉経済学園は平成 15 年に設立 70 周年を迎え「建学の旗の下 みんなで創ろう 新世紀キャンパス」をコンセプトに、高等学校の新校舎建築、大学の学生ホール建築、短期大学の学科再編等の記念事業を計画し、新しい時代にふさわしい学園の整備・充実に大胆に取り組んでいる。

これらの記念事業の実施のため、千葉経済学園創立 70 周年記念事業募金委員会を設立し、平成 15 年 4 月から 18 年 3 月の間、2 億円を目標に寄付募集を行っている。

評価項目 2. 財務体質の健全性について

(1) 資金収支計算書及び消費収支計算書（過去3年間）

[資金収支計算書／資金収入の部]

(単位:千円)

	14年度		15年度		16年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	2,910,571	741,424	3,026,956	776,158	2,922,716	802,139
手数料収入	96,848	17,210	81,327	2,592	77,240	21,509
寄付金収入	10,485		102,836		109,505	
補助金収入	874,284	148,752	873,742	152,761	799,659	121,315
資産運用収入	32,358	9,462	26,173	8,098	18,419	5,458
資産売却収入	812,912		319,291		130,427	
事業収入	6,173	260	5,079	357	2,819	346
雑収入	162,535	60,890	209,909	35,775	219,675	27,251
借入金等収入					1,400,000	
前受金収入	1,050,947	-	927,717	-	902,376	-
その他の収入	339,594	-	254,476	-	213,880	-
資金収入調整勘定	△ 1,160,853	-	△ 1,221,975	-	△ 1,106,293	-
前年度繰越支払資金	1,757,366	-	2,518,975	-	2,762,026	-
収入の部合計	6,893,220	977,998	7,124,506	975,741	8,452,449	978,018

[資金収支計算書／資金支出の部]

人件費支出	2,806,125	634,194	2,825,431	569,058	2,819,687	573,091
教育研究経費支出	662,347	224,466	695,274	181,053	686,439	181,363
管理経費支出	146,354	39,776	200,576	40,822	141,803	36,085
借入金等利息支出	10,894	317	7,852	245	5,853	205
借入金等返済支出	99,880	2,173	96,000	2,173	104,000	2,560
施設関係支出	50,865	2,625	391,543	4,200	559,716	
設備関係支出	43,261	16,185	43,928	17,684	54,164	20,702
資産運用支出	530,597	-	100,156	-	399,986	-
その他の支出	70,621	-	53,100	-	62,281	-
資金支出調整勘定	△ 46,699	-	△ 51,380	-	△ 79,847	-
次年度繰越支払資金	2,518,975	-	2,762,026	-	3,698,367	-
支出の部合計	6,893,220	919,736	7,124,506	815,235	8,452,449	814,006

[消費収支計算書／消費収入の部]

	14年度		15年度		16年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	2,910,571	741,424	3,026,956	776,158	2,922,717	802,139
手数料	96,848	17,210	81,327	2,592	77,240	21,509
寄付金	10,901	179	129,393	26,171	111,223	734
補助金	874,284	148,752	873,742	152,761	799,659	121,315
資産運用収入	32,358	9,462	26,173	8,098	18,419	5,458
資産売却差額	21,931		4,267		2	
事業収入	5,267	260	5,916	357	2,157	346
雑収入	162,551	60,907	216,794	35,775	219,688	27,251
帰属収入合計	4,114,711	978,194	4,364,568	1,001,912	4,151,105	978,752
基本金組入額合計	△ 217,417	△ 12,066	△ 459,726	△ 29,397	△ 205,291	△ 12,661
消費収入の部合計	3,897,294	966,128	3,904,842	972,515	3,945,814	966,091

[消費収支計算書／消費支出の部]

人件費	2,829,338	667,258	2,811,541	564,813	2,860,665	607,212
教育研究経費	913,161	278,707	938,255	233,716	907,663	229,309
(うち減価償却額)	(250,814)	(54,241)	(242,981)	(52,662)	(221,223)	(47,946)
管理経費	155,271	40,144	205,689	41,166	146,632	36,413
(うち減価償却額)	(8,917)	(368)	(5,083)	(344)	(4,829)	(327)
借入金等利息	10,893	317	7,852	245	5,853	205
資産処分差額	426		111,031	45	450	
消費支出の部合計	3,909,089	986,426	4,074,368	839,985	3,921,263	873,139
当年度繰越消費支出超過額	1,147,298	-	1,159,093	-	1,328,619	-
翌年度繰越消費支出超過額	1,159,093	-	1,328,619	-	1,304,068	-

## (2) 貸借対照表 (平成16年度)

(平成17年3月31日/単位:千円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	13,858,753	13,367,632	491,121
有形固定資産	12,608,374	12,218,829	389,545
その他の固定資産	1,250,379	1,148,803	101,576
流 動 資 産	4,492,909	3,381,740	1,111,169
資産の部合計	18,351,662	16,749,372	1,602,290
負債の部			
固 定 負 債	1,817,592	452,214	1,365,378
流 動 負 債	1,206,279	1,199,209	7,070
負債の部合計	3,023,871	1,651,423	1,372,448
基本金の部			
第1号基本金	15,710,859	15,605,568	105,291
第2号基本金	600,000	500,000	100,000
第3号基本金			0
第4号基本金	321,000	321,000	0
基本金の部合計	16,631,859	16,426,568	205,291
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,304,068	△ 1,328,619	24,551

## (3) 過去3年間の教育研究費比率

(単位:%)

	14年度	15年度	16年度
教育研究経費比率	28.5%	23.3%	23.4%

## 評価項目 3. 施設・設備について

### (1) 施設・設備関係規程の整備状況について

以下のように規程を整備して運用している。

- ① 固定資産管理規程
- ② 総合図書館資料収集管理規程
- ③ 体育館管理運営規程
- ④ 小講堂管理使用内規
- ⑤ 視聴覚教室利用規程
- ⑥ プール管理運営規程
- ⑦ 茶室「素心庵」管理使用内規

### (2) 防災対策等について

#### ① 火災等の災害対策

各教室・会議室・事務室等に火災探知装置を設置し、事故発生時には事務室内にある火災受信機で受診できる装置を設置するほか、各所に消火器を設置している。なお、防災施設の定期点検を年2回行っている。

#### ② 防犯対策

千葉経済学園の施設・建物の警備は総合警備保障㈱に委託している。休業日は終日、平日は午後4時から翌朝8時30分までの間、土曜日は午後1時以降警備員が在駐し、一定の間隔で校内を巡視し不審者、不審物等の監視を行っている。不測の事態が生じた場合は直ちに同社に通報され、同社の機動隊員が駆けつけて対応するとともに、庶務課長（不在の場合は庶務課職員）に連絡し指示を受けるシステムとなっている。

#### ③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

学生等への避難訓練は、「防災規程」を定めその実施について準備を進めており、今秋には地元消防署の協力を得て防災訓練、避難訓練を行う予定である。

#### ④ コンピューターのセキュリティ対策

サーバー室への入退室には指紋認証で、外部ネットワークへの接続はファイアウォールで、学外からのリモートアクセスについてはデジタル証明書で、ファイルについては、それぞれアクセス権を設定することで、許可されたユーザーのみが情報にアクセス可能となっている。

#### ⑤ 省エネ及び地球環境保全対策

冷暖房、電源は各教室で点滅できるようにしているが、消し忘れ等が多いため各教室には、最後に退室する者が必ず消すように掲示するとともに、教員からもその徹底を学生に指示している。

また、ゴミは可燃物、不燃物、ビン、缶等に分別したゴミ箱を用意して分別して捨てるように指導している。また、粗大ゴミは指定した場所に出すようにしており、定期的に業者に回収させている。

## 評価領域 X. 改革・改善

### 評価項目 1. 自己点検評価について

#### (1) 自己点検評価活動の実施体制について

「自己点検・評価に関する規程」(平成3年施行)第5条の規定に基づき短期大学部専門部会を設置している。構成員は、学長、学科長、教務・学生・就職部長、図書館長(又は副館長)及び事務局長で、「自己点検・評価報告書」作成作業等を行っている。

平成15年度版の報告書作成に当っては、前年度当初から作成作業にかかり数度の専門部会で検討して原案作成等が行われた。

今後とも定期的に自己点検評価を実施していく。

#### <大学運営における位置付け>

短期大学を取り巻く状況が極めて厳しい中、客観的に自己の現状を分析し、問題点や課題の洗い出しをすることは、今後の存続にもかかわる重要な業務である。大学運営の中核として位置付け、全教職員が参画することが肝要と考えている。

#### (2) 自己点検評価報告書の発行状況について

年 度	報告書の種類	部 数	配 布 先
平成 14 年 度	年次報告書	200 部	学園内のみ
平成 15 年 度	〃	〃	〃
平成 16 年 度	自己点検評価報告 書	500 部	全国短大(経済、教育系)、文部科学省、 千葉県・市関係機関、私立短大協会等

### 評価項目 2. 自己点検評価における教職員の関与について

#### (1) 自己点検評価に関わった教職員の範囲について

専門部会、各部会、各専門委員会が議論し、全教職員が参画して自己点検評価に携わっている。

今後は、校務分掌以外の事柄についても全教職員が関心を持ち、健全な大学づくりのために率直な自己点検活動を行うことが重要と考えている。

#### (2) 自己点検評価の成果の活用について

今回の自己点検評価報告書の作成に当たっては、短期大学部の教育・研究等全ての分野の改善の方向について、可能な限り具体的に記述することを心がけたところである。

その改善の方向については更に具体化し、実行策を検討する作業を各部会、専門委員会で行っている。

### 評価項目 3. 第三者評価について

#### (1) 第三者評価を実施するための学内組織について

「自己点検評価 短期大学部専門部会」は学長以下各学科長、各部長、事務局長等中核のメンバーで構成されている。

第三者評価を実施するための学内組織として、「第三者評価委員会」を設置した。「自己点検評価短期大学部専門部会」と同一構成員による体制を組んで真摯に対応している。

#### (2) 第三者評価を受けるに当たっての考え方について

本学の教育・研究、学生指導、管理・運営等の現状は必ずしも十全なものではなく、改善すべき点は多々ある。それは、自己点検評価の結果からも明らかであり、今後とも地道な改善努力を継続していく事が肝要である。

教育は日々の営みであり、多様な学生を受け入れ、有為な人材として社会へ送り出し続けなければならない。そのために改善すべき点は速やかに改善し、日々の教育の中に生かして行きたいと考えている。

本学の現状について公平かつ客観的な幅広い視野で第三者評価を受け、課題や問題点を洗い出すことによって改革の方向を確認し、具体的な改革にあたっていきたい。それが今回、第三者評価を受けるに当たっての学園としての考え方であり、決意である。

# 添付資料



平成17年度 科目別授業形態、必修・選択別単位数、教員配置、履修者一覧

(1) ビジネスライフ学科

配置欄の前は前期科目、後は後期科目、無印は通年科目、数字は単位数

ファイルド	ユニット	授業科目	授業形態			単位	配置				クラス数	教員配置			前年度の履修者数	備考
			講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼担	兼任		
							必修	選択	必修	選択						
共通	ビジネス	キャリアデザインⅠ	○			2	前2				2		○			
		キャリアデザインⅡ	○			2	後2				2	○				
		キャリアデザイン	○			2				前2	1	○				
		経営学入門	○			2	前2				2	○			238	
		経済学Ⅰ	○			2	前2				2	○			241	
		初級簿記Ⅰ	○			2	前2				2	○			86	
		商法Ⅰ	○			2	前2				1	○			44	
		商法Ⅰ	○			2	前2				2	○			85	
		商法Ⅰ	○			2	前2				2			○	305	
		経営学Ⅱ	○			2		後2			1	○			63	
		経済学Ⅱ	○			2		後2			1	○			57	
		初級簿記Ⅱ	○			2		後2			1	○			65	
		初級簿記Ⅱ	○			2		後2			1	○			36	
		初級簿記Ⅱ	○			2		後2			1	○			45	
基礎	ネス	ネットワーク実習Ⅰ		○		1		前1			1	○			33	
		ネットワーク実習Ⅰ		○		1		後1			1	○			30	
		ネットワーク実習Ⅱ		○		1		後1			1	○			33	
		ネットワーク実習Ⅱ		○		1		後1			1	○			30	
		コンピュータ実習基礎		○		2		前2			4	○			145	前期2コマ
		歴史への旅Ⅰ	○			2		前2	前2			○			129	
		歴史への旅Ⅱ	○			2		後2	後2			○			96	
		文学と親しむⅠ	○			2		前2	前2	2			○		166	
		文学と親しむⅡ	○			2		後2	後2	2			○		150	1・2年共通
		生活と法Ⅰ	○			2		前2	前2					○	41	
		生活と法Ⅱ	○			2		後2	後2					○	47	
		人間と社会Ⅰ	○			2		前2	前2					○	185	
		人間と社会Ⅱ	○			2		後2	後2					○	152	1・2年共通
		自然科学への招待Ⅰ	○			2		前2	前2			○			24	
自然科学への招待Ⅱ	○			2		後2	後2			○			56			
情報とインターネットⅠ	○			2		前2	前2			○			87			
情報とインターネットⅡ	○			2		後2	後2			○			68	1・2年共通		
教養	国際コミュニケーション	英語Ⅰ(リーディング)		○		2	2				3			○	137	
		英語Ⅰ(リーディング)		○		2					2	○			90	
		英語Ⅱ(プラクティス)		○		1	後1				3	○			120	
		英語Ⅱ(プラクティス)		○		1					2			○	81	
		英語Ⅱ(アプリケーション)		○		1			前1		3	○				
		英語Ⅱ(アプリケーション)		○		1			前1		2			○		
		英語Ⅲ(フラッシュアップ)		○		2				2				○		
		英語Ⅲ(フラッシュアップ)		○		2				2		○				
		英語Ⅲ(ステップアップ)		○		2				2				○		
		英語Ⅲ(ステップアップ)		○		2				2				○		
スポーツ	乗馬	英会話Ⅰ	○			2		2		2			○	25	後期 クリストファー、ケニー	
		英会話Ⅱ	○			2			2				○	8	後期 クリストファー、ケニー	
		Cross-Cultural Communication				4		4		4		○		○	12	短期留学
		Cross-Cultural Communication				4		4		4		○		○	12	短期留学
スポーツ	乗馬	スポーツ演習			○	2		2		4			○	168		
		健康科学概論	○			2		後2					○	84		
		スクーバダイビング			○	1		1					○	40	集中授業(夏季)	
スポーツ	乗馬	乗馬			○	1		1					○	43	集中授業(春季)	

別添資料1.

ワールド	ユニット	授業科目	授業形態			単位	配置				クラス数	教員配置			前年度の履修者数	備考	
			講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼担	兼任			
							必修	選択	必修	選択							
ライ	ユニ	房総の地域史Ⅰ	○			2				前2		○			99		
		房総の地域史Ⅱ	○			2				後2		○			98		
	ティ	旅の歴史と地理Ⅰ	○			2		前2						○			
		旅の歴史と地理Ⅱ	○			2		後2						○			
		観光地理Ⅰ	○			2				前2				○			
		観光地理Ⅱ	○			2				後2				○			
	プ	ラ	生活と税金Ⅰ	○			2				前2		○				
			生活と税金Ⅱ	○			2				後2		○				
		ラン	民法Ⅰ	○			2				前2				○		
			民法Ⅱ	○			2				後2				○		
ニ	ン	ファイナンシャル・プランナー	○			4		4		4		○		○	50	1・2年共通、11月中旬まで3コマ、以後2コマ	
		福祉と生活	○			2		前2						○			
	ン	税務会計Ⅰ	○			2				前2				○			
		税務会計Ⅱ	○			2				後2				○			
グ	ヒ	ヒューマンリレーション				2										本年度開講せず	
		女性学	○			2		後2						○	63		
	マン	心とからだの健康	○			2		前2					○		48		
		環境と未来				2											本年度開講せず
P	C	情報リテラシーⅠ		○		2		2			3			○	92		
		情報リテラシーⅡ		○		2				2				○	23		
	ライ	IT社会を生きる				2											本年度開講せず
		パソコン会計		○		2				2				○	51		
エ	コ	ミクロ経済学Ⅰ	○			2		前2				○			63		
		ミクロ経済学Ⅱ	○			2		後2				○			60		
		マクロ経済学Ⅰ	○			2				前2		○					
		マクロ経済学Ⅱ	○			2				後2		○					
	ノ	ミ	金融論Ⅰ	○			2		前2		前2		○			32	1・2年共通
			金融論Ⅱ	○			2		後2		後2		○			31	1・2年共通
		ス	保険論Ⅰ	○			2				前2				○		
			保険論Ⅱ	○			2				後2				○		
	ク	ス	近代日本経済の歩みⅠ	○			2		前2				○			61	
			近代日本経済の歩みⅡ	○			2		後2				○			48	
ク		日本経済の基礎知識	○			2				前2		○					
		国際経済論Ⅰ	○			2				前2				○			
ス	国際経済論Ⅱ	○			2				後2				○				
	現代経済事情	○			2				後2		○						
ビ	ジ	現代ビジネス	○			2		後2				○			50		
		文章表現法Ⅰ		○		1		前1			2	○			70		
		文章表現法Ⅱ		○		1		後1			2	○			54		
		ビジネス文書		○		2		後2				○			32	後期2コマ	
		プレゼンテーション演習		○		2				前2		○			6	前期2コマ	
	ネ	ビジネス英語Ⅰ	○			2				前2				○			
		ビジネス英語Ⅱ	○			2				後2				○			
		インターンシップ			○	2		2		2		○	○		31	1・2年共通	
		秘書学Ⅰ	○			2		前2			2			○	113		
		秘書学Ⅱ	○			2		後2			2			○	112		
リ	ア	上級秘書学Ⅰ	○			2		前2		前2				○	14	1・2年共通	
		上級秘書学Ⅱ	○			2		後2		後2				○	14	1・2年共通	
		秘書学特講	○			2		前2		前2				○	30	1・2年共通	

別添資料1.

ファイルド	ユニット	授業科目	授業形態			単位	配置				クラス数	教員配置			前年度の履修者数	備考
			講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼担	兼任		
							必修	選択	必修	選択						
マーケティング	マーケティング流通サービス	マーケティングⅠ	○			2				前2		○				
		マーケティングⅡ	○			2				後2						
	ファッション市場論	○			2			前2				○			55	
	流通システム論	○			2					前2		○				
	消費経済論	○			2					後2		○				
	サービス経済論	○			2					前2		○				
	経営と産業	現代産業論Ⅰ	○			2			前2			○			65	
	現代産業論Ⅱ	○			2			後2				○			50	
企業会計	応用簿記A	中級簿記Ⅰ	○			2			前2	前2	2	○			6	1・2年共通
		中級簿記Ⅱ	○			2			後2	後2	2	○			6	1・2年共通
		工業簿記Ⅰ	○			2			前2	前2		○			12	1・2年共通
	応用簿記B	工業簿記Ⅱ	○			2			後2	後2		○			9	1・2年共通
		上級簿記Ⅰ	○			2			前2	前2		○			1	1・2年共通
		上級簿記Ⅱ	○			2			後2	後2		○			0	1・2年共通
	会計A	原価計算Ⅰ	○			2			前2	前2		○			6	1・2年共通
		原価計算Ⅱ	○			2			後2	後2		○			5	1・2年共通
		会計学Ⅰ	○			2			前2			○			26	
		会計学Ⅱ	○			2			後2			○			35	
		財務諸表論Ⅰ	○			2				前2		○				
		財務諸表論Ⅱ	○			2				後2		○				
	会計B	管理会計Ⅰ	○			2				前2		○				
		管理会計Ⅱ	○			2				後2		○				
		財務諸表分析Ⅰ	○			2				前2		○				
財務諸表分析Ⅱ		○			2				後2		○					
インターネットワーク	ネットワーカA	通信プロトコルⅠ	○			2			前2			○			15	
		通信プロトコルⅡ	○			2			後2			○			17	本年度開講せず
		インフォメーションテクノロジーⅠ	○			2			前2			○			50	
		インフォメーションテクノロジーⅡ	○			2			後2			○			51	
		S Q Lサーバ実習		○		1			後1			○			32	
	ネットワーカB	L A N 設計	○			2				前2		○				
		W A N 設計	○			2				後2		○				
		統計学Ⅰ	○			2				前2		○				
		統計学Ⅱ	○			2				後2		○				
		インターネットワーキング実習Ⅰ		○		1				前1	1	○				
インターネットワーキング実習Ⅱ		○		1				後1	1	○						
Javaプログラミング	J a v a 概説Ⅰ	○			2			前2			○			14		
	J a v a 概説Ⅱ	○			2			後2			○			8		
	J a v a アルゴリズムⅠ	○			2				前2		○					
	J a v a アルゴリズムⅡ	○			2				後2		○					
	J a v a 実習		○		1		1				○			6	集中授業(夏季)	
コンピュータ・マスター	情報基礎論	情報処理概論Ⅰ	○			2			前2		2	○			75	
		情報処理概論Ⅱ	○			2			後2		2	○			65	
		情報数学	○			2			前2				○		11	
		情報統計学	○			2			後2				○		36	
	P C マスター	プログラミング基礎Ⅰ		○		1			前1		2	○			64	
		プログラミング基礎Ⅱ		○		1			後1		2	○			63	
		コンピュータ実習Ⅰ		○		2			後2		3	○			124	後期2コマ
コンピュータ実習Ⅱ		○		2				前2		○					前期2コマ	
情報システム概論	○			2				前2		○				80		

別添資料1.

ファイルド	ユニット	授業科目	授業形態			単位	配置				クラス数	教員配置			前年度の履修者数	備考
			講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼任	兼任		
							必修	選択	必修	選択						
コンピュータ・マスター	ソフトウェア実習 I		○		2				前2		○			45	前期2コマ	
	ソフトウェア設計 I	○			2				前2		○			63		
	ソフトウェア実習 II		○		2				後2		○			48	後期2コマ	
	ソフトウェア設計 II	○			2				後2		○			64		
	プログラミング言語		○		2				後2		○			26	後期2コマ	
	コンピュータネットワーク概論	○			2				前2				○			
	コンピュータアート		○		2				2				○		48	集中授業(夏季)
	マルチメディア論	○			2				後2		○				76	
	データベース概論	○			2				後2				○			
	システム設計	○			2				前2				○		29	
ゼミ	経営情報システム I	○			2				前2				○			
	経営情報システム II	○			2				後2				○			
	経営データ分析		○		2				2				○		70	
	ミ	教養ゼミ		○		2		2				○			12	児童文学ゼミ
				○		2		2	2			○			4	言語と人間ゼミ
		ライフプランニングゼミ		○		2		2	2				○		15	キャンパス心理学ゼミ
				○		2		2	2				○		10	地域史ゼミ
		エコノミクスゼミ		○		2		2	2				○			生活と税金ゼミ
				○		2		2	2				○		10	ファイナンシャル・プランニングゼミ
		ビジネスキャリアゼミ		○		2		2					○		8	ビジネス研究ゼミ I
			○		2			2				○			ビジネス研究ゼミ II	
マーケティングゼミ			○		2			2				○			ITビジネス研究ゼミ	
			○		2		2					○		16	ファッション市場リサーチゼミ I	
ナ	企業会計ゼミ		○		2		2					○		14	会計学ゼミ I	
			○		2			2				○			会計学ゼミ II	
		○		2		2						○		14	初級簿記ゼミ a	
		○		2		2	2					○		2	応用簿記ゼミ	
		○		2		2						○		7	初級簿記ゼミ b	
		○		2			2					○			中級簿記ゼミ	
		○		2		2						○		16	初級簿記ゼミ c	
	インターネットワークゼミ		○		2		2						○		12	CCNAゼミ I
			○		2			2					○			CCNAゼミ II
	ル	Javaゼミ I		○		2		2						○		5
			○		2			2					○			Javaゼミ II
コンピュータマスターゼミ			○		2		2						○		10	コンピュータマスターゼミ I a
			○		2			2					○			コンピュータマスターゼミ II a
			○		2		2						○		11	コンピュータマスターゼミ I b
			○		2			2					○			コンピュータマスターゼミ II b
	○		2		2							○		14	コンピュータマスターゼミ I c	
	○		2			2						○			コンピュータマスターゼミ II c	

別添資料1.

(2) こども学科

配置欄の前は前期科目、後は後期科目、無印は通年科目、数字は単位数

区分	授 業 科 目	授業形態			単位	配置				ク ラ ス 数	教員配置			前年度の 履修者数	備 考		
		講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼任	兼任				
						必修	選択	必修	選択								
共	一般教養科目	文 学 I	○			2		前2		前2		○			44		
		文 学 II	○			2		後2		後2		○			13		
		歴 史 へ の 旅 I	○			2		前2		前2			○		129		
		歴 史 へ の 旅 II	○			2		後2		後2			○		96		
		法学 I (日本国憲法)	○			2		前2			2			○	195		
		法 学 II	○			2		後2		後2				○	47		
		人 間 と 社 会 I	○			2		前2		前2				○	185		
		人 間 と 社 会 II	○			2		後2		後2				○	152		
		心 理 学 I	○			2		前2		前2		○			111		
		心 理 学 II	○			2		後2		後2		○			58		
		数 学 I	○			2		前2		前2		○			43		
		数 学 II	○			2		後2		後2		○			14		
		生 物 学 I	○			2		前2		前2		○			48		
		生 物 学 II	○			2		後2		後2		○			15		
通	基礎科目	こども学原論	○			2				後2	2	○					
		英語コミュニケーション		○		2				後2	5			○	127		
		総 合 演 習 I					1	前1				1	○			26	
												1	○			27	
					○							1		○		43	
												1	○			43	
												1	○			43	
												1	○			41	
												1	○			21	
		総 合 演 習 II					1				後1					14	
												1	○			22	
												1	○			22	
												1	○			22	
												1	○			22	
										1	○			21			
										1		○		21			
目	その他の科目	ス ポ ー ツ 演 習			○	2	2				4	○			170		
		健 康 科 学 概 論	○			2		後2				○			112		
		教 育 情 報 処 理			○		2		前2			3	○			98	
									後2			3	○			97	
		ピ ア ノ 音 楽 I	○			2		前2				○			14		
ピ ア ノ 音 楽 II	○			2		後2				○			13				
	Cross-Cultural Communication				4		4		4		○		○	12	短期留学		
	ス キ ー I			○	1		1				○			24	集中(冬季)		
	ス キ ー II			○	1				1		○			0	集中(冬季)		

別添資料1.

区分	授 業 科 目	授 業 形 態			単 位	配 置				ク ラ ス 数	教 員 配 置			前年度の履修者数	備 考	
		講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼担	兼任			
						必修	選択	必修	選択							
専 門 科 目	国 語 学 概 説	○			2		後2			4	○			212		
	数 学 概 説	○			2		後2				○			43		
	自 然 科 学 概 説	○			2		後2				○			84		
	社 会 科 概 説	○			2				後2			○		28		
	生 活 概 説	○			2		前2						○	40		
	基 礎 音 楽 I		○		1		前1			4	○			153		
	基 礎 音 楽 II		○		1		後1			2	○			100		
	器 楽 I		○		2		2				○		○	226		
	器 楽 II		○		2				2		○		○	84		
	声 楽 I		○		2		2				○			6		
	声 楽 II		○		2				2		○			11		
	基 礎 造 形		○		2		2			2	○			79		
	基 礎 体 育	○			1				後1	2	○			60		
	家 庭 科 概 説	○			2		後2		後2				○	97	隔年開講	
	水 泳			○	1		1				○			97	(夏季集中)	
	書 道 概 説	○			2				後2				○	41		
	論 文 演 習		○		1				前1		○			60		
	科 目	教 職 概 説	○			2		後2			1	○			24	
											1	○			24	
1												○		42		
1											○			41		
1											○			40		
1											○			40		
1											○			40		
教 育 原 理 I		○			2		前2			3	○			235		
教 育 原 理 II		○			2		後2			3	○			221		
教 育 思 想 史		○			2				前2		○					
教 育 ・ 保 育 法 規		○			2		後2						○	14		
教 育 心 理 学		○			2		前2			3	○			224		
教 育 方 法 I		○			2				前2		○			54		
教 育 方 法 II		○			2				前2	4	○			106		
国 語 科 指 導 法			○		2				前2	2			○	95		
社 会 科 指 導 法			○		2		後2			2	○			98		
算 数 科 指 導 法			○		2				前2		○			70		
理 科 指 導 法			○		2				前2	3	○			101		
生 活 科 指 導 法			○		2		後2				○			93		
音 楽 科 指 導 法			○		2		後2			2			○	91		
図 画 工 作 科 指 導 法			○		2				前2	2	○			62		
家 庭 科 指 導 法			○		2		後2		後2				○	57	隔年開講(本年度開講せず)	
体 育 科 指 導 法			○		2				前2	2	○			95		
道 徳 教 育	○			2				前2	2			○				
特 別 活 動	○			2		後2			2			○				
生 徒 指 導 論	○			2				後2	2			○	149			
教 育 相 談	○			2				後2	3			○	155			
障 害 児 教 育	○			2		後2						○	38			
教 育 実 習			○	5				5		○			164	集中実習		
健 康 指 導 法		○		2		後2			4		○		201			
人 間 関 係 指 導 法		○		2				前2	4	○			134			

別添資料1.

区分	授 業 科 目	授 業 形 態			単 位	配 置				ク ラ ス 数	教 員 配 置			前年度の履修者数	備 考
		講義	演習	実習		第1年次		第2年次			専任	兼担	兼任		
						必修	選択	必修	選択						
教職に関する科目	環境指導法Ⅰ		○		2		前2			4	○			201	
	環境指導法Ⅱ		○		2				前2	2	○			15	
	言葉指導法Ⅰ		○		2		前2			4	○			193	
	言葉指導法Ⅱ		○		2		後2			2	○			71	
	音楽表現指導法Ⅰ		○		2		後2			4			○	169	
	音楽表現指導法Ⅱ		○		2				前2	2			○	32	
	造形表現指導法Ⅰ		○		2				前2	4			○		
	造形表現指導法Ⅱ		○		2				後2	2			○	21	
	遊び指導法		○		2				前2	2	○			142	本年度開講せず
	幼児理解	○			2		後2			2	○			136	
	歌唱伴奏法		○		2		2			2			○	40	
	教育学演習		○		1				前1		○			21	
	指導要領・教育要領演習		○		1				前1				○	35	
	社会科教育演習		○		1				前1		○			19	
	教育方法演習		○		1				前1		○			16	集中実習
	保育実践演習		○		1				後1	2	○			126	
保育に関する科目	社会福祉	○			2		前2			2	○			112	
	社会福祉援助技術		○		2		後2			2	○				
	こどもの福祉Ⅰ	○			2		後2			2	○			38	
	こどもの福祉Ⅱ	○			2				後2			○			
	保育原理Ⅰ	○			2		後2			2	○			141	
	保育原理Ⅱ	○			2				前2	2	○				
	養護原理	○			2				前2	2	○				
	発達心理学	○			2		後2			2	○			111	
	小児保健	○			4		4			2			○	115	
	小児保健実習			○	1				前1	3			○		
	こども栄養		○		2		2			3			○	109	
	精神保健	○			2				前2	2			○		
	子育て援助論	○			2				後2	2	○				
	保育内容(総論)	○			2		後2			4	○			194	
	乳児保育		○		2		2			3	○			115	
	障害児保育		○		1				前1	2			○		
	養護内容		○		1				前1	2	○			109	本年度開講せず
	こども臨床心理学Ⅰ	○			2				前2	2	○				
	こども臨床心理学Ⅱ	○			2				後2		○				
	こども文化論	○			2				前2			○			
こども文学	○			2				後2			○				
幼児体育		○		1				後1	2			○			
レクリエーション概論	○			2				後2				○			
レクリエーション実技		○		1				後1		○					
保育実習ⅠA			○	2				前2						保育所実習	
保育実習ⅠB			○	2		後2							109	施設実習	
保育実習指導									1	○			109		
									1	○					
									1	○					
									1	○					
保育実習Ⅱ			○	2				後2						保育所実習	
保育実習Ⅲ			○	2				後2						施設実習	

別添資料1.

(3) 司書課程

必修は司書課程必修

区分	授業科目名	授業形態			単 位	配 置				教員配置			前年度の 履修者数	備 考
		講義	演習	実習		第1年次		第2年次		専任	兼任	兼任		
						必修	選択	必修	選択					
司 書 課 程	生涯学習概論	○			1			後1		○			44	後期の後半
	図書館概論	○			2	前2				○			49	
	図書館経営論	○			1			後1		○			44	後期の前半
	図書館サービス論	○			2			前2		○			44	
	情報サービス概説	○			2			前2		○			45	
	レファレンスサービス演習		○		1			後1		○			45	
	情報検索演習		○		1			後1			○		46	月曜日授業は夏季集中
	図書館資料論	○			2	後2				○			52	
	専門資料論	○			1			前1			○		46	前期の前半
	資料組織概説Ⅰ	○			2	前2				○			49	
	資料組織概説Ⅱ	○			2	前2					○		49	
	資料組織演習Ⅰ		○		1	後1				○			49	
	資料組織演習Ⅱ		○		1	後1					○		49	
	児童サービス論	○			2			後2		○			44	
	他	図書及び図書館史	○			1			前1			○		44
資料特論		○			1			前1			○		30	前期の後半
情報機器論		○			1			前1			○		39	前期の後半
図書館実務研修			○		2			後2	○			4	2週間の実務研修	
他	図書館学演習		○		2		2		○			1		

## 平成16年度 科目別成績評価一覧 (授業科目・クラス別)

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	1001	経営学Ⅰ	和田 茂穂	1	102	39	38.24	34	33.33	21	20.59		0.00	7		1	
1	1002	経営学Ⅰ	和田 茂穂	1	104	35	33.65	44	42.31	21	20.19	1	0.96	3			
1	1002	経営学Ⅰ	和田 茂穂	2	2		0.00	1	50.00		0.00		0.00	1			
1	1003	経済学Ⅰ	中村 秀一	1	103	88	85.44	3	2.91	2	1.94		0.00	1		9	
1	1003	経済学Ⅰ	中村 秀一	2	4	3	75.00		0.00		0.00		0.00			1	
1	1003	経済学入門Ⅰ	中村 秀一	2	13	10	76.92	3	23.08		0.00		0.00				
1	1004	経済学Ⅰ	中村 秀一	1	103	89	86.41		0.00	4	3.88		0.00	2		8	
1	1004	経済学Ⅰ	中村 秀一	2	2		0.00		0.00		0.00		0.00	1		1	
1	1004	経済学入門Ⅰ	中村 秀一	2	16	16	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1005	初級簿記Ⅰ	山崎 敏	1	39	6	15.38	17	43.59	6	15.38	4	10.26	1		5	
1	1006	初級簿記Ⅰ	岩田 壽夫	1	39	7	17.95	8	20.51	17	43.59	5	12.82			2	
1	1007	初級簿記Ⅰ	澤村 孝夫	1	41	16	39.02	10	24.39	12	29.27		0.00	3			
1	1008	初級簿記Ⅰ	岩田 壽夫	1	39	10	25.64	6	15.38	14	35.90	5	12.82			4	
1	1009	初級簿記Ⅰ	澤村 孝夫	1	42	12	28.57	5	11.90	22	52.38	2	4.76	1			
1	1010	商法Ⅰ	伊藤 敦司	1	103	19	18.45	6	5.83	24	23.30	43	41.75	1		10	
1	1011	商法Ⅰ	伊藤 敦司	1	103	18	17.48	10	9.71	21	20.39	35	33.98	5		14	
1	1012	経営学Ⅱ	和田 茂穂	1	31	11	35.48	10	32.26	4	12.90		0.00	2		4	
1	1012	経営学Ⅱ	和田 茂穂	2	2		0.00		0.00	1	50.00		0.00	1			
1	1012	経営学総論	和田 茂穂	1	2	1	50.00		0.00		0.00		0.00			1	
1	1012	経営学総論	和田 茂穂	2	28	4	14.29	9	32.14	10	35.71		0.00	5			
1	1013	経済学Ⅱ	市岡 義章	1	39	14	35.90	9	23.08	11	28.21	1	2.56	3		1	
1	1013	経済学Ⅱ	市岡 義章	2	4		0.00		0.00	2	50.00		0.00	2			
1	1013	経済学入門Ⅱ	市岡 義章	2	14	2	14.29	3	21.43	3	21.43		0.00	6			
1	1014	初級簿記Ⅰ	山崎 敏	1	2		0.00		0.00		0.00		0.00			2	
1	1014	初級簿記Ⅰ	山崎 敏	2	3		0.00	1	33.33	1	33.33		0.00			1	
1	1014	初級簿記Ⅱ	山崎 敏	1	31	5	16.13	9	29.03	6	19.35	5	16.13			6	
1	1015	初級簿記Ⅱ	岩田 壽夫	2	7		0.00		0.00	3	42.86	1	14.29			3	
1	1015	初級簿記Ⅱ	岩田 壽夫	1	57	10	17.54	6	10.53	24	42.11	5	8.77			12	
1	1015	簿記Ⅰ	岩田 壽夫	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
1	1016	初級簿記Ⅱ	澤村 孝夫	2	2		0.00		0.00	1	50.00		0.00			1	
1	1016	初級簿記Ⅱ	澤村 孝夫	1	43	12	27.91	9	20.93	14	32.56	3	6.98	5			
1	1017	商法	伊藤 敦司	1	2		0.00		0.00		0.00	1	50.00			1	
1	1017	商法	伊藤 敦司	2	97	25	25.77	14	14.43	49	50.52	3	3.09			6	
1	1017	商法Ⅱ	伊藤 敦司	1	23	7	30.43	2	8.70	1	4.35	6	26.09	1		6	
1	1018	ネットワーク実習Ⅰ	赤池 隆雄	1	33	25	75.76	2	6.06		0.00	5	15.15			1	
1	1019	ネットワーク実習Ⅰ	玉置 友一	1	30	28	93.33		0.00	1	3.33		0.00	1			
1	1020	ネットワーク実習Ⅱ	赤池 隆雄	1	33	25	75.76	1	3.03	1	3.03		0.00	2		4	
1	1021	ネットワーク実習Ⅱ	玉置 友一	1	30	25	83.33	3	10.00		0.00	1	3.33			1	
1	1022	コンピュータ演習Ⅰ	西川 篤志	2	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1022	コンピュータ実習基礎	西川 篤志	1	39	28	71.79	8	20.51	2	5.13		0.00			1	
1	1023	コンピュータ演習Ⅱ	西川 篤志	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
1	1023	コンピュータ実習基礎	西川 篤志	1	36	25	69.44	5	13.89	2	5.56	1	2.78			3	
1	1024	コンピュータ実習基礎	西川 篤志	1	38	20	52.63	11	28.95	4	10.53	1	2.63			2	
1	1025	歴史への旅Ⅰ	池田 宏樹	1	65	46	70.77	10	15.38		0.00		0.00			9	
1	1025	歴史への旅Ⅰ	池田 宏樹	2	63	39	61.90	20	31.75		0.00		0.00			4	
1	1025	歴史学Ⅰ	池田 宏樹	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
1	1026	歴史への旅Ⅱ	池田 宏樹	1	36	19	52.78	6	16.67		0.00		0.00			11	
1	1026	歴史への旅Ⅱ	池田 宏樹	2	60	24	40.00	16	26.67	2	3.33	1	1.67			17	
1	1027	文学Ⅰ	栗山 元子	2	14		0.00		14.29	4	28.57	3	21.43	1		4	
1	1027	文学と親しむⅠ	栗山 元子	1	35	15	42.86	9	25.71	5	14.29	1	2.86	1		4	
1	1028	文学Ⅱ	栗山 元子	2	15	1	6.67	2	13.33	2	13.33	1	6.67			9	
1	1028	文学と親しむⅡ	栗山 元子	1	43	21	48.84	9	20.93	3	6.98	1	2.33			9	
1	1029	生活と法Ⅰ	伊藤 敦司	1	26	8	30.77	4	15.38	7	26.92		0.00			7	
1	1029	法学Ⅰ	伊藤 敦司	2	15	6	40.00	3	20.00	4	26.67		0.00	1		1	
1	1030	生活と法Ⅱ	伊藤 敦司	1	25	10	40.00	1	4.00	6	24.00		0.00			8	
1	1030	法学Ⅱ	伊藤 敦司	1	2		0.00		0.00		0.00		0.00			2	
1	1030	法学Ⅱ	伊藤 敦司	2	20	8	40.00	2	10.00	1	5.00		0.00			9	
1	1031	社会学Ⅰ	飯田 良明	1	2		0.00		0.00		0.00		0.00	2			
1	1031	社会学Ⅰ	飯田 良明	2	57	2	3.51		0.00	14	24.56	29	50.88	12			
1	1031	人間と社会Ⅰ	飯田 良明	1	126	8	6.35	5	3.97	18	14.29	73	57.94	22			
1	1032	社会学Ⅱ	飯田 良明	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00	1			
1	1032	社会学Ⅱ	飯田 良明	2	53	5	9.43	2	3.77	7	13.21	16	30.19	23			
1	1032	人間と社会Ⅱ	飯田 良明	1	100	13	13.00		0.00	14	14.00	26	26.00	46		1	
1	1033	自然科学Ⅰ	井芹 康統	2	2		0.00		0.00		0.00	2	100.00				
1	1033	自然科学への招待Ⅰ	井芹 康統	1	22	14	63.64	4	18.18	3	13.64	1	4.55				
1	1034	自然科学Ⅱ	井芹 康統	2	5		0.00	1	20.00		0.00	1	20.00			3	
1	1034	自然科学への招待Ⅱ	井芹 康統	1	51	22	43.14	9	17.65	8	15.69	2	3.92			10	
1	1035	情報とインターネットⅠ	玉置 友一	1	57	25	43.86	11	19.30	10	17.54	3	5.26	7		1	
1	1035	情報科学Ⅰ	玉置 友一	2	27	12	44.44	9	33.33	6	22.22		0.00				
1	1035	情報科学Ⅰ	玉置 友一	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00	1			
1	1035	情報科学Ⅰ	玉置 友一	2	2		0.00		0.00	1	50.00		0.00	1			
1	1036	情報とインターネットⅡ	玉置 友一	1	52	13	25.00	14	26.92	13	25.00		0.00	8		4	
1	1036	情報科学Ⅱ	玉置 友一	2	14	6	42.86	3	21.43	5	35.71		0.00				
1	1036	情報科学Ⅱ	玉置 友一	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00	1			
1	1036	情報科学Ⅱ	玉置 友一	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00	1			
1	1037	英語Ⅰ	板倉 素子	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
1	1037	英語Ⅰ	板倉 素子	2	3		0.00	1	33.33	1	33.33	1	33.33				
1	1037	英語Ⅰ (リーディング)	板倉 素子	1	41	8	19.51	13	31.71	9	21.95	4	9.76			7	

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	人数	人数	人数
1	1038	英語 I	板倉 素子	2	5		0.00		0.00	3	60.00		0.00				2
1	1038	英語 I (リーディング)	板倉 素子	1	41	2	4.88	8	19.51	17	41.46	2	4.88	1			11
1	1039	英語 I	板倉 素子	1	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1039	英語 I	板倉 素子	2	4		0.00		0.00	3	75.00		0.00				1
1	1039	英語 I (リーディング)	板倉 素子	1	41	5	12.20	17	41.46	9	21.95		0.00				10
1	1040	英語 I	柳浦 恭	2	4		0.00	3	75.00	1	25.00		0.00				
1	1040	英語 I (リーディング)	柳浦 恭	1	41	13	31.71	20	48.78	1	2.44		0.00	5			2
1	1041	英語 I	柳浦 恭	2	3		0.00		0.00	1	33.33		0.00	2			
1	1041	英語 I (リーディング)	柳浦 恭	1	42	14	33.33	20	47.62	5	11.90		0.00	3			
1	1042	英語 II (プラクティス)	柳浦 恭	1	38	12	31.58	20	52.63	1	2.63		0.00	2			3
1	1043	英語 II (プラクティス)	柳浦 恭	1	43	8	18.60	19	44.19	10	23.26		0.00	5			1
1	1044	英語 II (プラクティス)	柳浦 恭	1	39	14	35.90	17	43.59	5	12.82		0.00	2			1
1	1045	英語 II (プラクティス)	板倉 素子	1	41	9	21.95	15	36.59	7	17.07	1	2.44				9
1	1046	英語 II (プラクティス)	板倉 素子	1	42	6	14.29	12	28.57	12	28.57	4	9.52				8
1	1047	英会話 I	クリストファー ケニ	1	11		0.00	7	63.64	2	18.18		0.00	2			
1	1048	英会話 I	クリストファー ケニ	1	14	2	14.29	7	50.00	2	14.29	2	14.29	1			
1	1049	Cross-Cultural Communication I	板倉 他	1	23	15	65.22	2	8.70		0.00	5	21.74				1
1	1049	Cross-Cultural Communication I	板倉 他	2	42	15	35.71	13	30.95	5	11.90	3	7.14				6
1	1050	Cross-Cultural Communication II	板倉 他	1	11	11	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1050	Cross-Cultural Communication II	板倉 他	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1051	スポーツ演習	斎藤 朗	1	34	17	50.00	6	17.65	7	20.59	2	5.88				2
1	1051	スポーツ演習	斎藤 朗	2	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1052	スポーツ演習	斎藤 朗	1	36	17	47.22	5	13.89	7	19.44	4	11.11				3
1	1052	スポーツ演習	斎藤 朗	2	2		0.00		0.00	2	100.00		0.00				
1	1053	スポーツ演習	斎藤 朗	1	30	14	46.67	4	13.33	6	20.00	1	3.33				5
1	1053	スポーツ演習	斎藤 朗	2	2		0.00		0.00	1	50.00		0.00				1
1	1054	スポーツ演習	斎藤 朗	1	31	8	25.81	4	12.90	12	38.71	1	3.23				6
1	1055	スポーツ演習	斎藤 朗	1	29	9	31.03	7	24.14	7	24.14	2	6.90				4
1	1055	スポーツ演習	斎藤 朗	2	3		0.00		0.00	2	66.67	1	33.33				
1	1056	健康科学概論	斎藤 朗	1	65	39	60.00	2	3.08	5	7.69	8	12.31				11
1	1056	健康科学概論	斎藤 朗	2	19	14	73.68		0.00	1	5.26	2	10.53				2
1	1057	スクーパダイビング	斎藤 朗	1	39	19	48.72		0.00		0.00		0.00	20			
1	1057	スクーパダイビング	斎藤 朗	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00	1			
1	1058	乗馬	斎藤 朗	1	43	20	46.51		0.00		0.00		0.00				23
1	1059	ファイナンシャル・プランナー	市岡 他	1	38	16	42.11	9	23.68	6	15.79		0.00	6			1
1	1059	ファイナンシャル・プランナー	市岡 他	2	12	3	25.00	3	25.00	2	16.67		0.00	4			
1	1060	女性学	藤本 幹子	1	44	22	50.00	15	34.09		0.00		0.00	1			6
1	1060	女性学	藤本 幹子	2	19	12	63.16	5	26.32		0.00		0.00				2
1	1061	心とからだの健康	斎藤 朗	1	48	12	25.00	6	12.50	8	16.67	16	33.33	6			
1	1062	環境と未来	内山 隆	1	10	7	70.00	1	10.00		0.00		0.00				2
1	1063	情報リテラシー I	浅野 幸子	1	31	19	61.29	4	12.90	4	12.90		0.00				4
1	1064	情報リテラシー I	浅野 幸子	1	36	21	58.33	6	16.67	3	8.33		0.00				6
1	1065	情報リテラシー I	浅野 幸子	1	25	12	48.00	4	16.00	4	16.00		0.00				5
1	1066	ミクロ経済学 I	中村 秀一	1	40	27	67.50	5	12.50	2	5.00	2	5.00	1			3
1	1067	ミクロ経済学 II	中村 秀一	1	40	19	47.50	5	12.50	5	12.50	5	12.50				6
1	1068	金融論 I	市岡 義章	1	31	12	38.71	5	16.13	7	22.58	3	9.68	4			
1	1069	金融論 II	市岡 義章	1	30	10	33.33	8	26.67	7	23.33		0.00	4			1
1	1070	近代日本経済の歩み I	池田 宏樹	1	61	41	67.21	12	19.67		0.00		0.00	1			7
1	1071	近代日本経済の歩み II	池田 宏樹	1	48	29	60.42	4	8.33	6	12.50		0.00				9
1	1072	現代ビジネス	和田 他	1	48	23	47.92	10	20.83	3	6.25		0.00				12
1	1072	現代ビジネス	和田 他	2	2		0.00		0.00		0.00		0.00				2
1	1073	文章表現法	杉田 あけみ	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	1073	文章表現法 I	杉田 あけみ	1	39	6	15.38	17	43.59	12	30.77	3	7.69				1
1	1074	文章表現法 II	杉田 あけみ	1	38	1	2.63	25	65.79	8	21.05		0.00				4
1	1075	ビジネス文書	杉田 あけみ	1	32	6	18.75	17	53.13	5	15.63		0.00				4
1	1076	インターンシップ	就職部・教務部	1	18	15	83.33		0.00		0.00		0.00				3
1	1076	インターンシップ	就職部・教務部	2	13	5	38.46		0.00		0.00		0.00				8
1	1077	秘書学 I	藤本 幹子	1	56	33	58.93	17	30.36		0.00		0.00	5			1
1	1078	秘書学 II	藤本 幹子	1	54	47	87.04	1	1.85		0.00		0.00	3			3
1	1078	秘書学概論	藤本 幹子	1	1		0.00		0.00		0.00	1	100.00				
1	1078	秘書学概論	藤本 幹子	2	4	2	50.00		0.00	2	50.00		0.00				
1	1079	上級秘書学 I	藤本 幹子	1	14	13	92.86		0.00		0.00		0.00	1			
1	1080	上級秘書学 II	藤本 幹子	1	14	6	42.86	6	42.86		0.00	1	7.14	1			
1	1081	秘書学特講	藤本 幹子	1	9	7	77.78		0.00		0.00		0.00				2
1	1081	秘書学特講	藤本 幹子	2	21	18	85.71		0.00		0.00		0.00	3			
1	1082	ファッション市場論	中村 秀一	1	55	49	89.09		0.00	2	3.64	1	1.82				3
1	1083	現代産業論 I	中村 秀一	1	64	53	82.81		0.00		0.00	1	1.56	1			9
1	1084	現代産業論 II	中村 秀一	1	48	33	68.75	5	10.42		0.00	1	2.08				9
1	1085	中級簿記 I	岩田 壽夫	1	6	1	16.67	2	33.33	1	16.67	1	16.67				1
1	1086	中級簿記 II	岩田 壽夫	1	6	3	50.00	1	16.67		0.00		0.00	1			1
1	1087	工業簿記 I	山崎 敏	1	12	2	16.67	5	41.67	3	25.00		0.00				2
1	1088	工業簿記 II	山崎 敏	1	9	3	33.33	2	22.22	2	22.22	1	11.11				1
1	1089	上級簿記 I	山崎 敏	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	1091	原価計算 I	山崎 敏	1	6	3	50.00	3	50.00		0.00		0.00				
1	1092	原価計算 II	山崎 敏	1	5		0.00	5	100.00		0.00		0.00				
1	1093	会計学原論 I	飯名 皓作	1	26	19	73.08	4	15.38	3	11.54		0.00				
1	1094	会計学原論 II	飯名 皓作	1	35	26	74.29	4	11.43	3	8.57	1	2.86	1			
1	1095	通信プロトコル I	赤池 隆雄	1	6	6	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1095	通信プロトコル I	赤池 隆雄	2	9	2	22.22	4	44.44		0.00	3	33.33				
1	1096	通信プロトコル II	赤池 隆雄	1	8	7	87.50		0.00		0.00		0.00				1

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	1096	通信プロトコルⅡ	赤池 隆雄	2	9	5	55.56	3	33.33	1	11.11		0.00				
1	1097	インフォメーションテクノロジーⅠ	玉置 友一	1	45	28	62.22	1	2.22	4	8.89	3	6.67	9			
1	1097	インフォメーションテクノロジーⅠ	玉置 友一	2	5	1	20.00		0.00	3	60.00		0.00	1			
1	1098	インフォメーションテクノロジーⅡ	玉置 友一	1	45	12	26.67	9	20.00	10	22.22		0.00	11			3
1	1098	インフォメーションテクノロジーⅡ	玉置 友一	2	6		0.00		0.00	4	66.67		0.00	2			
1	1099	S Q Lサーバ実習	赤池 隆雄	1	32	20	62.50	2	6.25		0.00		0.00	6			4
1	1100	J a v a概説Ⅰ	玉置 友一	1	14	11	78.57		0.00		0.00		0.00	3			
1	1101	J a v a概説Ⅱ	玉置 友一	1	8	2	25.00	2	25.00		0.00	2	25.00				2
1	1102	J a v a実習	玉置 友一	1	6	4	66.67	1	16.67		0.00		0.00	1			
1	1103	情報処理概論Ⅰ	江上 邦博	1	27	12	44.44	6	22.22	5	18.52		0.00				4
1	1103	情報処理概論Ⅰ	江上 邦博	2	6		0.00	5	83.33	1	16.67		0.00				
1	1104	情報処理概論Ⅱ	江上 邦博	1	21	12	57.14	4	19.05	2	9.52	2	9.52				1
1	1104	情報処理概論Ⅱ	江上 邦博	2	5	1	20.00	3	60.00		0.00		0.00				1
1	1105	経営情報数学	陸路 正昭	2	2		0.00	1	50.00		0.00		0.00	1			
1	1105	情報数学	陸路 正昭	1	9	6	66.67	1	11.11		0.00		0.00	2			
1	1106	経営統計学	陸路 正昭	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	1106	情報統計学	陸路 正昭	1	35	17	48.57	4	11.43	2	5.71	1	2.86				11
1	1107	プログラミング基礎Ⅰ	井芹 康統	1	40	19	47.50	4	10.00	12	30.00	2	5.00	1			2
1	1108	プログラミング基礎Ⅰ	井芹 康統	1	24	8	33.33	3	12.50	7	29.17	4	16.67				2
1	1109	プログラミング基礎Ⅱ	井芹 康統	1	40	13	32.50	5	12.50	14	35.00	3	7.50				5
1	1110	プログラミング基礎Ⅱ	井芹 康統	1	23	7	30.43	3	13.04	4	17.39	2	8.70	2			5
1	1111	コンピュータ実習Ⅰ	西川 篤志	1	53	28	52.83	8	15.09	7	13.21	2	3.77	1			7
1	1112	コンピュータ演習Ⅱ	西川 篤志	2	3	1	33.33		0.00		0.00	1	33.33				1
1	1112	コンピュータ実習Ⅰ	西川 篤志	1	43	21	48.84	8	18.60	7	16.28	2	4.65	1			4
1	1112	電子計算機演習Ⅱ	西川 篤志	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	1113	コンピュータ実習Ⅰ	西川 篤志	1	24	13	54.17	6	25.00	1	4.17	1	4.17	2			1
1	1114	比較文学ゼミ	板倉 素子	1	6	5	83.33		0.00		0.00		0.00				1
1	1115	児童文学ゼミ	磯野 嘉子	1	11	6	54.55	2	18.18	2	18.18		0.00				1
1	1115	児童文学演習	磯野 嘉子	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1116	言語と人間ゼミ	柳浦 恭	1	4		0.00	1	25.00		0.00		0.00	3			
1	1117	キャンパス心理学ゼミ	斎藤 朗	1	15	5	33.33	9	60.00		0.00	1	6.67				
1	1118	経済史演習	池田 宏樹	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1118	地域史ゼミ	池田 宏樹	1	9	9	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1119	ファイナンシャル・プランニングゼミ	市岡 義章	1	10	7	70.00		0.00		0.00		0.00				3
1	1120	ビジネス研究ゼミⅠ	杉田 あけみ	1	8	6	75.00	2	25.00		0.00		0.00				
1	1121	ファッション市場リサーチゼミⅠ	中村 秀一	1	16	10	62.50	4	25.00	1	6.25		0.00				1
1	1122	会計学ゼミⅠ	飯名 皓作	1	14	10	71.43	2	14.29		0.00	1	7.14				1
1	1123	初級簿記ゼミ	山崎 敏	1	14	11	78.57	2	14.29	1	7.14		0.00				
1	1124	初級簿記ゼミ	岩田 壽夫	1	7	2	28.57	3	42.86	1	14.29		0.00				1
1	1125	初級簿記ゼミ	澤村 孝夫	1	16	15	93.75		0.00		0.00	1	6.25				
1	1126	応用簿記ゼミ	山崎 敏	1	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1127	CCNAゼミⅠ	赤池 隆雄	1	10	7	70.00	2	20.00		0.00		0.00				1
1	1127	ネットワーク演習	赤池 隆雄	2	2	1	50.00	1	50.00		0.00		0.00				
1	1128	J a v aゼミⅠ	玉置 友一	1	5	4	80.00	1	20.00		0.00		0.00				
1	1129	コンピュータマスターゼミⅠ	井芹 康統	1	10	5	50.00	4	40.00		0.00		0.00				1
1	1130	コンピュータマスターゼミⅠ	西川 篤志	1	10	4	40.00	4	40.00		0.00	2	20.00				
1	1131	コンピュータマスターゼミⅠ	江上 邦博	1	14	13	92.86		0.00		0.00	1	7.14				
1	1132	ミクロ経済学Ⅰ	中村 秀一	1	23	18	78.26	1	4.35		0.00		0.00				4
1	1133	ミクロ経済学Ⅱ	中村 秀一	1	20	14	70.00	2	10.00		0.00	1	5.00				3
1	1134	英語Ⅲ	柳浦 恭	2	21	14	66.67	6	28.57		0.00		0.00	1			
1	1135	英語Ⅲ	板倉 素子	2	10	7	70.00	1	10.00		0.00		0.00				2
1	1136	英会話Ⅱ	クリストファー ケニ	2	8		0.00	8	100.00		0.00		0.00				
1	1137	仏語Ⅱ	土田 知則	2	11	10	90.91		0.00		0.00		0.00	1			
1	1138	マクロ経済学	市岡 義章	2	96	53	55.21	17	17.71	22	22.92		0.00	3			1
1	1139	マクロ経済学	市岡 義章	2	64	40	62.50	13	20.31	10	15.63		0.00	1			
1	1140	ネットワーク実習Ⅰ	玉置 友一	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1140	ネットワーク実習Ⅰ	玉置 友一	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1141	ネットワーク実習Ⅱ	玉置 友一	1	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1141	ネットワーク実習Ⅱ	玉置 友一	2	2	1	50.00		0.00		0.00		0.00				1
1	1141	ネットワーク実習基礎Ⅱ	玉置 友一	1	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1142	中級簿記	岩田 壽夫	2	32	6	18.75	7	21.88	12	37.50	3	9.38				4
1	1143	房総の地域史Ⅰ	池田 宏樹	2	99	67	67.68	29	29.29	2	2.02		0.00				1
1	1144	房総の地域史Ⅱ	池田 宏樹	2	99	68	68.69	22	22.22	2	2.02		0.00				7
1	1145	金融論	市岡 義章	1	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1145	金融論	市岡 義章	2	11	5	45.45	5	45.45		0.00		0.00	1			
1	1146	日本経済の基礎知識	市岡 義章	2	86	22	25.58	42	48.84	15	17.44	3	3.49	4			
1	1147	現代経済事情	市岡 義章	2	74	10	13.51	44	59.46	15	20.27		0.00	4			1
1	1148	貿易論	鶴岡 詳晃	2	52	33	63.46	11	21.15	5	9.62	1	1.92	2			
1	1149	観光地理	坂本 信生	2	84	20	23.81	51	60.71	6	7.14		0.00	1			6
1	1150	経営管理論	水野 基樹	2	17	8	47.06	5	29.41	1	5.88		0.00	3			
1	1151	上級秘書学	藤本 幹子	2	17	8	47.06	7	41.18		0.00		0.00				2
1	1152	事務管理	小山 久雄	2	48	33	68.75	9	18.75	5	10.42	1	2.08				
1	1153	財務管理	飯名 皓作	2	39	26	66.67	6	15.38	2	5.13	1	2.56	4			
1	1154	L A N実習Ⅰ	赤池 隆雄	2	8	8	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1155	L A N実習Ⅱ	赤池 隆雄	2	5	4	80.00	1	20.00		0.00		0.00				
1	1156	L A N設計Ⅰ	玉置 友一	2	6	5	83.33	1	16.67		0.00		0.00				
1	1157	W A N設計Ⅰ	赤池 隆雄	2	11	7	63.64	2	18.18		0.00	2	18.18				
1	1158	財務諸表論	飯名 皓作	2	35	26	74.29	6	17.14		0.00	1	2.86	2			
1	1159	管理会計	澤村 孝夫	2	12		0.00	5	41.67	3	25.00		0.00	4			
1	1160	原価計算	山崎 敏	2	15	5	33.33	7	46.67	2	13.33		0.00				1

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	1161	上級簿記	山崎 敏	2	3	2	66.67		0.00		0.00		0.00				1
1	1162	税務会計	岩村 衛	2	6	4	66.67	1	16.67	1	16.67		0.00				
1	1163	現代産業論	中村 秀一	2	76	53	69.74	11	14.47	5	6.58		0.00	1			6
1	1164	統計学	赤池 隆雄	2	85	75	88.24	2	2.35		0.00		0.00	8			
1	1165	保険論	上山 道生	2	26	17	65.38	1	3.85	4	15.38		0.00				4
1	1166	民法	伊藤 敦司	2	7	7	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1167	ビジネス英語	寺澤 恵	2	12	8	66.67	4	33.33		0.00		0.00				
1	1168	情報リテラシーⅡ	浅野 幸子	2	23	19	82.61	3	13.04		0.00		0.00				1
1	1169	比較文学演習	板倉 素子	2	2		0.00		0.00		0.00		0.00				2
1	1171	現代経済演習Ⅱ	中村 秀一	2	23	23	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1172	経済史演習	池田 宏樹	2	4	4	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1173	金融論演習	市岡 義章	2	4	2	50.00		0.00	2	50.00		0.00				
1	1174	C C N A演習	赤池 隆雄	2	15	12	80.00	3	20.00		0.00		0.00				
1	1174	統計学演習	赤池 隆雄	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1175	プログラム基礎演習	玉置 友一	2	6	6	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1176	会計学演習Ⅱ	飯名 皓作	2	9	9	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1177	簿記演習Ⅱ	山崎 敏	2	15	14	93.33		0.00	1	6.67		0.00				
1	1178	ミクロ経済学	中村 秀一	1	2	1	50.00		0.00	1	50.00		0.00				
1	1178	ミクロ経済学	中村 秀一	2	15	7	46.67	3	20.00	3	20.00		0.00	1			1
1	1179	ミクロ経済学	中村 秀一	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	1180	秘書学概論	藤本 幹子	2	5	2	40.00	1	20.00		0.00		0.00				2
1	1182	経済史	池田 宏樹	2	6	6	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	1183	会計学原論	飯名 皓作	1	2		0.00	2	100.00		0.00		0.00				
1	1183	会計学原論	飯名 皓作	2	10	6	60.00		0.00	1	10.00		0.00	3			
1	1184	文書基礎演習	杉田 あけみ	2	1		0.00		0.00	1	100.00		0.00				
1	1184	文章表現法	杉田 あけみ	2	13	1	7.69	2	15.38	8	61.54		0.00	1			1
1	1184	文章表現法Ⅰ	杉田 あけみ	1	16	3	18.75	2	12.50	8	50.00	1	6.25				2
1	1185	文章表現法Ⅱ	杉田 あけみ	1	16	3	18.75	5	31.25	5	31.25		0.00				3
1	1186	コンピュータ実習基礎	西川 篤志	1	30	10	33.33	15	50.00	4	13.33	1	3.33				
1	3210	英語Ⅱ(総合)	赤間 勇雄	2	13	5	38.46	1	7.69	2	15.38	1	7.69				4
1	3211	英語Ⅱ(応用)	赤間 勇雄	2	29	9	31.03	9	31.03	7	24.14		0.00	1			3
1	3212	英語Ⅱ(応用)	赤間 勇雄	2	28	9	32.14	11	39.29	7	25.00		0.00				1
1	3213	英語Ⅱ(応用)	赤間 勇雄	2	25	8	32.00	5	20.00	8	32.00	2	8.00				2
1	3214	企業戦略論	坂東 輝夫	2	64	13	20.31	49	76.56		0.00		0.00	2			
1	3214	企業論	坂東 輝夫	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00	1			
1	3216	経営管理論	水野 基樹	2	20	7	35.00	6	30.00	6	30.00		0.00				1
1	3217	マーケティング	和田 茂徳	2	63	23	36.51	25	39.68	9	14.29		0.00	2			4
1	3219	原価計算	澤村 孝夫	2	22	4	18.18	7	31.82	7	31.82		0.00	2			2
1	3221	会計学Ⅰ	澤村 孝夫	2	24	1	4.17	6	25.00	14	58.33	2	8.33	1			
1	3222	会計学Ⅱ	澤村 孝夫	2	30	7	23.33	8	26.67	7	23.33		0.00	8			
1	3224	会計システム演習	鈴木 茂	2	51	23	45.10	15	29.41	7	13.73		0.00				6
1	3225	経営データ分析	陸路 正昭	2	36	27	75.00	2	5.56	2	5.56		0.00				5
1	3226	経営データ分析	陸路 正昭	2	34	27	79.41	4	11.76		0.00		0.00				3
1	3227	情報システム概論	江上 邦博	2	79	36	45.57	23	29.11	7	8.86	4	5.06	2			7
1	3227	情報基礎論Ⅱ	江上 邦博	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	3228	情報社会論	和田 茂徳	2	43	27	62.79	11	25.58	4	9.30		0.00	1			
1	3229	情報社会論	和田 茂徳	2	36	22	61.11	11	30.56	1	2.78		0.00	2			
1	3230	コンピュータ演習Ⅲ	井芹 康統	2	32	14	43.75	7	21.88	5	15.63	4	12.50	1			1
1	3231	ソフトウェア演習Ⅰ	江上 邦博	2	44	13	29.55	6	13.64	9	20.45	8	18.18	3			5
1	3231	プログラミングⅡ	江上 邦博	2	1		0.00		0.00		0.00	1	100.00				
1	3232	ソフトウェア演習Ⅱ	江上 邦博	2	48	14	29.17	2	4.17	7	14.58	4	8.33				21
1	3233	プログラミング言語	井芹 康統	2	26	11	42.31	2	7.69		0.00	1	3.85				12
1	3234	アルゴリズムⅠ	江上 邦博	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	3234	ソフトウェア設計Ⅰ	江上 邦博	2	62	26	41.94	16	25.81	8	12.90	5	8.06	1			6
1	3235	アルゴリズムⅡ	江上 邦博	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	3235	ソフトウェア設計Ⅱ	江上 邦博	2	63	22	34.92	12	19.05	15	23.81	8	12.70				6
1	3236	システム設計	鳩原 恵二	2	29	4	13.79	6	20.69	12	41.38	4	13.79	3			
1	3237	コンピュータネットワーク論	竹本 篤郎	2	35	19	54.29	3	8.57	7	20.00		0.00				6
1	3238	マルチメディア論	江上 邦博	2	76	29	38.16	22	28.95	9	11.84	5	6.58				11
1	3239	コンピュータアート	山本 俊治	2	50	21	42.00	13	26.00	8	16.00		0.00	8			
1	3240	データベース論	竹本 篤郎	2	53	8	15.09	8	15.09	25	47.17	5	9.43				7
1	3241	経営情報システム	鳩原 恵二	2	24	13	54.17	3	12.50	4	16.67	2	8.33				2
1	3242	経営情報システム	鳩原 恵二	2	14	6	42.86		0.00	5	35.71		0.00				3
1	3243	プレゼンテーション演習	杉田 あけみ	2	6		0.00	4	66.67		0.00		0.00				2
1	3246	卒業研究Ⅰ	和田 茂徳	2	4	3	75.00		0.00		0.00		0.00				1
1	3247	卒業研究Ⅰ	岩田 壽夫	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	3248	卒業研究Ⅰ	杉田 あけみ	2	8	2	25.00	4	50.00		0.00		0.00				2
1	3249	卒業研究Ⅰ	澤村 孝夫	2	8	7	87.50		0.00		0.00		0.00				1
1	3250	卒業研究Ⅰ	柳浦 恭	2	15	9	60.00	6	40.00		0.00		0.00				
1	3251	卒業研究Ⅱ	井芹 康統	2	13	13	100.00		0.00		0.00		0.00				
1	3252	卒業研究Ⅱ	西川 篤志	2	17	16	94.12		0.00		0.00	1	5.88				
1	3253	卒業研究Ⅱ	江上 邦博	2	12	11	91.67		0.00		0.00		0.00				1
1	3254	文学Ⅰ	栗山 元子	1	2		0.00	2	100.00		0.00		0.00				
1	3254	文学Ⅰ	栗山 元子	2	47	16	34.04	9	19.15	15	31.91	5	10.64				2
1	3254	文学と親しむⅠ	栗山 元子	1	68	7	10.29	13	19.12	17	25.00	17	25.00	7			7
1	3255	文学Ⅱ	栗山 元子	1	2		0.00		0.00	2	100.00		0.00				
1	3255	文学Ⅱ	栗山 元子	2	43	18	41.86	12	27.91	6	13.95	5	11.63				2
1	3255	文学と親しむⅡ	栗山 元子	1	47	16	34.04	7	14.89	8	17.02	3	6.38				13
1	3256	英語Ⅱ	赤間 勇雄	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
1	3256	英語Ⅱ	赤間 勇雄	2	10	3	30.00	2	20.00	2	20.00		0.00				3

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	3257	秘書学Ⅰ	藤本 幹子	1	41	21	51.22	14	34.15	2	4.88		0.00	3		1	
1	3258	秘書学Ⅱ	藤本 幹子	1	42	28	66.67	9	21.43		0.00		0.00	3		2	
1	3258	秘書学概論	藤本 幹子	2	11	5	45.45	4	36.36	1	9.09		0.00	1			
1	3259	情報処理概論Ⅰ	江上 邦博	1	39	12	30.77	8	20.51	5	12.82	10	25.64			4	
1	3259	情報処理概論Ⅰ	江上 邦博	2	2		0.00		0.00	2	100.00		0.00				
1	3260	情報処理概論Ⅱ	江上 邦博	1	38	13	34.21	2	5.26	4	10.53	7	18.42			12	
2	4400	文学Ⅰ	栗山 元子	1	36	9	25.00	20	55.56	6	16.67		0.00			1	
2	4400	文学Ⅰ	栗山 元子	2	8	1	12.50	2	25.00	1	12.50		0.00	1		3	
2	4401	文学Ⅱ	栗山 元子	1	7	3	42.86	1	14.29	2	28.57		0.00			1	
2	4401	文学Ⅱ	栗山 元子	2	6		0.00		0.00		0.00		0.00			6	
2	4404	法学Ⅰ(日本国憲法)	飯野 賢一	1	99	69	69.70	23	23.23	7	7.07		0.00				
2	4405	法学Ⅰ(日本国憲法)	飯野 賢一	1	96	70	72.92	15	15.63	8	8.33		0.00	2		1	
2	4409	心理学Ⅰ	磯村 陸子	1	83	59	71.08	17	20.48	4	4.82	2	2.41	1			
2	4409	心理学Ⅰ	磯村 陸子	2	28	11	39.29	8	28.57	3	10.71	1	3.57	5			
2	4410	心理学Ⅱ	磯村 陸子	1	26	15	57.69	3	11.54	2	7.69	1	3.85	5			
2	4410	心理学Ⅱ	磯村 陸子	2	32	8	25.00	8	25.00	5	15.63	2	6.25	8		1	
2	4411	数学Ⅰ	浅田 健嗣	1	9	1	11.11	3	33.33	3	33.33	2	22.22				
2	4411	数学概説Ⅰ	浅田 健嗣	1	8	5	62.50	3	37.50		0.00		0.00				
2	4411	数学概説Ⅰ	浅田 健嗣	2	26	2	7.69	8	30.77	9	34.62	7	26.92				
2	4412	数学Ⅱ	浅田 健嗣	1	1		0.00		0.00		0.00	1	100.00				
2	4412	数学概説Ⅱ	浅田 健嗣	2	13	3	23.08		0.00	1	7.69	9	69.23				
2	4413	自然科学概説Ⅰ	内山 隆	1	3	3	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4413	自然科学概説Ⅰ	内山 隆	2	24	4	16.67	10	41.67	8	33.33	1	4.17			1	
2	4413	生物学Ⅰ	内山 隆	1	20	5	25.00	6	30.00	2	10.00	6	30.00	1			
2	4413	生物学Ⅰ	内山 隆	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
2	4414	自然科学概説Ⅰ	内山 隆	1	3	2	66.67	1	33.33		0.00		0.00				
2	4414	自然科学概説Ⅰ	内山 隆	2	5		0.00		0.00	2	40.00	1	20.00			2	
2	4414	生物学Ⅱ	内山 隆	1	7	1	14.29	2	28.57	1	14.29		0.00			3	
2	4415	総合演習Ⅰ	三好 理夫	1	26	23	88.46	3	11.54		0.00		0.00				
2	4416	総合演習Ⅰ	大沼 徹	1	27	22	81.48	4	14.81	1	3.70		0.00				
2	4417	総合演習Ⅰ	菅 治子	1	43	21	48.84	19	44.19	3	6.98		0.00				
2	4418	総合演習Ⅰ	横山 洋子	1	43	38	88.37	3	6.98	2	4.65		0.00				
2	4419	総合演習Ⅰ	吉村 香	1	44	37	84.09	5	11.36	1	2.27		0.00			1	
2	4420	総合演習Ⅰ	松田 清美	1	40	29	72.50	7	17.50	1	2.50	1	2.50			2	
2	4421	スポーツ演習	三上 修二	1	51	42	82.35	7	13.73	1	1.96		0.00			1	
2	4422	スポーツ演習	三上 修二	1	50	45	90.00	4	8.00		0.00		0.00			1	
2	4423	スポーツ演習	三上 修二	1	49	37	75.51	10	20.41		0.00		0.00			2	
2	4423	スポーツ演習	三上 修二	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
2	4424	スポーツ演習	三上 修二	1	49	39	79.59	7	14.29		0.00		0.00			3	
2	4425	健康科学概論	三上 修二	1	111	46	41.44	26	23.42	32	28.83	4	3.60	1		2	
2	4425	健康科学概論	三上 修二	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00			1	
2	4426	教育情報処理	浅田 健嗣	1	33	23	69.70	8	24.24	1	3.03	1	3.03				
2	4427	教育情報処理	浅田 健嗣	1	33	24	72.73	5	15.15		0.00	4	12.12				
2	4428	教育情報処理	浅田 健嗣	1	32	16	50.00	12	37.50	4	12.50		0.00				
2	4429	教育情報処理	浅田 健嗣	1	34	27	79.41	6	17.65		0.00	1	2.94				
2	4430	教育情報処理	浅田 健嗣	1	33	25	75.76	4	12.12	3	9.09	1	3.03				
2	4431	教育情報処理	浅田 健嗣	1	30	10	33.33	12	40.00	6	20.00	2	6.67				
2	4432	ピアノ音楽Ⅰ	高木 誠	1	13	12	92.31		0.00		0.00	1	7.69				
2	4432	ピアノ音楽Ⅰ	高木 誠	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4433	ピアノ音楽Ⅱ	高木 誠	1	5	1	20.00	1	20.00		0.00	1	20.00			2	
2	4433	ピアノ音楽Ⅱ	高木 誠	2	8	3	37.50	3	37.50	2	25.00		0.00				
2	4436	スキーⅠ	三上 修二	1	24	2	8.33		0.00		0.00		0.00			22	
2	4437	国語学概説	栗山 元子	1	70	37	52.86	24	34.29	8	11.43	1	1.43				
2	4437	国語学概説	栗山 元子	2	2		0.00		0.00		0.00		0.00	2			
2	4438	国語学概説	栗山 元子	1	72	30	41.67	18	25.00	21	29.17	1	1.39			2	
2	4438	国語学概説	栗山 元子	2	2		0.00		0.00	1	50.00		0.00			1	
2	4439	国語学概説	栗山 元子	1	65	25	38.46	21	32.31	12	18.46	1	1.54	4		2	
2	4439	国語学概説	栗山 元子	2	3		0.00		0.00	1	33.33		0.00	1		1	
2	4440	数学概説	浅田 健嗣	1	43	13	30.23	12	27.91	17	39.53		0.00	1			
2	4441	自然科学概説	内山 隆	1	70	48	68.57	13	18.57	5	7.14	2	2.86			2	
2	4441	自然科学概説Ⅱ	内山 隆	2	14		0.00	3	21.43	1	7.14		0.00			10	
2	4442	生活概説	飯田 稔	1	41	37	90.24	4	9.76		0.00		0.00				
2	4443	基礎音楽Ⅰ	絹川 文仁	1	38	11	28.95	17	44.74	9	23.68		0.00			1	
2	4444	基礎音楽Ⅰ	絹川 文仁	1	32	8	25.00	11	34.38	13	40.63		0.00				
2	4445	基礎音楽Ⅰ	絹川 文仁	1	41	8	19.51	18	43.90	12	29.27		0.00			3	
2	4446	基礎音楽Ⅰ	絹川 文仁	1	42	8	19.05	28	66.67	5	11.90		0.00			1	
2	4447	基礎音楽Ⅱ	絹川 文仁	1	53	20	37.74	7	13.21	14	26.42	2	3.77			10	
2	4448	基礎音楽Ⅱ	絹川 文仁	1	47	12	25.53	15	31.91	6	12.77	5	10.64			9	
2	4449	器楽Ⅰ	高木 他	1	194	91	46.91	29	14.95	40	20.62	21	10.82	1		12	
2	4449	器楽Ⅰ	高木 他	2	33	5	15.15	4	12.12	17	51.52	3	9.09			4	
2	4450	声楽Ⅰ	絹川 文仁	1	6	6	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4451	基礎造形	三好・小張	1	41	23	56.10	15	36.59	2	4.88	1	2.44				
2	4451	基礎造形	三好・小張	2	2		0.00	1	50.00		0.00		0.00			1	
2	4452	基礎造形	三好・小張	1	42	20	47.62	22	52.38		0.00		0.00				
2	4452	基礎造形	三好・小張	2	5	1	20.00	3	60.00		0.00	1	20.00				
2	4453	基礎造形	三好 理夫	1	40	16	40.00	21	52.50	1	2.50	1	2.50			1	
2	4453	基礎造形	三好 理夫	2	1		0.00		0.00		0.00	1	100.00				
2	4454	基礎造形	三好・小張	1	35	16	45.71	16	45.71	2	5.71	1	2.86				
2	4455	水泳	三上 修二	1	92	72	78.26	12	13.04		0.00	5	5.43			3	
2	4455	水泳	三上 修二	2	5	4	80.00		0.00	1	20.00		0.00				

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	人数	人数	人数
2	4456	教職概説	三好 理夫	1	24	20	83.33	4	16.67		0.00		0.00				
2	4457	教職概説	大沼 徹	1	24	12	50.00	9	37.50	3	12.50		0.00				
2	4458	教職概説	菅 治子	1	40	14	35.00	24	60.00	1	2.50		0.00				1
2	4458	教職概説	菅 治子	2	2		0.00		0.00		0.00		0.00				2
2	4459	教職概説	横山 洋子	1	41	18	43.90	12	29.27	9	21.95	1	2.44				1
2	4460	教職概説	吉村 香	1	41	23	56.10	10	24.39	7	17.07		0.00				1
2	4461	教職概説	松田 清美	1	39	26	66.67	2	5.13	8	20.51		0.00				3
2	4462	教育原理 I	大沼 徹	1	75	27	36.00	35	46.67	12	16.00	1	1.33				
2	4462	教育原理 I	大沼 徹	2	5		0.00	1	20.00	2	40.00	2	40.00				
2	4463	教育原理 I	大沼 徹	1	77	22	28.57	35	45.45	17	22.08	2	2.60				1
2	4463	教育原理 I	大沼 徹	2	5		0.00		0.00	3	60.00	2	40.00				
2	4464	教育原理 I	大沼 徹	1	70	20	28.57	38	54.29	9	12.86	1	1.43				2
2	4464	教育原理 I	大沼 徹	2	3		0.00	1	33.33		0.00	2	66.67				
2	4465	教育原理 II	大沼 徹	1	72	34	47.22	28	38.89	5	6.94	5	6.94				
2	4466	教育原理 II	大沼 徹	1	74	28	37.84	33	44.59	10	13.51		0.00				3
2	4466	教育原理 II	大沼 徹	2	6		0.00	2	33.33	2	33.33		0.00				2
2	4467	教育原理 II	大沼 徹	1	69	31	44.93	27	39.13	5	7.25	1	1.45				5
2	4467	教育原理 II	大沼 徹	2	2		0.00		0.00		0.00	1	50.00				1
2	4468	教育・保育法規	飯田 稔	1	9	3	33.33	4	44.44		0.00		0.00				2
2	4468	教育・保育法規	飯田 稔	2	6		0.00	2	33.33		0.00		0.00				4
2	4469	教育心理学	磯村 陸子	1	73	65	89.04	7	9.59	1	1.37		0.00				
2	4469	教育心理学	磯村 陸子	2	1		0.00		0.00		0.00	1	100.00				
2	4470	教育心理学	磯村 陸子	1	73	58	79.45	10	13.70	4	5.48		0.00	1			
2	4471	教育心理学	磯村 陸子	1	77	60	77.92	11	14.29	3	3.90		0.00	2			1
2	4471	教育心理学	磯村 陸子	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4472	社会科指導法	佐久間 勝彦	1	49	35	71.43	7	14.29	4	8.16		0.00				3
2	4472	社会科指導法	佐久間 勝彦	2	6	2	33.33		0.00		0.00		0.00				4
2	4473	社会科指導法	佐久間 勝彦	1	37	23	62.16	3	8.11	6	16.22		0.00				5
2	4473	社会科指導法	佐久間 勝彦	2	6	2	33.33		0.00		0.00		0.00				4
2	4474	生活科指導法	磯村 陸子	1	72	10	13.89	41	56.94	19	26.39	1	1.39				1
2	4474	生活科指導法	磯村 陸子	2	21		0.00	13	61.90	1	4.76		0.00	6			1
2	4475	音楽科指導法	梶山 正人	1	49	31	63.27	15	30.61		0.00		0.00				3
2	4475	音楽科指導法	梶山 正人	2	3		0.00		0.00		0.00		0.00				3
2	4476	家庭科指導法	廣橋 比刀美	1	8	6	75.00	1	12.50	1	12.50		0.00				
2	4476	家庭科指導法	廣橋 比刀美	2	49	18	36.73	6	12.24	7	14.29	2	4.08				16
2	4477	障害児教育	村山 拓	1	32	15	46.88	14	43.75	3	9.38		0.00				
2	4477	障害児教育	村山 拓	2	6	1	16.67	2	33.33	1	16.67		0.00	1			1
2	4478	健康指導法	菅 治子	1	66	34	51.52	19	28.79	10	15.15		0.00				3
2	4478	健康指導法 I	菅 治子	2	4		0.00		0.00	1	25.00		0.00				3
2	4479	健康指導法	菅 治子	1	64	28	43.75	16	25.00	15	23.44		0.00	1			4
2	4479	健康指導法 I	菅 治子	2	3	2	66.67	1	33.33		0.00		0.00				
2	4480	健康指導法	菅 治子	1	65	26	40.00	22	33.85	12	18.46		0.00				5
2	4481	環境指導法 I	松田 清美	1	66	30	45.45	30	45.45	4	6.06	1	1.52				1
2	4481	環境指導法 I	松田 清美	2	3	1	33.33		0.00		0.00	1	33.33				1
2	4482	環境指導法 I	松田 清美	1	64	25	39.06	22	34.38	16	25.00		0.00	1			
2	4482	環境指導法 I	松田 清美	2	2		0.00		0.00	1	50.00		0.00	1			
2	4483	環境指導法 I	松田 清美	1	63	25	39.68	26	41.27	10	15.87	1	1.59				1
2	4483	環境指導法 I	松田 清美	2	3	1	33.33		0.00	1	33.33		0.00				1
2	4484	言葉指導法 I	横山 洋子	1	60	59	98.33	1	1.67		0.00		0.00				
2	4485	言葉指導法 I	横山 洋子	1	67	63	94.03	1	1.49	1	1.49	1	1.49	1			
2	4486	言葉指導法 I	横山 洋子	1	64	59	92.19	1	1.56	1	1.56	1	1.56				2
2	4486	言葉指導法 I	横山 洋子	2	2	1	50.00		0.00		0.00	1	50.00				
2	4487	言葉指導法 II	横山 洋子	1	27	22	81.48		0.00	1	3.70	1	3.70				3
2	4487	言葉指導法 II	横山 洋子	2	2		0.00		0.00		0.00		0.00				2
2	4488	言葉指導法 II	横山 洋子	1	32	21	65.63	4	12.50	2	6.25	1	3.13				4
2	4488	言葉指導法 II	横山 洋子	2	10		0.00	4	40.00		0.00	1	10.00				5
2	4489	音楽表現指導法 I	梶山 正人	1	65	47	72.31	14	21.54		0.00		0.00				4
2	4489	音楽表現指導法 I	梶山 正人	2	5		0.00	3	60.00		0.00		0.00				2
2	4490	音楽表現指導法 I	梶山 正人	1	44	23	52.27	17	38.64		0.00		0.00				4
2	4490	音楽表現指導法 I	梶山 正人	2	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
2	4491	音楽表現指導法 I	梶山 正人	1	54	19	35.19	26	48.15		0.00		0.00				9
2	4492	遊び指導法	横山 洋子	1	71	36	50.70	17	23.94	10	14.08	3	4.23				5
2	4492	遊び指導法	横山 洋子	2	9		0.00	1	11.11	1	11.11	1	11.11				6
2	4493	遊び指導法	横山 洋子	1	56	31	55.36	9	16.07	6	10.71	1	1.79				9
2	4493	遊び指導法	横山 洋子	2	6	4	66.67		0.00		0.00		0.00				2
2	4494	歌唱伴奏法	高木・原田	1	13	9	69.23	4	30.77		0.00		0.00				
2	4495	歌唱伴奏法	高木・原田	1	27	19	70.37	5	18.52		0.00		0.00	1			2
2	4497	社会福祉	柏木 恭典	1	55	26	47.27	16	29.09	12	21.82	1	1.82				
2	4498	社会福祉	柏木 恭典	1	57	22	38.60	23	40.35	9	15.79		0.00	3			
2	4499	こどもの福祉 I	柏木 恭典	1	38	14	36.84	15	39.47	9	23.68		0.00				
2	4500	こどもの福祉 I	柏木 恭典	1	74	24	32.43	34	45.95	13	17.57		0.00	2			1
2	4501	保育原理 I	松田 清美	1	69	26	37.68	20	28.99	20	28.99	1	1.45	1			1
2	4502	保育原理 I	松田 清美	1	72	29	40.28	18	25.00	16	22.22	2	2.78				7
2	4503	発達心理学	磯村 陸子	1	57	10	17.54	38	66.67	5	8.77	3	5.26				1
2	4504	発達心理学	磯村 陸子	1	56	3	5.36	40	71.43	8	14.29	1	1.79				4
2	4505	小児保健	荒武 典子	1	55	46	83.64	4	7.27	3	5.45	1	1.82				1
2	4506	小児保健	荒武 典子	1	60	54	90.00	3	5.00		0.00		0.00				3
2	4507	こども栄養	三幣 周子	1	37	15	40.54	12	32.43	8	21.62	1	2.70				1
2	4508	こども栄養	三幣 周子	1	36	13	36.11	9	25.00	12	33.33		0.00	1			1
2	4509	こども栄養	三幣 周子	1	36	15	41.67	17	47.22	3	8.33		0.00				1

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格	
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
2	4510	保育内容(総論)	吉村 香	1	98	43	43.88	39	39.80	13	13.27		0.00	3			
2	4511	保育内容(総論)	吉村 香	1	96	58	60.42	20	20.83	12	12.50		0.00	2			4
2	4512	乳児保育	吉村 香	1	39	16	41.03	12	30.77	9	23.08	1	2.56	1			
2	4513	乳児保育	吉村 香	1	37	12	32.43	12	32.43	11	29.73		0.00	1			1
2	4514	乳児保育	吉村 香	1	39	7	17.95	17	43.59	14	35.90		0.00				1
2	4515	養護内容	柏木 恭典	1	54	23	42.59	13	24.07	15	27.78		0.00	3			
2	4516	養護内容	柏木 恭典	1	55	32	58.18	14	25.45	6	10.91	1	1.82				2
2	4517	保育実習指導	保育実習担当	1	109	98	89.91	4	3.67	1	0.92		0.00				6
2	4519	英語コミュニケーション	根古谷 常雄	1	3	3	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4519	英語コミュニケーション	根古谷 常雄	2	50	40	80.00	5	10.00	2	4.00		0.00	2			1
2	4520	英語コミュニケーション	根古谷 常雄	2	47	30	63.83	13	27.66	2	4.26		0.00				2
2	4521	英語コミュニケーション	根古谷 常雄	2	27	18	66.67	7	25.93		0.00		0.00	1			1
2	4522	スキーⅡ	三上 修二	2	22	1	4.55		0.00		0.00		0.00				21
2	4523	書道概説	飯森 由美	2	41	7	17.07	13	31.71	6	14.63		0.00	1			14
2	4524	論文演習	栗山 元子	2	60	16	26.67	19	31.67	9	15.00	4	6.67	2			10
2	4525	社会科概説Ⅰ	池田 宏樹	1	11	7	63.64	4	36.36		0.00		0.00				
2	4525	社会科概説Ⅰ	池田 宏樹	2	17	8	47.06	4	23.53		0.00		0.00				5
2	4526	生活概説	飯田 稔	1	11	3	27.27	8	72.73		0.00		0.00				
2	4526	生活概説	飯田 稔	2	19	4	21.05	8	42.11		0.00		0.00				7
2	4527	体育概説	三上 修二	1	17	15	88.24	2	11.76		0.00		0.00				
2	4527	体育概説	三上 修二	2	43	9	20.93	6	13.95	2	4.65	3	6.98				23
2	4528	器楽Ⅱ	高木 他	1	1		0.00		0.00		0.00		0.00				1
2	4528	器楽Ⅱ	高木 他	2	83	63	75.90	9	10.84	1	1.20		0.00				10
2	4529	声楽Ⅱ	絹川 文仁	2	11	5	45.45	5	45.45		0.00	1	9.09				
2	4530	国語科指導法	野口 芳宏	1	10	6	60.00	4	40.00		0.00		0.00				
2	4530	国語科指導法	野口 芳宏	2	45	22	48.89	17	37.78	2	4.44		0.00				4
2	4531	国語科指導法	野口 芳宏	1	12	10	83.33	2	16.67		0.00		0.00				
2	4531	国語科指導法	野口 芳宏	2	29	21	72.41	7	24.14		0.00		0.00				1
2	4532	算数科指導法	浅田 健嗣	1	11	6	54.55	4	36.36	1	9.09		0.00				
2	4532	算数科指導法	浅田 健嗣	2	30	12	40.00	8	26.67	8	26.67	2	6.67				
2	4533	算数科指導法	浅田 健嗣	1	13	11	84.62		0.00	2	15.38		0.00				
2	4533	算数科指導法	浅田 健嗣	2	16	6	37.50	6	37.50	3	18.75	1	6.25				
2	4534	理科指導法	内山 隆	1	2		0.00	2	100.00		0.00		0.00				
2	4534	理科指導法	内山 隆	2	33	10	30.30	10	30.30	11	33.33		0.00	1			1
2	4535	理科指導法	内山 隆	1	9	4	44.44	4	44.44	1	11.11		0.00				
2	4535	理科指導法	内山 隆	2	26	2	7.69	7	26.92	15	57.69	1	3.85				1
2	4536	理科指導法	内山 隆	1	10	7	70.00	3	30.00		0.00		0.00				
2	4536	理科指導法	内山 隆	2	23	1	4.35	12	52.17	6	26.09	3	13.04				1
2	4537	図画工作科指導法	三好 理夫	1	9	8	88.89	1	11.11		0.00		0.00				
2	4537	図画工作科指導法	三好 理夫	2	33	12	36.36	17	51.52		0.00	4	12.12				
2	4538	図画工作科指導法	三好 理夫	1	6	6	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4538	図画工作科指導法	三好 理夫	2	25	10	40.00	13	52.00	2	8.00		0.00				
2	4539	図画工作科指導法	三好 理夫	1	7	6	85.71	1	14.29		0.00		0.00				
2	4539	図画工作科指導法	三好 理夫	2	24	14	58.33	9	37.50		0.00	1	4.17				
2	4540	体育科指導法	三上 修二	1	8	6	75.00	2	25.00		0.00		0.00				
2	4540	体育科指導法	三上 修二	2	50	22	44.00	14	28.00	7	14.00	3	6.00				4
2	4541	体育科指導法	三上 修二	1	11	10	90.91	1	9.09		0.00		0.00				
2	4541	体育科指導法	三上 修二	2	26	16	61.54	5	19.23	3	11.54		0.00				2
2	4542	人間関係指導法	吉村 香	1	2	1	50.00		0.00	1	50.00		0.00				
2	4542	人間関係指導法	吉村 香	2	80	28	35.00	21	26.25	27	33.75	3	3.75	1			
2	4543	人間関係指導法	吉村 香	1	1		0.00		0.00		0.00	1	100.00				
2	4543	人間関係指導法	吉村 香	2	51	20	39.22	10	19.61	19	37.25	1	1.96				1
2	4544	健康指導法Ⅱ	菅 治子	2	55	12	21.82	22	40.00	13	23.64		0.00				8
2	4545	環境指導法Ⅱ	内山 隆	2	5	4	80.00		0.00		0.00		0.00	1			
2	4546	環境指導法Ⅱ	内山 隆	2	10	8	80.00	1	10.00		0.00		0.00				1
2	4547	音楽表現指導法Ⅱ	梶山 正人	2	32	13	40.63	17	53.13		0.00		0.00				2
2	4548	造形表現指導法Ⅱ	富田 陽子	2	22	8	36.36	3	13.64	2	9.09	1	4.55				8
2	4549	幼児理解	松田 清美	1	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4549	幼児理解	松田 清美	2	72	27	37.50	28	38.89	9	12.50	4	5.56				4
2	4550	幼児理解	松田 清美	2	62	12	19.35	43	69.35	5	8.06		0.00				2
2	4551	保育実践演習	横山 洋子	2	64	42	65.63	15	23.44	2	3.13	2	3.13				3
2	4552	保育実践演習	横山 洋子	2	62	32	51.61	22	35.48	2	3.23		0.00				6
2	4553	道德教育	飯田 稔	1	11	1	9.09	10	90.91		0.00		0.00				
2	4553	道德教育	飯田 稔	2	71	16	22.54	44	61.97	10	14.08		0.00				1
2	4554	特別活動	飯田 稔	1	11	2	18.18	9	81.82		0.00		0.00				
2	4554	特別活動	飯田 稔	2	71	11	15.49	51	71.83	8	11.27		0.00				1
2	4555	道德教育	飯田 稔	1	12	2	16.67	10	83.33		0.00		0.00				
2	4555	道德教育	飯田 稔	2	53	6	11.32	44	83.02	2	3.77		0.00	1			
2	4556	特別活動	飯田 稔	1	12	2	16.67	9	75.00	1	8.33		0.00				
2	4556	特別活動	飯田 稔	2	53	9	16.98	41	77.36	2	3.77		0.00	1			
2	4557	教育方法Ⅰ	佐久間 勝彦	1	22	19	86.36	2	9.09	1	4.55		0.00				
2	4557	教育方法Ⅰ	佐久間 勝彦	2	32	20	62.50	8	25.00	4	12.50		0.00				
2	4558	教育方法Ⅱ	横山 洋子	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00				
2	4558	教育方法Ⅱ	横山 洋子	2	52	41	78.85	5	9.62	5	9.62		0.00				1
2	4559	教育方法Ⅱ	横山 洋子	2	53	45	84.91	5	9.43	2	3.77		0.00				1
2	4560	生徒指導論	飯田 稔	1	12	5	41.67	7	58.33		0.00		0.00				
2	4560	生徒指導論	飯田 稔	2	69	25	36.23	32	46.38	8	11.59		0.00	1			3
2	4561	生徒指導論	飯田 稔	1	11	5	45.45	6	54.55		0.00		0.00				
2	4561	生徒指導論	飯田 稔	2	57	22	38.60	28	49.12	4	7.02		0.00	1			2
2	4562	教育相談	前原 吾朗	1	9	8	88.89	1	11.11		0.00		0.00				

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
2	4562	教育相談	前原 吾朗	2	71	26	36.62	10	14.08	30	42.25		0.00	3		2
2	4563	教育相談	前原 吾朗	1	7	4	57.14	1	14.29	2	28.57		0.00			
2	4563	教育相談	前原 吾朗	2	68	22	32.35	16	23.53	28	41.18		0.00	1		1
2	4564	総合演習Ⅱ	佐久間 勝彦	1	3	3	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4564	総合演習Ⅱ	佐久間 勝彦	2	18	7	38.89	3	16.67	6	33.33		0.00			2
2	4565	総合演習Ⅱ	浅田 健嗣	1	6	5	83.33	1	16.67		0.00		0.00			
2	4565	総合演習Ⅱ	浅田 健嗣	2	8	8	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4566	総合演習Ⅱ	内山 隆	1	9	7	77.78	2	22.22		0.00		0.00			
2	4566	総合演習Ⅱ	内山 隆	2	14	6	42.86	8	57.14		0.00		0.00			
2	4567	総合演習Ⅱ	竹内 紀吉	1	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4567	総合演習Ⅱ	竹内 紀吉	2	20	15	75.00	4	20.00	1	5.00		0.00			
2	4568	総合演習Ⅱ	絹川 文仁	2	22	4	18.18	16	72.73	1	4.55	1	4.55			
2	4569	総合演習Ⅱ	三好 理夫	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4569	総合演習Ⅱ	三好 理夫	2	20	15	75.00	4	20.00	1	5.00		0.00			
2	4570	総合演習Ⅱ	栗山 元子	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4570	総合演習Ⅱ	栗山 元子	2	20	6	30.00	10	50.00	3	15.00		0.00			1
2	4571	総合演習Ⅱ	海老原 信考	1	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4571	総合演習Ⅱ	海老原 信考	2	19	10	52.63	3	15.79	1	5.26		0.00			5
2	4572	教育実習	初教専任	1	26	19	73.08	6	23.08		0.00		0.00	1		
2	4572	教育実習	初教専任	2	138	53	38.41	70	50.72	9	6.52	4	2.90	2		
2	4574	教育学演習	大沼 徹	2	21	14	66.67	5	23.81		0.00		0.00			2
2	4575	指導要領・教育要領演習	飯田 稔	2	35	30	85.71	4	11.43		0.00		0.00			1
2	4576	社会科教育演習	佐久間 勝彦	2	19	12	63.16	4	21.05	3	15.79		0.00			
2	4577	教育方法演習	佐久間他	2	21	12	57.14	5	23.81		0.00		0.00			4
2	4578	レクリエーション概論	久米 秀作	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4578	レクリエーション概論	久米 秀作	2	6	2	33.33		0.00		0.00		0.00	3		1
2	4579	レクリエーション実技	三上 修二	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4579	レクリエーション実技	三上 修二	2	7	4	57.14	2	28.57		0.00		0.00			1
2	4580	音楽科指導法	梶山 正人	1	36	12	33.33	21	58.33	1	2.78		0.00			2
2	4580	音楽科指導法	梶山 正人	2	3		0.00	1	33.33	1	33.33		0.00			1
2	4581	基礎音楽	絹川 文仁	1	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
2	4582	基礎音楽	絹川 文仁	1	2		0.00	2	100.00		0.00		0.00			
2	4583	基礎造形	三好 理夫	1	35	21	60.00	13	37.14		0.00		0.00			1
2	4583	基礎造形	三好 理夫	2	3		0.00	1	33.33		0.00	2	66.67			
2	4584	教育情報処理	浅田 健嗣	2	14	5	35.71	2	14.29	1	7.14	4	28.57			2
3	6600	図書館経営論	竹内 紀吉	2	41	34	82.93	2	4.88	3	7.32		0.00			2
3	6601	生涯学習概論	竹内 紀吉	2	41	26	63.41	12	29.27	1	2.44		0.00			2
3	6602	図書館概論	竹内 紀吉	1	45	11	24.44	6	13.33	25	55.56		0.00			3
3	6603	図書館サービス論	竹内 紀吉	2	41	24	58.54	7	17.07	10	24.39		0.00			
3	6604	情報サービス概説	磯野 嘉子	2	41	34	82.93	3	7.32	2	4.88	2	4.88			
3	6605	レファレンスサービス演習	磯野 嘉子	2	41	13	31.71	17	41.46	7	17.07	2	4.88			2
3	6606	情報検索演習	加藤 多恵子	2	41	17	41.46	9	21.95	12	29.27		0.00	3		
3	6607	図書館資料論	竹内 紀吉	1	45	29	64.44		0.00	1	2.22	4	8.89			11
3	6608	専門資料論	加藤 多恵子	2	41	28	68.29	11	26.83		0.00		0.00	2		
3	6609	資料組織概説Ⅰ	磯野 嘉子	1	45	24	53.33	10	22.22	6	13.33	1	2.22	3		1
3	6610	資料組織概説Ⅱ	古賀 実生	1	45	25	55.56	14	31.11		0.00		0.00	6		
3	6611	資料組織演習Ⅰ	磯野 嘉子	1	45	26	57.78	5	11.11	2	4.44		0.00			12
3	6612	資料組織演習Ⅱ	古賀 実生	1	45	19	42.22	6	13.33	8	17.78		0.00			12
3	6613	児童サービス論	磯野 嘉子	2	41	19	46.34	16	39.02	2	4.88	2	4.88			2
3	6614	情報機器論	加藤 多恵子	2	35	9	25.71	22	62.86		0.00		0.00	4		
3	6615	図書及び図書館史	松島 義一	2	41	38	92.68	3	7.32		0.00		0.00			
3	6616	資料特論	松島 義一	2	27	24	88.89	3	11.11		0.00		0.00			
3	6617	図書館実務研修	磯野 嘉子	2	4	4	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	6618	図書館学演習	竹内 紀吉	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7700	図書館経営論	竹内 紀吉	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7700	図書館経営論	竹内 紀吉	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7701	生涯学習概論	竹内 紀吉	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7701	生涯学習概論	竹内 紀吉	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7702	図書館概論	竹内 紀吉	1	4	1	25.00		0.00	3	75.00		0.00			
3	7703	図書館サービス論	竹内 紀吉	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7703	図書館サービス論	竹内 紀吉	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7704	情報サービス概説	磯野 嘉子	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7704	情報サービス概説	磯野 嘉子	2	4	3	75.00		0.00	1	25.00		0.00			
3	7705	レファレンスサービス演習	磯野 嘉子	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7705	レファレンスサービス演習	磯野 嘉子	2	4	3	75.00		0.00		0.00		0.00			1
3	7706	情報検索演習	加藤 多恵子	1	3	1	33.33	2	66.67		0.00		0.00			
3	7706	情報検索演習	加藤 多恵子	2	2	1	50.00		0.00	1	50.00		0.00			
3	7707	図書館資料論	竹内 紀吉	1	4	1	25.00		0.00		0.00	1	25.00			2
3	7707	図書館資料論	竹内 紀吉	2	3	1	33.33		0.00		0.00		0.00			2
3	7708	専門資料論	加藤 多恵子	1	3		0.00	3	100.00		0.00		0.00			
3	7708	専門資料論	加藤 多恵子	2	2		0.00	2	100.00		0.00		0.00			
3	7709	資料組織概説Ⅰ	磯野 嘉子	1	3	1	33.33	1	33.33		0.00		0.00			1
3	7709	資料組織概説Ⅰ	磯野 嘉子	2	1		0.00	1	100.00		0.00		0.00			
3	7710	資料組織概説Ⅱ	古賀 実生	1	3	1	33.33	1	33.33		0.00		0.00	1		
3	7710	資料組織概説Ⅱ	古賀 実生	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7711	資料組織演習Ⅰ	磯野 嘉子	1	4	1	25.00	1	25.00		0.00		0.00			2
3	7712	資料組織演習Ⅱ	古賀 実生	1	4	1	25.00	1	25.00		0.00		0.00			2
3	7713	児童サービス論	磯野 嘉子	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7713	児童サービス論	磯野 嘉子	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00			
3	7714	情報機器論	加藤 多恵子	1	3	1	33.33	2	66.67		0.00		0.00			

別添資料2.

区分	授業コード	授業科目名	担当者名	学年	履修者数	優		良		可		不可		欠席		無資格		
						人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	人数	人数	人数	
3	7714	情報機器論	加藤 多恵子	2	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00					
3	7715	図書及び図書館史	松島 義一	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00					
3	7715	図書及び図書館史	松島 義一	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00					
3	7716	資料特論	松島 義一	1	1	1	100.00		0.00		0.00		0.00					
3	7716	資料特論	松島 義一	2	2	2	100.00		0.00		0.00		0.00					

## 平成15年度～17年度入試結果

## 平成15年度

学科	入試・区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	入学者数
商経科	AO入試		20	4	4	4	1.0	4
	附属高校・指定校推薦		70	88 (10)	88 (10)	88 (10)	1.0	87 (10)
	1期～4期推薦	一般	40	22 (7)	22 (7)	22 (7)	1.0	22 (7)
		特別		31 (9)	31 (9)	30 (9)	1.0	29 (8)
	1期～3期試験		30	41 (22)	39 (21)	39 (21)	1.0	34 (17)
小計			160	186 (48)	184 (47)	183 (47)	1.0	176 (42)
経営情報科	AO入試		15	2	2	2	1.0	2
	附属高校・指定校推薦		50	55 (7)	55 (7)	55 (7)	1.0	54 (7)
	1期～4期推薦	一般	20	4 (2)	4 (2)	4 (2)	1.0	4 (2)
		特別		5 (2)	5 (2)	5 (2)	1.0	5 (2)
	1期～3期試験		15	25 (17)	22 (15)	21 (14)	1.0	18 (13)
小計			100	91 (28)	88 (26)	87 (25)	1.0	83 (24)
初等教育科	AO入試		15	22 (6)	22 (6)	10	2.2	10
	附属高校・指定校推薦		50	113 (16)	113 (16)	96 (12)	1.2	95 (12)
	1期～4期推薦	一般	20	31 (8)	30 (8)	14 (3)	2.1	13 (3)
		特別		24 (7)	23 (7)	5 (2)	4.6	5 (2)
	1期～3期試験		15	42 (21)	41 (21)	8	5.1	5
小計			100	232 (58)	229 (58)	133 (17)	1.7	128 (17)
合計			360	509 (134)	501 (131)	403 (89)	1.2	387 (83)

## 平成16年度

学科	入試・コース・区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	入学者数						
ビジネスライフ学科	AO入試		20	16	16	16	1.0	16						
	附属高校・指定校推薦		100	76 (5)	76 (5)	76 (5)	1.0	76 (5)						
	1期～4期推薦	一般	50	41 (4)	41 (4)	41 (4)	1.0	41 (4)						
		特別		53 (14)	53 (14)	52 (13)	1.0	48 (10)						
	1期～3期試験		30	27 (12)	27 (12)	27 (12)	1.0	25 (12)						
小計			200	213 (35)	213 (35)	212 (34)	1.0	206 (31)						
こども学科	AO入試	初等教育	5	11 (5)	11 (5)	6 (3)	1.8	5 (2)						
		保育	10	49 (9)	49 (9)	22 (3)	2.2	21 (3)						
	附属高校・指定校推薦	初等教育	30	23 (6)	23 (6)	23 (6)	1.0	23 (6)						
		保育	45	59 (3)	59 (3)	59 (3)	1.0	59 (3)						
	1期～4期推薦	初等教育	10	45 (12)	45 (12)	35 (6)	1.3	34 (6)						
		保育							20	73 (11)	73 (11)	19 (2)	3.8	19 (2)
		初等教育								14 (3)	14 (3)	11 (1)	1.3	11 (1)
	1期～3期試験	保育	20	38 (9)	38 (9)	10	3.8	10						
		初等教育		初教 15	30 (12)	30 (12)	21 (8)	1.4	16 (5)					
	1期～3期試験	保育	保育 15	53 (16)	48 (13)	3	16.0	1						
計		初等教育	60	123 (38)	123 (38)	96 (24)	1.3	89 (20)						
	保育	90	272 (48)	267 (45)	113 (8)	2.4	110 (8)							
小計			150	395 (86)	390 (83)	209 (32)	1.9	199 (28)						
合計			350	608 (121)	603 (118)	421 (66)	1.4	405 (59)						

## 平成17年度

学科	入試・コース・区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	入学者数						
ビジネスライフ学科	AO入試		20	16 (3)	16 (3)	16 (3)	1.0	16 (3)						
	附属高校・指定校推薦		80	72 (7)	72 (7)	72 (7)	1.0	71 (7)						
	1期～4期推薦	一般	70	31 (2)	31 (2)	31 (2)	1.0	30 (2)						
		特別		36 (4)	36 (4)	36 (4)	1.0	35 (4)						
	1期～3期試験		30	46 (23)	46 (23)	45 (22)	1.0	39 (20)						
小計			200	201 (39)	201 (39)	200 (38)		191 (36)						
こども学科	AO入試	初等教育	5	18 (4)	17 (4)	12 (1)	1.4	12 (1)						
		保育	10	83 (8)	82 (8)	14	5.9	14						
	附属高校・指定校推薦	初等教育	25	29 (4)	29 (4)	29 (4)	1.0	29 (4)						
		保育	45	55 (3)	55 (3)	55 (3)	1.0	55 (3)						
	1期～4期推薦	初等教育	10	35 (8)	35 (8)	23 (4)	1.5	23 (4)						
		保育							20	111 (9)	111 (9)	22 (1)	5.0	22 (1)
		初等教育								20 (8)	20 (8)	14 (5)	1.4	12 (4)
	1期～3期試験	保育	20	33 (4)	33 (4)	3	11.0	3						
		初等教育		初教 20	48 (22)	47 (22)	22 (7)	2.1	21 (7)					
	1期～3期試験	保育	保育 15	43 (8)	38 (7)	9 (1)	4.2	5 (1)						
計		初等教育	60	150 (46)	148 (46)	100 (21)	1.5	97 (20)						
	保育	90	325 (32)	319 (31)	103 (5)	3.1	99 (5)							
小計			150	475 (78)	467 (77)	203 (26)	2.3	196 (25)						

別添資料	合	計		350	676 (117)	668 (116)	403 (64)	1.7	387 (61)
------	---	---	--	-----	-----------	-----------	----------	-----	----------

平成14年度～16年度 専任教員の研究実績表（学科等の順に記述）

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的活動の有無	社会的活動の有無	備考
			著作数	論文数	学会等発表数	その他			
ビジネス ネ ス ラ イ フ 学 科	池田 宏樹	教授	7	5		5		有	
	飯名 皓作	教授		4				有	
	井芹 康統	教授		10	14	2	有	有	
	岩田 壽夫	教授	4			4		有	
	玉置 友一	教授		1				有	
	中村 秀一	教授	1	3	1		有	有	
	西川 篤志	教授		1	1	1	有	有	
	山崎 徹	教授	3					有	
	和田 茂穂	教授	1		1			有	
	磯野 嘉子	助教授		1		1		有	
	市岡 義章	助教授	1	3		1	有	有	
	澤村 孝夫	助教授		2				有	
	杉田 あけみ	助教授	2	7	2	4		有	
	柳浦 恭	助教授	2					有	
	江上 邦博	助教授		6	8	2	有	有	
	藤本 幹子	名誉教授		1		7		有	
こ ど も 学 科	浅田 健嗣	教授		1				有	
	内山 隆	教授		5	7	1	有	有	
	大沼 徹	教授	1					有	
	齋藤 朗	教授	2			8		有	
	佐久間 勝彦	教授	1	1		4		有	
	竹内 紀吉	教授	1	1		7		有	
	三上 修二	教授	1	1		1		有	
	絹川 文仁	助教授				40			
	高木 誠	助教授	3	1		5			
	中島 千恵子	助教授		2		5		有	
	横山 洋子	助教授	3			14		有	
	磯村 陸子	講師	1	2					
	柏木 恭典	講師		1				有	
	栗山 元子	講師	2					有	
松田 清美	講師	3		1			有		
吉村 香	講師		1	1					
飯田 稔	名誉教授	3	6		7		有		

平成14年度～平成16年度 地方自治体の審議会、学術団体役員等への就任状況

氏名	学術団体名	役職名
池田 宏樹	・利根川文化研究会	会長
	・交通史研究会	
	・歴史学研究会	
	・地方史研究協議会	
	・関東近世史研究会	
	・千葉歴史学会	
	・千葉県袖ヶ浦市文化財実践委員	委員
飯名 皓作	・日本会計研究学会	
	・日本経営学会	
	・証券経済学会	
	・日本経営財務研究学会	
	・日本簿記学会	
	・日本経営教育学会	
井芹 康統	・日本物理学会	
	・情報処理学会	
	・American Physical Society (アメリカ物理学会)	
	・(社)私立大学情報教育協会 情報教育方法研究会	第1次選考会選考委員
岩田 壽夫	・日本簿記学会	
	・日本会計研究学会	
	・日本商業教育学会	
	・高等学校運営連絡協議会	委員
	(都立上野忍岡高等学校東京都教育委員会)	
(都立江東商業高等学校東京都教育委員会)		
玉置 友一	・画像電子学会	
	・電子情報通信学会	
	・映像情報メディア学会	
中村 秀一	・経営行動研究学会	理事 (研究委員)
	・進化経済学会	
	・日本経済政策学会	
	・経済学史学会	
	・ファッションビジネス学会	
	・International Society for the Study of European Ideas (ISSEI)	
	・日本学史学会	
・公共選択学会		

別添資料5.

氏 名	学 術 団 体 名	役 職 名
西川 篤志	・日本物理学会	
	・情報処理学会	
	・日本高圧力学会	
	・American Physical Society (アメリカ物理学会)	
山崎 徹	・日本会計研究学会	
	・日本簿記学会	
	・日本商業教育研究学会	監事
和田 茂穂	・日本商業学会	
	・日本経営教育学会	
	・文化経済学会	
	・日本経済研究センター	特別会員
	・日本インストアマーケティング協会	学術委員
	・私立大学情報教育協会短期大学会議運営委員会	委員長
磯野 嘉子	・日本図書館情報学会	
	・日本図書館協会教育部会	
	・図書館問題研究会	
	・児童図書館研究会	
	・東京子ども図書館	
	・日本私立短期大学協会図書館情報研究委員	委員
	・四街道市立図書館協議会	委員
	・千葉県優良図書審査委員	委員
	・千葉市生涯学習審議会	委員
	・財) 千葉市動物公園評議委員	委員
市岡 義章	・証券経済学会	
	・経済学史学会	
	・社会思想史学会	
	・イギリス哲学会	
澤村 孝夫	・日本会計研究学会	
	・日本簿記学会	
	・経営行動学会	
	・民生・児童委員 (厚生労働省、東京都足立区役所)	委員
杉田 あけみ	・オフィス・オートメーション学会	
	・日本ビジネス実務学会	
	・日本経営教育学会	本部幹事
	・経営哲学学会	
	・実践経営学会	

## 別添資料5.

氏名	学術団体名	役職名
杉田 あけみ	・日本経営学会	
	・千葉商工会議所ワープロ検定専門委員	専門委員
	・経営システム、社会政策学会、日本家政学会	
柳浦 恭	・上智大学言語学会	
	・日本英語文化学会	
江上 邦博	・教育システム情報学会	
	・情報処理学会	
	・日本物理学会	
	・日本花粉学会	
	・(社)私立大学情報教育協会	
	・短期大学部門会議運営委員会	委員
板倉 素子	・日本英文学会	
	・日本比較文学会	
	・日本キリスト教文学会	
	・比較思想学会	
	・全国英語教育学会	
	・International Comparative Literature Association	
藤本 幹子	・(学)中央大学	評議委員
	・日本ビジネス実務学会	理事
	・日本ビジネス実務学会 関東ブロック	運営委員
	・日本秘書教育学会	理事
	・(財)実務技能検定協会	理事
	・実務技能検定協会秘書検定部会	中央試験委員
	・(学)三橋学園船橋情報ビジネス専門学校	理事
浅田 健嗣	・日本数学会	
	・情報処理学会	
内山 隆	・日本花粉学会	庶務評議員
	・日本生態学会	
	・英国生態学会	
	・日本植生史学会	
大沼 徹	・日本理論心理学会	事務局長
	・日本スポーツ方法学会	
	・教育学研究の会	
	・日本現象学会	
	・佐原市次世代育成支援対策地域協議会	委員長

別添資料5.

氏 名	学 術 団 体 名	役 職 名
大沼 徹	・佐原市保育所指定管理者選定委員会	
齋藤 朗	・日本心理学会	
	・日本カウンセリング学会	
	・日本学生相談学会	
	・日本教育心理学会	
	・日本学校心理士会	
	・日本スポーツ心理学会	
	・日本体育学会	
	・学校心理士会（千葉）	
	・大学スクーバダイビング研究会	
	・関東女子バスケットボール連盟	理事
	・千葉いのちの電話	理事
佐久間 勝彦	・文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」審査部委員	委員
	・日本私立短期大学協会	理事
	・関東私立短期大学協会	副会長
	・千葉県道徳教育推進会議	代表
	・千葉県学力向上推進委員会	副会長
	・千葉県産業教育審議会	委員
	・千葉私立大学短期大学協会	理事
竹内 紀吉	・私立短期大学図書館協議会	会長
	・日本図書館協会	常任理事
	・日本図書館協会経営委員	委員長
三上 修二	・日本体育学会	
	・日本運動生理学会	
	・日本バイオメカニクス学会	
	・日本体育科教育学会	
	・日本スポーツ方法学会	
	・日本ソフトバレーボール連盟	理事・事務局長
	・関東短期大学バレーボール連盟	理事
横山 洋子	・日本保育学会	
	・平成16年保育士実技試験採点委員	採点委員
	(全国保育士養成協議会)	
磯村 陸子	・日本質的心理学会	
柏木 恭典	・教授学研究の会	

## 別添資料5.

氏 名	学術 団 体 名	役 職 名
栗山 元子	・平安朝文学研究会	編集委員
	・早稲田大学国文学会	
	・中古文学研究会	
松田 清美	・日本保育学会	
吉村 香	・日本保育学会	
	・日本乳幼児教育学会	
飯田 稔	・日本教育学会	
	・日本教育社会学会	
	・日本子ども社会学会	
	・関東教育学会	
菅 治子	・日本保育学会	
	・全国幼稚園教育研究協議会	